

授業概要

2023



浜松市立看護専門学校

目 次

項目・分野	科 目 名	P
目次		1～3
49・50回生シラバス (index)		4
教育理念 教育目的 ディプロマポリシー カリキュラムポリシー アドミッションポリシー		5～7
各分野・領域の考え方		8～20
進捗表		21～22
基礎分野	心理学	23
	論理学	24
	生活科学	25
	看護人間工学	26
	情報科学	27
	哲学	28
	倫理学	29
	教育学	30
	社会学	31
	人間関係論	32
	英語	33
	ART	34
	チームビルディング	35
	専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ
解剖生理学Ⅱ		37
解剖生理学Ⅲ		38
生化学		39
病理総論		40
疾病治療論Ⅰ		41
疾病治療論Ⅱ		42
疾病治療論Ⅲ		43
疾病治療論Ⅳ		44
疾病治療論Ⅴ		45
臨床治療論		46
感染症学		47
薬理学		48
臨床栄養学		49
リハビリテーション学		50
臨床推論		51
法律と医療		52
社会福祉Ⅰ		53
社会福祉Ⅱ		54
公衆衛生学		55
福祉レクリエーション	56	
専門分野	看護学概論	57
	看護理論	58
	看護過程	59

項目・分野	科目名	P
専門分野	フィジカルアセスメント	60
	共通看護技術論	61
	日常生活援助技術論Ⅰ	62
	日常生活援助技術論Ⅱ	63
	日常生活援助技術論Ⅲ	64
	回復促進援助技術論Ⅰ	65
	回復促進援助技術論Ⅱ	66
	臨床看護方法論	67
	地域・在宅看護概論	68
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	69
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	70
	地域・在宅看護援助論Ⅲ	71
	成人看護学概論	72
	成人看護援助論Ⅰ（健康障害別看護援助論Ⅰ）	73～74
	成人看護援助論Ⅱ（健康障害別看護援助論Ⅱ）	75～76
	成人看護援助論Ⅲ（健康障害別看護援助論Ⅲ）	77～78
	老年看護学概論	79
	老年看護援助論Ⅰ	80
	老年看護援助論Ⅱ	81
	小児看護学概論	82
	小児看護援助論Ⅰ	83
	小児看護援助論Ⅱ	84
	母性看護学概論	85
	母性看護援助論Ⅰ	86
	母性看護援助論Ⅱ	87
	母性看護援助論Ⅲ	88
	精神看護学概論	89
	精神看護援助論Ⅰ	90
	精神看護援助論Ⅱ	91
	精神看護援助論Ⅲ	92
	家族看護論	93
	生涯発達学	94
	経過別看護援助論Ⅰ	95
	経過別看護援助論Ⅱ	96
	経過別看護援助論Ⅲ	97
	基礎看護学実習Ⅰ	98
	基礎看護学実習Ⅱ	99
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	100
	経過別看護実習Ⅰ（成人看護学実習Ⅰ）	101
	老年看護学実習Ⅰ	102
	48回生カリキュラム（index）	103
教育課程の基本的な考え方	104	
教育理念 教育目的 教育目標	105～106	
学年目標	107～108	
進度表	109～111	

項目・分野	科目名	P
基礎分野	倫理学	1 1 2
	社会家族論	1 1 3
	多文化共生論	1 1 4
専門基礎分野	医療安全	1 1 5
	保健福祉行政論	1 1 6
専門分野Ⅱ	成人看護学実習Ⅲ	1 1 7
	老年看護学実習Ⅱ	1 1 8
	小児看護学実習	1 1 9
	母性看護学実習	1 2 0
	精神看護学実習	1 2 1
統合分野	看護管理	1 2 2
	救急・災害看護	1 2 3
	総合看護技術	1 2 4
	在宅看護論実習	1 2 5
	総合実習	1 2 6
全学年共通 (index)		1 2 7
履修科目別担当講師一覧		1 2 8～1 3 1
特別講義		1 3 2
年間行事予定		1 3 3
実習施設一覧表		1 3 4～1 3 5
実習ローテーション表		1 3 6

49・50回生カリキュラム

令和4年度入学生（49回生）より

保健師助産師看護師学校指定規則第5次改正に伴う

新カリキュラム

教育理念

本校は、ケアリングを基盤とした創造性豊かな看護実践力と自己成長し続ける力を持ち、多様な場で主体的に活躍できる人材の育成を目指す。

教育目的

豊かな感性と高い倫理観、科学的知識、確かな技術を統合し、創造的な看護実践力をもって、地域社会の人々の暮らしを支えるために、自ら行動できる看護師を育成する。

ディプロマポリシー：称号授与の方針（DP）／到達目標

I. 思いやる力

1. 自己の感情に目を向け、心と体を大切にすることができる。
2. 自己の経験や感性を使って相手の状況や感情に気づくことができる。
3. 相手のありのままを受け止め、わかろうとすることができる。
4. 相手と向き合い、成長し合う関係を築くことができる。

II. 実践する力

1. 直観的・批判的思考を用い、対象の望みを踏まえながら、課題解決に向かうことができる。
2. 科学的根拠に基づいた看護実践ができる。
3. 対象の健康的な生活に向けて看護を創造し、実践することができる。

III. 探求する力

1. 専門職としての責任を持ち、自己研鑽し続けることができる。
2. 成長し続けるために、自己を振り返る力を身につけることができる。
3. 新たな課題を見出し、主体的に学修に取り組むことができる。

IV. 協働する力

1. 変化する保健医療福祉システムと看護師の役割を理解することができる。
2. 地域社会の人々の健康的な生活に向けて、多職種との連携・協働に参加できる。
3. 世界の動向と健康との関連に関心を持つことができる。

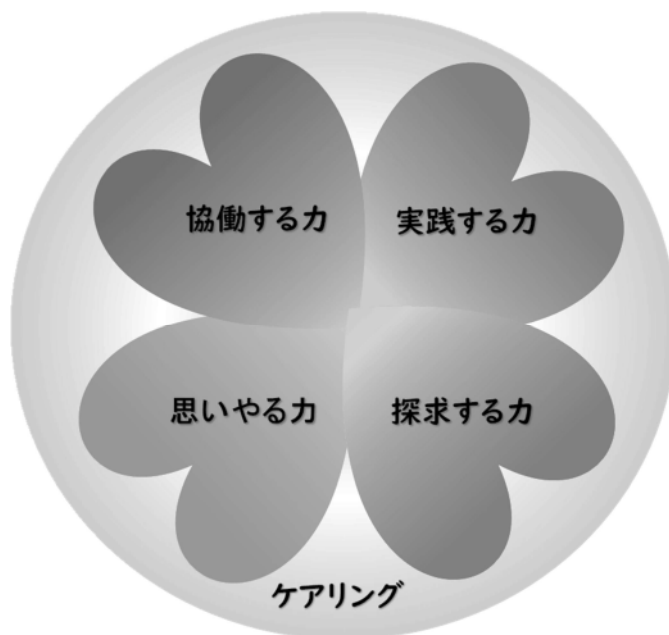
カリキュラムポリシー：教育方針(CP)

本校では、教育理念である「ケアリング」を基盤に、看護師として自他を尊重し、ともに成長しあう「思いやる力」と創造性豊かな看護実践が行える「実践する力」、看護職としての責任と自らの成長を育む「探求する力」、共生社会とグローバル化に対応し、多職種との連携・協働できる「協働する力」の4つの力を学年進行とともに段階的に身に付けられるよう学習するカリキュラムを編成しています。

カリキュラムは基礎分野科目（14単位）、専門基礎分野（22単位）、専門分野（67単位）によって構成しています。基礎分野は、看護を実践していくための科学的思考の基礎や人間と生活・社会の理解をする科目で構成され、専門基礎分野は、看護の対象理解の基盤となる人体の構造と機能や疾病の成り立ちと回復の促進、地域で暮らす人々の健康を支える基盤となる健康支援と社会保障で構成されています。専門分野は、看護学の専門的知識・技術を基礎から応用へと段階的に学修するための科目で構成されています。

本校では、学習の主体である学生が能力を最大限に発揮し、いきいきと看護を学べる環境を目指し、学習者と教育者がともに学習し成長していく関係を大切に教育を目指します。

- ・リフレクションによる経験の意味付けを通して、自身で成長し、学び続ける力（自己教育力）を育成します。
- ・学生一人ひとりの個性を生かした教育のために、少人数グループによる学修を取り入れるとともに、ラベルワークによる創造力や参画力の育成に力を入れています。
- ・看護専門職としての成長の核となる看護観の育成を図りながら、基本的な知識・技術・態度を習得し、確かな看護実践能力を育成・強化するために様々な科目にシミュレーション教育を取り入れています。



カリキュラムマップ

	DP1 思いやる力	DP2 実践する力	DP3 探求する力	DP4 協働する力
三 年 次	精神看護学実習	総合実習 小児看護学実習 老年看護学実習Ⅱ 総合看護技術 母性看護学実習 成人看護学実習Ⅱ 災害看護	看護研究	地域・在宅看護論実習Ⅱ 多職種連携 国際看護 看護管理 医療安全 多文化共生論
二 年 次	ART 教育学 チームビルディング 倫理学	成人看護学実習Ⅰ 成人看護援助論Ⅰ～Ⅲ 精神看護援助論Ⅰ～Ⅲ 地域・在宅看護援助論Ⅱ 臨床治療論 回復促進援助技術論Ⅰ～Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護援助論Ⅰ～Ⅱ 母性看護援助論Ⅰ～Ⅲ 看護過程 看護理論 経過別看護Ⅰ～Ⅲ リハビリテーション学		地域・在宅看護援助論Ⅲ 福祉レクリエーション 公衆衛生学 社会福祉Ⅱ
一 年 次	人間関係論 心理学	基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学概論 精神看護学概論 臨床看護方法論 フィジカルアセスメント 看護学概論 感染症学 看護人間工学 老年看護学概論 家族看護論 生涯発達学 共通看護技術論 疾病治療論Ⅰ～Ⅴ 生化学 母性看護学概論 地域・在宅看護援助論Ⅰ 地域・在宅看護概論 臨床推論 情報科学 日常生活援助技術論Ⅰ～Ⅲ 臨牀栄養学 解剖生理学Ⅰ～Ⅲ 薬理学 病理総論	哲学 生活科学 論理学	地域・在宅看護論実習Ⅰ 英語 社会学 社会福祉Ⅰ 法律と医療

アドミッションポリシー：入学者の受け入れ方針（A P）

- I. 看護に関する学修を意欲的に行える人
- II. 看護を学ぶための必要な基礎学力と論理的思考力のある人
- III. 他者に関心を持ち、多様な人とコミュニケーションをとることができる人
- IV. 主体的に考え、発言し、行動できる人
- V. 地域への貢献に意欲がある人
- VI. 人に親切で誠意のある人

基礎分野の考え方

【基礎分野の考え方】

看護の対象は人間である。人間は全人的な存在であり、他者を含めた環境の中で相互に作用しながら暮らしを営んでいる。看護を提供するには、人間とその生活やとりまく環境や社会の仕組みに関する知識やコミュニケーション能力のほか、科学的思考力や豊かな感性、高い倫理観が必要となる。また、保健医療福祉分野は多職種連携が不可欠であり、早期からチームについて学ぶ必要がある。さらに、情報化社会に対応できる基礎的な情報通信技術能力育成のほか、国際化に対応できるよう多様な文化・価値観を学び、それらを尊重する姿勢の育成を図る必要がある。

そこで、下記の科目から構成される基礎分野を専門基礎分野と専門分野を学ぶ基礎と位置づけ、本校の教育目的であるケアリングを基盤とした看護実践に必要な基礎的能力を育成できるようにした。

【科目の設定及び設定理由】

	科目名	科目の設定理由
科学的思考の基盤	心理学	人間の心のしくみや働きについての基礎知識を習得することで、自己理解と他者理解を深めるとともに、他者との関係構築に必要なコミュニケーションのほかカウンセリングに関する基礎知識を習得するため、この科目を設定した。
	論理学	看護は実践の科学であり、その基盤となる論理的・批判的思考と他者に正確に伝える技術を習得するため、この科目を設定した。
	生活科学	看護の対象は地域で暮らす人であり、看護は健康に注目しながら日常生活援助を行うものである。そこで、科学的視点から暮らしに対する理解を深めるため、この科目を設定した。
	看護人間工学	看護においては安全が最優先であるとともに、安楽であり快適な環境提供も重要である。そこで、対象と看護者、環境をシステムととらえ、科学的でよりよい看護を提供するために必要な基本知識を習得するため、この科目を設定した。
	情報科学	情報化社会を概観し、ICT 活用と倫理的視点を学ぶとともに、文献検索方法や統計学の基礎知識を習得するため、この科目を設定した。
人間の生活・社会の理解	哲学	患者・利用者は決して看護の対象として存在するのではなく、一人の人間として存在するという当然のことを深く考えることを通して、人間として存在することについて理解を深めるため、この科目を設定した。
	倫理学	臨床倫理の原則を踏まえて倫理的な問題を解決する方法を考え、特に患者の権利等を理解したうえで健康と病について看護の視点から評価し、倫理的ジレンマの存在を認識できる能力を養うため、この科目を設定した。
	教育学	学ぶことで生涯発達し続ける存在として人をとらえ、その成長を支援するために必要な基礎知識の習得のほか、看護師として生涯成長し続ける意義について理解するため、この科目を設定した。
	社会学	看護は、社会の中で生活し、社会を構成している全ての人々を対象に行われる専門的な営みであるため、現代社会における健康と医療について社会学の視点で捉え、医療従事者の役割について理解するため、この科目を設定した。
	人間関係論	看護は対象との信頼関係を基盤とする。医療人として良好な人間関係を築くために必要な自己理解とコミュニケーション、集団における相互作用について学習するため、この科目を設定した。

多文化共生論	地域には多様な文化背景を持つ人が暮らしており、互いの価値観と多様性を尊重しあう共生社会について学ぶ必要がある。また、ブラジルにルーツをもつ住民が多いという地域特性を踏まえ、基礎的なポルトガル語を習得するため、この科目を設定した。
英語	グローバル化は人々の生活だけでなく医療現場にも影響を及ぼしている。世界の公用語としての英語を学ぶことで世界情勢への関心を高め、国際的な交流への参加や最新の知見に触れるための基礎力育成のため、この科目を設定した。
ART	看護は、対象のわずかな変化に気づく力や、相手の思いを感じ取る力があってはじめて可能となるものである。芸術に触れることで豊かな感性を育てるとともに、自己表現を通して自他の独自性に気づきそれらを尊重する姿勢を育むため、この科目を設定した。
チームビルディング	保健医療福祉においては専門職としてチームで協働することが不可欠である。そのために必要な基本的知識を学ぶとともに、自己理解・他者理解を深め、チーム活動に必要な姿勢とスキルを習得するため、この科目を設定した。

専門基礎科目

【専門基礎科目の考え方】

看護学の観点から人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障がいに関する観察力、判断力、思考力を育成するため、看護実践の基盤として学ぶことができるようにした。また、新たに臨床判断能力や既習の知識を活用する力の育成・強化を目指す科目を追加した。

健康支援と社会保障制度については、人々が生涯を通じて、健康や障がいの状況に応じて、暮らしを継続できるよう、看護師として必要な知識と基礎的な能力を養うことを目指した。

【科目の設定及び設定理由】

	科目名	科目の設定理由
人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ	病態の理解や日々の生活行動を援助するために必要な身体の構造や生理的な機能について基本的知識を習得するためにこの科目を設定した。
	生化学	生体の成り立ちとヒトの身体を構成する最小基本単位である細胞の構造や機能について基礎的知識を習得するためにこの科目を設定した。
	疾病治療論Ⅰ～Ⅴ	疾患をもつ対象に対して個別的な看護を展開するために必要であるさまざまな病態・診断・治療法などの知識を習得するためにこの科目を設定した。
	臨床治療論	対象の状態把握のための臨床検査の意義や目的、方法を理解するとともに健康障害から回復するための治療とその看護について学び、看護実践のための基礎とするためにこの科目を設定した。
	感染症学	感染症の原因である微生物の性質や感染に対する人間の反応を理解し、感染を予防するための看護師の役割や看護技術について知識だけでなく、技術を習得するためにこの科目を設定した。
	薬理学	人間の健康改善や増進のために利用される薬物に関する基本的な知識と対象への的確な薬物用法を行うために必要な基本的な考え方を習得するためにこの科目を設定した。
	臨床栄養学	人間の身体構成や活動の基礎となる食べる事の大切さを知り、看護の対象への健康支援と食事との関連性・重要性を理解し、治療の一環である食事療法の援助の基礎となる知識を習得するためにこの科目を設定した。
	リハビリテーション学	健康障害からの回復や生活行動の維持に必要なリハビリテーションの概念とリハビリテーション療法の中で看護が果たす役割を理解するための知識と技術を習得するためにこの科目を設定した。
	臨床推論	看護実践の基盤となる「看護師の思考」を身に付けるため、タナーの臨床判断モデルにある「気づく」力・「解釈する」力を育成するためにこの科目を設定した。
健康支援と社会保障制度	法律と医療	看護師としての責務を果たすために、医療保健福祉に関連した法律・法規や看護関係法令に関する知識を習得するためにこの科目を設定した。
	医療安全	医療事故の危険性の予測や回避し、安全で質の高い看護を提供するために、医療事故・医療過誤に関する知識を習得するためにこの科目を設定した。
	社会福祉Ⅰ～Ⅱ	新たな「共生社会」のあり方の基盤である社会保障や社会福祉の歴史、理論、システムを学び、それがどのように人々の生活を支えているのかを理解し、浜松市における現状を知るためにこの科目を設定した。

	公衆衛生学	すべての発達段階にある人々が健康に生活できるよう、人々を取り巻く集団や社会、環境といった公衆衛生の基礎知識を習得し、公衆衛生活動における看護の役割を考えることができるようこの科目を設定した。
	福祉レクリエーション	生活に楽しみを見出し、生きる意欲を獲得・向上するための福祉レクリエーションを通じた支援のあり方や技術を習得するためにこの科目を設定した。

専門分野

【専門分野の考え方】

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、各専門領域と看護の統合と実践で構成されている。基礎分野と専門基礎分野では人と健康、生活、環境、社会に関する基礎知識を習得し、看護師に求められる姿勢や倫理観についても学んだ。専門分野ではこれらをもとに、ケアリングを基盤とした看護実践に必要な知識・技術・態度を習得する。

今回のカリキュラム改正では、臨床判断能力の強化ほか、地域で生活する人々とその家族の理解と地域における様々な場での看護と多職種連携について理解し連携・協働する力の育成を強化する。まず臨床判断能力育成については、新たに設定した専門基礎科目の臨床推論をもとに、専門分野にて効果的に臨床判断能力を育成できるようにした。

また、地域で生活する人々とその家族の理解や、地域における様々な場での看護と多職種と連携・協働する力については、3年間を通じて地域・在宅看護論を学ぶことで基礎的能力を育成できるように設定した。基礎看護学で看護の基盤を学びつつ、並行して地域・在宅看護論を学ぶ。これにより、地域で暮らす人々と家族のありよう、地域住民や多職種とのパートナーシップを基盤とした看護について理解を深める。これをもとに各専門領域での学びが深まるようにすることで、対象の立場に立った倫理的配慮と科学的根拠に基づき、多職種と連携しながら看護実践できる基礎的能力を育成できるようにした。看護の統合と実践では、急速な少子高齢化や慢性疾患の増加、暮らしの多様化やグローバル化、災害の増加、医療技術の進歩などの看護を取り巻く環境の大きな変化と、それに伴う看護業務の複雑・多様化や国民の医療安全に関する意識の向上に対応できるよう、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した知識・技術・態度を統合し、探求する力の育成とともにあらゆる看護実践場面で活用する能力を育成できるようにした。

さらに、今回のカリキュラム改正では領域横断科目を設定した。領域横断しての学習が効果的であると判断した「家族看護論」「生涯発達学」「経過別看護」を新たに設定した。この背景として、加速する少子高齢化と疾病構造の変化がある。家族をまるごと看護の対象としてとらえるとともに、生涯を通して発達し続ける存在として看護の対象を理解する。ヘルスプロモーションを含む各健康段階と看護について体系的に学ぶことで、地域で暮らす人の健康と看護について理解し実践能力を育成できるようにした。

領域横断科目については、下記に科目名と設定理由を示す。

【領域横断科目の設定及び設定理由】

科目名	科目の設定理由
家族看護論	健康課題をもつ人を含む1単位の家族を看護の対象として捉え、家族が望む生活を主体的に営むことを目指す家族看護の基本的な考え方と援助を理解するため、この科目を設定した。
生涯発達学	各発達段階の基本的特徴と発達に影響を及ぼす要因について理解するとともに、誕生から死までの全生涯のプロセスを体系的に学ぶため、この科目を設定した。
経過別看護Ⅰ	各健康段階にある人の理解とその段階に特異的な看護のあり方、方法を学習するために、これらの科目を設定した。
経過別看護Ⅱ	
経過別看護Ⅲ	

【科目と単位の設定】

科目名	地域・在宅	成人	老年	小児	単位数
家族看護論	0.5	0.1	0.2	0.2	1
生涯発達学	0	0.4	0.3	0.3	1
経過別看護Ⅰ	0.1	0.6	0.1	0.2	1
経過別看護Ⅱ	0.2	0.4	0.2	0.2	1
経過別看護Ⅲ	0.2	0.5	0.2	0.1	1
単位数	1	2	1	1	5

基礎看護学

【基礎看護学の考え方】

看護師には、対象を生活者として捉え、生まれてから死に至るまでの人間の健康に関わり、生活を整え日常生活への適応を援助するという役割がある。基礎看護学は、各専門領域の看護実践を支える共通の概念を理解し看護技術の習得をするとともに、対象の思いを汲み取り、「看護とは」を考え続け主体的に行動できる看護師としての態度形成、看護観の構築を目指す。

【目的】

看護の基礎となる主要概念を理解し、看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学び、看護の専門性を追求していく基礎的能力を育成する。

【科目の設定及び設定理由】

科目名	科目の設定理由
看護学概論	看護学の発展の歴史的背景を踏まえ、看護学の主要概念を学び、現代における看護の役割や機能、看護活動についての理解を深めるとともに、看護観を育むために設定した。
看護理論	看護が科学的であるためには、理論的根拠をもち事象を記述、解釈し、結果を予測したうえで実践することが必要になる。そこで、看護理論や人間科学に関する理論の基礎知識の習得と理論の活用方法を理解するために設定した。
看護過程	看護実践に必要な問題解決思考の基本を理解し、対象の生活上のニーズや諸問題を明らかにする。また、ニーズを満たし、諸問題の解決に向けた援助を提供するための考え方を理解するために設定した。
フィジカルアセスメント	対象の身体状態の把握、身体的ケアを実施する上での根拠、実施したケアの評価に必要な情報を得るためのフィジカルイグザミネーションを習得し、アセスメントを行う基盤とするために設定した。
共通看護技術論	看護を成立するための看護技術の概念を理解し、看護の対象が必要としている援助を見出すために必要となる様々な看護活動の場で共通する基本援助技術を学ぶために設定した。
日常生活援助技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	対象に必要な健康生活に欠かすことができない日常生活援助技術の基礎を学ぶ。対象の健康レベル、自立度、個別性を意識し、安全・安楽な援助を目指し、原理・原則を踏まえた技術を習得するために設定した。
回復促進援助技術論Ⅰ・Ⅱ	医師と共に協働して進められる診察と治療に伴う基本技術を学ぶ。対象に適切な診察が行われるように原理・原則を踏まえ、その場に応じて判断・実施できるための基本的能力を習得するために設定した。
臨床看護方法論	健康障害をもつ対象とその家族について理解を深め、健康障害の各経過において必要となる看護や健康障害により生じる主要な症状に対する看護の基礎を学ぶために設定した。
基礎看護学実習Ⅰ	健康障害を持ちながら病院という場で生活している対象を理解し、対象の症状に注目して看護上のニーズを見出し、看護実践に繋げるプロセスを学ぶために設定した。
基礎看護学実習Ⅱ	発達段階における対象の特徴及び健康についての既習の知識・技術をもとに健康レベルに応じた看護実践の基礎を学ぶために設定した。

地域・在宅看護論

【地域・在宅看護論の考え方】

社会の変化に伴い、公助・共助を基盤とする社会支援体制の仕組みは変更を余儀なくされ、看護の対象は「療養する人々」から「地域で暮らす人々すべて」となり、看護は「互助」「自助」を支援する役割とともに、地域の人々が暮らすあらゆる場での活動が求められるようになった。「地域で暮らす人」を看護の対象として理解するためには、地域や暮らしを個人、家族、地域社会・環境、生活、健康との関連において理解し、対象を暮らす連続体として捉え、生活者としての共感的理解が重要となる。

また、多様なケア環境とチーム体制整備に関する実践能力が求められ、看護職として自らが参加するだけでなく、他者に働きかけ、協働を促進し、新たなシステムを構築する能力が必要とされる。多職種連携では、協働する専門職、互助を促進する地域の多種多様な人、自助を高める一人ひとりとのパートナーシップに基づいた関係を築くことが求められる。

そのため、どのような社会に変化しても、対象をその暮らしから分かってほしい、どのような健康レベルにおいてもその人の暮らしの継続、望みの実現を目指し、必要であれば新たなシステムを創造できるパートナーシップを基盤とした支援を学ぶ。

【目的】

地域包括ケアシステム等を促進し、地域に暮らす人々とのパートナーシップに基づき、生活する人とその家族（対象）の健康と暮らしを継続的に支援する能力を育成する。

【科目の設定及び設定理由】

科目名	科目の設定理由
地域・在宅看護概論	地域で暮らす人々の多様性と暮らしを自己を通して理解し、地域を展望する俯瞰の目と生活者としての自己を投入して我が事として対象を見る視座を修得する。また、地域・在宅看護論の対象の理解、暮らしと健康の関係を理解して支える仕組み、地域包括ケアシステムの意義と概念、展開される多様な場を学ぶため、この科目を設定した。
地域・在宅看護援助論Ⅰ	暮らしを支える法・制度・施策の活用について学び、地域包括支援体制の理解と、その一員としての看護が基盤とすべき理念と役割を学ぶ。変化の渦中にある現体制を踏まえて暮らしに必要な新たな社会システムの創造の必要性についても看護の課題であることを学ぶため、この科目を設定した。
地域・在宅看護援助論Ⅱ	地域で生活しているハイリスクな状態の人々の健康の保持増進・疾病の予防にかかわる看護の視点、パートナーシップに基づいたセルフケアマネジメント支援の概要を学ぶ。また、地域で療養生活を送る人と家族、地域の特性を含めてアセスメントし、望みと QOL の向上に向けて、療養者と家族、多職種とのパートナーシップを活用した看護の方向性を学ぶため、この科目を設定した。
地域・在宅看護援助論Ⅲ	対象を連続体として捉え、健康レベルや場の移行に伴う看護を学ぶ。健康レベルに応じた看護の介入時期の判断や、療養者・家族の意向を重視したパートナーシップに基づいた在宅における医療・看護の特徴を学ぶ。継続看護の意義や方法についても学ぶため、この科目を設定した。
地域在・宅看護論実習Ⅰ	地域包括ケアシステム等のサービスが提供される多様な場を知る。協働の実際、暮らしに困難を抱えながらも暮らしを継続している対象を理解し、健康と暮らしを支援する看護を学ぶため、この科目を設定した。
地域・在宅看護論実習Ⅱ	あらゆる健康レベル・サポートの場にある多様な対象に対しての看護の機能と役割を理解し、パートナーシップに基づく人々の暮らしを守る看護を学ぶため、この科目を設定した。

成人看護学

【成人看護学の考え方】

成人期はライフサイクルの中で最も長く、幅広い年齢層で構成されている。個人の価値観や人生観が形成される年代であり、個別性・個人差がある。また、心身の成長・成熟・衰退をたどり、社会的存在としての発達課題の著しく変化する年代である。加えてライフスタイルも多種多様であり、現在の社会状況からとらえてもストレスを最も受け、健康障害も多種多様である。

そのため、成人期の普遍的な特徴を踏まえてから対象の個別性を理解し、健康に焦点を当てながら、その人らしく生き生きと充実した生活を送れるように援助することを学ぶ内容とした。

【目的】

成人期の普遍的な特徴から対象の個別性を理解し、健康に焦点を当てながら、その人がその人らしく生き生きと充実した生活を送れるように援助することを学ぶ。また、クリティカルシンキング能力を高め、あらゆる健康状態にある人に対して、看護過程を展開する上での主要な看護理論を学び、成人看護の有用性について学ぶ。

【科目の設定及び設定理由】

科目名	科目の設定理由
成人看護学概論	成人期にある人に関連した健康問題をライフサイクル・ライフスタイルに関連付けて理解し、健康問題の動向と予防対策を保健活動の視点と健康障害をもつ成人期にある人の看護の基本について理解するためにこの科目を設定した。
成人看護援助論Ⅰ (健康障害別看護援助論Ⅰ)	身体の様々な機能障害とそれらがもたらす生命・生活への影響を理解し、呼吸機能障害、循環機能障害、腎・生殖機能・排泄機能障害を持つ人の外科的・内科的療法の基本的看護活動を理解するためにこの科目を設定した。
成人看護援助論Ⅱ (健康障害別看護援助論Ⅱ)	身体の様々な機能障害とそれらがもたらす生命・生活への影響を理解し、消化・吸収／栄養代謝、排泄機能、性・生殖機能について、外科的・内科的療法の基本的看護活動について理解するためにこの科目を設定した。
成人看護援助論Ⅲ (健康障害別看護援助論Ⅲ)	身体の様々な機能障害とそれらがもたらす生命・生活への影響を理解し、人体の調整機能である脳・神経、内部環境調整、生体防御、感覚機能について、外科的・内科的療法の基本的看護活動を理解するためにこの科目を設定した。
経過別看護実習Ⅰ (成人看護学実習Ⅰ)	実際の療養環境に生活する各対象の特徴および健康について理解すると共に、場面の再構成を通し看護の基礎となる人間対人間の関係のプロセスについて経験することができようこの科目を設定した。
経過別看護実習Ⅱ (成人看護学実習Ⅱ)	生活する中での一部分である療養中の対象に対し、その個人と家族を多角的・全人的に捉え、主体的かつ批判的思考に基づいて判断し、あらゆる健康レベルに応じた看護実践をするための知識・技術・態度を修得する。また、多職種連携の役割と協働について知ることができるようにこの科目を設定した。

老年看護学

【老年看護学の考え方】

老年期にある人は、加齢にともなう変化に合わせて、暮らしも変化させている。また、成熟・統合という課題の達成に向けて、自らのもてる力や強みを活用し発達している尊厳ある人である。老年看護学では、高齢者から学ぶ姿勢や自己の倫理観を養い、あらゆる場での高齢者の健康生活を支える看護専門職として、社会の動きに関心を持ち、多職種との協働のもと責任ある役割を果たすことのできる高い実践力を育成したいと考える。

【目的】

社会の動向や問題に関心を持ち老年期の特性を理解して、高齢者のもてる力や強みを引き出し、その人や家族の望ましい姿に向け支援する基礎的能力を育成する。

【科目の設定及び設定理由】

科目名	科目の設定理由
老年看護学概論	高齢者を全体的に理解する諸概念を学び、高齢者の個別性を捉える視点を理解する。また高齢者の健康と生活、環境の課題や、高齢者を取り巻く社会について理解し、倫理的基盤に立ち実践する老年看護の基礎を理解するために、この科目を設定した。
老年看護援助論Ⅰ	高齢者のアセスメントに必要な加齢に伴う変化を理解し、高齢者の生活機能に焦点を当てた看護を展開するための基礎的能力を身に着けるために、この科目を設定した。
老年看護援助論Ⅱ	老年看護の役割と機能を踏まえ、高齢者のアセスメントに必要な病態と生活機能との関連を理解し、健康逸脱からの回復に対する看護の展開について学ぶ。また、ICFの理念に基づき生活機能に着目した目標志向型思考について学ぶために、この科目を設定した。
老年看護学実習Ⅰ	高齢者の特徴を理解し生活している人として捉え、自己の老年観を拡大した上で、その多様性を理解し、高齢者の尊厳を尊重した態度を修得するために、この科目を設定した。
老年看護学実習Ⅱ	加齢に伴う変化と疾病による影響を踏まえ、生活機能と健康状態を査定し、その人や家族の望ましい姿に向け支援する看護実践の基礎を修得するために、この科目を設定した。

小児看護学

【小児看護学の考え方】

小児看護の対象は子どもとその家族である。子どもは、自らのもてる力と適切な環境との相互作用の中で成長・発達していく過程にあり、年齢や健康レベルにかかわらず権利を有し行使できる主体である。家族とともに子どもの健やかな成長・発達を遂げられるよう支援し、子どもの最善の利益を守るための看護を学ぶ。

【目的】

子どもと家族がおかれている状況を的確に判断し、最良の健康状態を維持するとともに、健やかに成長・発達することができるよう、子どもの最善の利益を目指して子どもの権利を尊重しながら健康状態に応じた子どもと家族に対する看護に必要な基礎的能力を育成する。

【科目の設定及び設定理由】

科目名	科目の設定理由
小児看護学概論	小児看護の理念・役割・倫理と子どもの権利について学び、現代社会における子どもと家族の特徴をふまえ、成長・発達過程にある子どもと家族の支援に必要な基礎知識を活用するためにこの科目を設定した。
小児看護援助論Ⅰ	小児期に特有な健康障害を学習し、それをもつ子どもと家族について理解し、子どもの最良の健康状態を保持・増進するための援助、及び健康問題に対しての援助を理解するためにこの科目を設定した。
小児看護援助論Ⅱ	健康障害をもつ子どもと家族を理解し、子どもの成長・発達の妨げを最小限にし、最善の利益を目指した看護実践に必要な知識と看護技術を学び、子どもと家族の状況に合わせた適切な援助をするためにこの科目を設定した。
小児看護学実習	看護の対象である子どもとその家族について望ましい養育環境と成長・発達を促す関わりを理解し、健康障害がみられる対象と援助関係を形成しながら、状態に応じた必要な基礎的看護実践能力を育成するためにこの科目を設定した。

母性看護学

【母性看護学の考え方】

社会の変化に伴い、女性の生き方が多様化したことで、現代に生きる女性の生涯は従来とは大きく変わりつつある。そのライフサイクルの中で自己決定をし、自分らしく健康的に生きていく存在として女性を捉えることが重要となる。そのため、母性看護学では、リプロダクティブヘルス/ライツの考え方に基づき、女性の生涯を通じた健康の保持・増進と次世代の育成に向けた支援を学ぶ。

【目的】

女性の一生を通じた健康の保持・増進と次世代の健全育成を支えていくため、多様化するウイメンズヘルスの在り方を知ると共に対象のセルフケア能力を高め、ライフサイクル全体の健康をサポートできる基礎的能力を育成する。

【科目の設定及び設定理由】

科目名	科目の設定理由
母性看護学概論	女性の健康を支援するために、人の生涯を通じた性と生殖ならびに母子や女性のライフステージにおける健康課題を理解し、女性の一生を通じた健康の保持・増進と次世代育成を支援するための母性看護の役割や機能について学ぶため、この科目を設定した。
母性看護援助論Ⅰ	マタニティサイクル（妊娠期・分娩期）にある母子とその家族の身体的・心理的な特徴と健康課題や健康問題を理解し、必要な看護について学ぶため、この科目を設定した。
母性看護援助論Ⅱ	マタニティサイクル（産褥期・新生児期）にある母子とその家族の身体的・心理的な特徴と健康課題や健康問題を理解し、必要な看護について学ぶため、この科目を設定した。
母性看護援助論Ⅲ	マタニティサイクルにある対象を捉える力や対象に合った看護を導き出す力を身に付けるために、模擬事例を通してマタニティサイクル各期の母子およびその家族に対する看護が考えられよう、この科目を設定した。
母性看護学実習	マタニティサイクルにある対象の身体的・心理的特徴と健康課題の理解、女性の生き方や命に対する考えを深め、健康支援の在り方および看護の役割について学ぶため、この科目を設定した。

精神看護学

【精神看護学の考え方】

精神看護学は、こころの健康の維持・増進に主眼をおく精神保健と、精神障がいをもつ人への看護を中心に据える精神科看護からなるものである。従って、精神看護の対象は、すべての発達段階にある人であり、すべての健康段階にある人である。つまり、精神疾患の予防のほか、精神障がいをもつ人ならびに身体疾患をもつ人への看護を担う。こころのありように焦点を当てつつ、全人的に対象をとらえ、苦難の中にあっても生きる意味を見出し、その人らしい生活を支えることを目指す。そのためには対象に関心を寄せ、対象を理解しようとする姿勢が重要である。対象理解を深め、自身を看護の道具として活用しながら関係構築し看護を提供することと、それらに必要な自己理解を目指す精神看護学は、すべての看護領域の基盤となるものであると考える。

【目的】

対象を一人の生活者としてとらえ、人権尊重と全人的理解、関係構築をもとにした精神看護の提供に必要な基礎的能力と姿勢を育成する。

【科目の設定及び設定理由】

科目名	科目の設定理由
精神看護学概論	精神看護学とは何かを概観し、もっとも基礎的な知識であるこころの構造や機能を理解したうえで、精神保健の役割と精神保健医療の現状と課題に対する理解を深めるため、この科目を設定した。
精神看護援助論Ⅰ	主な精神疾患とその治療を学ぶとともに、精神医療の歴史を知ることを通して人権について考え、精神障がいをもつ人の体験を知るとともに自身の感情への気づきを深めるため、この科目を設定した。
精神看護援助論Ⅱ	対象理解と自己理解、関係構築に必要な治療的コミュニケーションやリフレクションについて学び、精神症状がセルフケアに及ぼす影響と看護を学ぶため、この科目を設定した。
精神看護援助論Ⅲ	精神障がいをもちながら地域で暮らす人の思いや体験を理解するとともに、地域精神医療福祉にかかわる法律・制度、多職種連携について学ぶ。さらに、リエゾン精神看護の役割について理解を深めるとともに、模擬事例の検討を通して看護師に求められる姿勢や思考の基礎を学ぶため、この科目を設定した。
精神看護学実習	精神障がいをもつ人を一人の生活者としてとらえ、人権尊重と援助関係に基づいた看護実践の基礎を学ぶため、この科目を設定した。

看護の統合と実践

【看護の統合と実践の考え方】

看護を取り巻く環境は、急速な少子高齢化や慢性疾患の増加、暮らしの多様化・グローバル化、医療技術の進歩など大きく変化し、対象の視点に立った質の高い看護の提供が求められている。一方で、看護業務の複雑・多様化、災害の増加、国民の医療安全に関する意識の向上などの中で、臨地実習で経験できる看護技術の範囲や機会が制限される傾向にある。そのため、看護基礎教育では修得する看護技術と看護の現場で求められるものとの乖離を埋めるために卒業時の看護実践能力を高める必要がある。

そこで、看護の統合と実践では、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した知識・技術・態度を統合し、探求する力の育成とともにあらゆる看護実践場面で活用する能力を育成する。

【目的】

卒業後看護の現場にスムーズに適応し、社会に貢献できる看護者を育成するために専門職業人として広い視野を持ち、自己研鑽能力の向上およびあらゆる活動の場での看護を実践できる能力の強化を図る。

【科目の設定及び設定理由】

科目名	科目の設定理由
看護管理	看護におけるマネジメントの概念について学び、看護組織を運営していくための基礎的知識を理解する。また、質の高い看護サービスを提供するため仕組みや看護管理の在り方、多様な看護実践の場における看護マネジメントの実際を学ぶため、この科目を設定した。
災害看護	災害時に適切な看護ケアを提供するために、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解し、人々の健康や生活のニーズに応じた看護の果たす役割について学ぶため、この科目を設定した。
総合看護技術	様々な状況にある対象の事例に対してその状況を判断し、これまで学んだ基本的な看護技術を活用して看護を実践できる力を身に付けるため、この科目を設定した。
国際看護	グローバリゼーションが健康に与える影響について学び、世界の健康問題の現状と対策を理解し、各国の協調により問題を解決するための仕組みを学ぶ。また、看護職として国際的な支援活動を行う必要性と支援の具体的な方法、および異文化看護について理解するため、この科目を設定した。
看護研究	看護実践の科学的な説明や実践の改善・向上に寄与するための看護研究の過程・方法について学び、実際に看護研究を展開するための基礎力を培う。また、課題を研究するプロセスを通して、卒業後の看護活動の場において自らの看護能力の開発に向けて学び続ける姿勢や課題探究能力の基盤をつくるため、この科目を設定した。

進度表(49・50回生)

教育内容	科目	単位数	時間数	1年		2年		3年	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基礎	心理学	1	30	30				
		論理学	1	30	30				
	人間と生活・社会の理解(14)	生活科学	1	16	16				
		看護人間工学	1	30	30				
		情報科学	1	30		30			
		哲学	1	16		16			
		倫理学	1	16			16		
		教育学	1	30			30		
		社会学	1	30		30			
		人間関係論	1	30	30				
		多文化共生論	1	26					26
		英語	1	30	30				
		ART	1	30			30		
		チームビルディング	1	16			16		
基礎分野合計		14	360	166	76	16	76	26	

教育内容	科目	単位数	時間数	1年		2年		3年	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎分野	人間の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	30				
		解剖生理学Ⅱ	1	30	30				
		解剖生理学Ⅲ	1	30	30				
	疾病の成り立ちと回復促進(16)	生化学	1	30	30				
		病理総論	1	30	30				
		疾病治療論Ⅰ	1	30		30			
		疾病治療論Ⅱ	1	30		30			
		疾病治療論Ⅲ	1	30		30			
		疾病治療論Ⅳ	1	16		16			
		疾病治療論Ⅴ	1	16		16			
		臨床治療論	1	30			30		
		感染症学	1	30	30				
		薬理学	1	30		30			
	臨床栄養学	1	30	30					
	リハビリテーション学	1	16				16		
	臨床推論	1	16		16				
小計		16	424	210	168	30	16		
健康支援と社会保障制度(6)	法律と医療	1	16	16					
	医療安全	1	16				16		
	社会福祉Ⅰ	1	16		16				
	社会福祉Ⅱ	1	20		20				
	公衆衛生学	1	16				16		
福祉レクリエーション	1	16				16			
小計		6	100	16	16	20	32	16	
専門基礎分野合計		22	524	226	184	50	48	16	

教育内容	科目	単位数	時間数	1年		2年		3年	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎看護学(11)	看護学概論	1	30	30					
	看護理論	1	16			16			
	看護過程	1	30			30			
	フィジカルアセスメント	1	30		30				
	共通看護技術論	1	30	30					
	日常生活援助技術論Ⅰ	1	30	30					
	日常生活援助技術論Ⅱ	1	30	30					
	日常生活援助技術論Ⅲ	1	30		30				
	回復促進援助技術論Ⅰ	1	30			30			
	回復促進援助技術論Ⅱ	1	30			30			
	臨床看護方法論	1	30		30				
	地域・在宅看護論(5)	地域・在宅看護概論	1	30	30				
地域・在宅看護援助論Ⅰ		1	20		20				
地域・在宅看護援助論Ⅱ		1	30			30			
地域・在宅看護援助論Ⅲ		1	30				30		
多職種連携		1	16					16	
成人看護学(4)	成人看護学概論	1	16		16				
	成人看護援助論Ⅰ(健康障害別看護)	1	30				30		
	成人看護援助論Ⅱ(健康障害別看護)	1	30				30		
	成人看護援助論Ⅲ(健康障害別看護)	1	30				30		
老年看護学(3)	老年看護学概論	1	22		22				
	老年看護援助論Ⅰ	1	30			30			
	老年看護援助論Ⅱ	1	24				24		
小児看護学(3)	小児看護学概論	1	30			30			
	小児看護援助論Ⅰ	1	28				28		
	小児看護援助論Ⅱ	1	24				24		
母性看護学(4)	母性看護学概論	1	20		20				
	母性看護援助論Ⅰ	1	30			30			
	母性看護援助論Ⅱ	1	30				30		
	母性看護援助論Ⅲ	1	16				16		
精神看護学(4)	精神看護学概論	1	16		16				
	精神看護援助論Ⅰ	1	30			30			
	精神看護援助論Ⅱ	1	30				30		
	精神看護援助論Ⅲ	1	20				20		
領域横断(5)	家族看護論	1	30		30				
	生涯発達学	1	28		28				
	経過別看護Ⅰ	1	30			30			
	経過別看護Ⅱ	1	30			30			
	経過別看護Ⅲ	1	30			30			
看護の統合と実践(5)	看護管理	1	16					16	
	災害看護論	1	30					30	
	総合看護技術	1	30					30	
	国際看護論	1	16					16	
	看護研究	2	30					30	
臨地実習(23)	基礎看護学実習Ⅰ	3	90		90				
	基礎看護学実習Ⅱ	3	90				90		
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	45	45					
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	3	90					90	
	経過別看護実習Ⅰ(成人看護学実習)	3	90			90			
	経過別看護実習Ⅱ(成人看護学実習)	3	90					90	
	老年看護学実習Ⅰ	3	90			90			
	老年看護学実習Ⅱ	3	90					90	
	小児看護学実習	3	90					90	
	母性看護学実習	3	90					90	
	精神看護学実習	3	90					90	
	総合実習	3	90						90
専門分野合計		79	2203	195	332	526	382	678	90
基礎・専門基礎・専門合計		115	3087	587	592	592	506	720	90
学年	時間数			1179		1098		810	
	単位数			44		41		30	

科目	心理学	1単位 30時間	1年 前期	担当 高 向山
授業の目的	<p>他者を理解するには、自己のこころの動きを手掛かりとする必要がある。そのため、自己と他者を理解するための基礎知識として人間のこころのしくみや現象、発達について理解することが必要である。それをもとに、他者との関係構築に必要なコミュニケーションや、自己のこころの動きについても考察する姿勢を養うことで、看護師に求められるカウンセリングマインドの理解とともに、自己への気づきを得ることを目指す。</p>			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. こころのしくみやこころの現象について理解する。 2. 自己と他者のあり方、および対人関係の中で生じるこころの動きについて理解する。 3. 人と関係を築くためのコミュニケーションに関する知識を理解する。 4. カウンセリングに関する基本的知識を理解する。 			
1	心理学とは 感覚と知覚			講義
2	学習と記憶			講義
3	動機づけ			講義
4	パーソナリティー			講義
5	発達心理学①アタッチメント			講義
6	発達心理学②言語			講義
7	発達心理学③道徳性			講義
8	自己理解			講義
9	他者理解			講義
10	非言語的コミュニケーション			講義
11	情動表出			講義
12	ストレスマネジメント			講義
13	臨床心理学の基礎と心理アセスメント			講義
14	カウンセリングと心理療法の基礎知識			講義
15	カウンセリングの実際			講義
評価方法	小テストおよび授業内での小レポートに基づき評価する			
学習資源	配布資料			
受講事前準備	特になし			

科目	論理学	1単位 30時間	1年 前期	担当 阿部 美里
授業の目的・目標	<p>看護の場では、自身の意見と他者の意見を交わすことが多い。そのため、自分の考えを持ち、それが相手にわかるように伝える。伝えられた側は相手が言おうとすることを正確に捉え、おかしいところがあれば指摘したり、より良い案を提示することがある。本科目では、その場に応じた筋道の通った論理的思考力と適切な文章表現ができる表現力を身につける。</p> <p>1. 論理的な考え方、論理的な表現方法の技術を学び、論理的な思考をする力、文章表現能力を養う。</p> <p>2. 批判的な思考を学び、情報を多角的に論理的に判断する力を養う。</p>			
1	論理的なものの考え方 1) 論理的思考とは	講義・演習		
2	論理的に書くこととは 1) 主張と理由の関係 2) 構造という関係 3) 因果関係 4) 順序と分類の関係 5) 総論－各論－結論	講義		
3	学術的な文章とは	講義		
4	作文とレポート・論文の違い、種類	講義		
5	レポート・論文の構成	講義		
6	レポートの語彙・書式・体裁 書き言葉、文末、語彙、数値、年号、漢字とかなのかき分け アラビア数字と漢字のかき分け、列挙の区切り「,」「・」「,」のかき分け	講義		
7	レポート・論文のルール、作成手順① 1) 文章表現の手順 2) 総論－各論－結論の論理展開 3) 接続(順接・逆説)表現	講義		
8	レポート・論文のルール、作成手順② テーマ、調査、資料の整理、文章構成(段落)、記述、推敲	講義		
9	推論 1) 演繹法推論 2) 帰納的推論	講義		
10	批判的思考 1) 批判的に考えるとは (1) 例文《悪文》の書き改め	講義・演習		
11	批判的思考 1) 批判的に考えるとは (2) 文章(意見文、論説文)を批判的に検討する。	講義・演習		
12	文章の読み方 1) 学術的文章の読み方	講義・演習		
13	文章の読み方 2) 学術的文章を読んで 資料文を読み、意見文を書く	講義・演習		
14	レポートを書いてみよう 具体的テーマを基に各自作成	講義・演習		
15	レポートを発表してみよう	発表		
評価方法	課題レポート 授業参加度			
学習資源	福澤一吉 学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル 医学書院 江原勝幸 プチナース BOOKS 看護学生のためのレポート書き方教室 照林社			
受講事前準備	400字詰原稿用紙を準備			

科目	生活科学	1単位 16時間	1年 前期	担当 政本 ゆかり
授業の目的・目標	<p>人間にとって生活とは何なのか、当たり前で過ごしている自身の生活を探究し、生活者としての自身のありかたを再考し、看護の対象の理解と看護の支えるべき生活の基礎となる知識の習得を目指す。</p> <p>1. 生活を探究する方法を知り、探究する姿勢について知ることができる。 2. 生活と人とのつながりについて考察し、看護に生かす方向性を見いだすことができる</p>			
1	生活科学とは 環境と生活① GTP から学ぶSDGs (入口編)			講義
2	環境と生活② SDGs ボードゲームから学ぶSDGs (自分ゴト化するには)			講義
3	食生活と人① 食べ残しゼロゲームから学ぶ食品ロス			講義
4	食生活と人② 食品ロスとは何か 私たちが原因で起こる食品ロス 食品ロスを無くすにはどうすればよいのか 賞味期限と消費期限 手前どり			講義
5	衣生活と人 風呂敷から学ぶ、江戸の仕事 風呂敷活用法			講義
6	住生活と人 快適な暮らしとは			講義
7	現代社会と生活 18歳成年でできること、できないこと 消費生活で気をつけたいこと 情報社会で気をつけたいこと			講義
8	生活について再考する (まとめ)			グループワーク
評価方法	毎回の授業出席状況 毎回の授業振り返りシート 課題レポート			
学習資源	授業内で提示する。			
受講事前準備	自身の生活について意識して考えておくこと。			

科目	看護人間工学	1単位 30時間	1年 前期	担当 谷 重喜
授業 の 目的 ・ 目 標	<p>医療に関わる解剖学・生理学・心理学・工学などの諸分野を総合的に学び、健康な身体であるか、病態であるかを含めて、人間の身体・能力にあわせて医療に必要なとなる看護を行う上で必要となる看護行動に重要なとなる行為を医療と工学的な視点で学び知識の習得から看護に必要なとなる知恵の創出を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の視点から人体を工学的な尺度で考える物理的な基礎を学ぶ。 2. 人間を物理的な視点で考えた場合、人体の各部での動きのメカニズムを学ぶ。 3. 人間の健康や病態を把握するための危機器材のメカニズムを学ぶ。 4. 医療人として看護と患者、双方の安全を維持する方法を工学的に学ぶ。 5. 人の健康を看護する上で必要となる行動指針を総合的に学ぶ。 			
1	人間工学の概要：身の回りにある人間工学を使ったもの・技術を知る	講義		
2	てこの原理①：重いものを持ち上げる工夫を学ぶ	講義		
3	てこの原理②：自分の身体を守る工夫を学ぶ（ボディメカニクス）	講義		
4	圧力①：患者の痛みを軽減できる工夫を学ぶ（注射の痛み・褥瘡予防）	講義		
5	圧力②：点滴静脈内注射の物理を学ぶ	講義		
6	呼吸器の物理学①：どうやって息をするのかについて知る	講義		
7	呼吸器の物理学②：吸引とドレナージ（サイフォンの原理）	講義		
8	循環器の物理学①：心臓の役割を知る	講義		
9	循環器の物理学②：血圧が測定できる仕組みを知る	講義		
10	感覚器の物理学①：感覚器の不思議を知る	講義		
11	感覚器の物理学②：放射線について知る（放射線をキャッチできない私たちはどうするか）	講義		
12	体制防御の物理学①：熱量について	講義		
13	体制防御の物理学②：発熱の仕組みについて知る	講義		
14	これからの物理学①：安全のために応用されているものを知る	講義		
15	これからの物理学②：新しい人間工学の技術を知る	講義		
評価方法	小レポート、筆記試験 100点			
学習資源	佐藤和良：看護学生のための物理、医学書院 提示資料			
受講事前 準備	高校までの物理・化学・生物を復習しておく。			

科目	情報科学	1単位 30時間	1年 後期	担当 谷 重喜
授業の目的	<p>看護師は患者と向き合い、関わりを通して観察された「情報」を活用し看護を展開する。また看護学を発展させるために看護研究が不可欠となり、研究結果はより多くの人に役立てられるように発表する必要がある。さらに、今後、地域医療においては、病院と地域との情報共有の必要性は益々増加し遠隔看護への期待も高まっている。ICTの活用は、これらの専門性を発揮するために必要不可欠なものである。</p> <p>そこで、「情報」に関する基礎的知識から、ICTを活用した情報の取り扱い方法や看護の発展及び自己研鑽のための情報の「つくり方」と「広め方」を学ぶ。</p>			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・看護を取り巻く情報化の現実を理解し、情報の活用・管理の必要性を述べることができる。 2. 医療における情報システムについて理解し、看護実践における情報の「活かし方」「守り方」を知る。 3. 看護の現場において必要とされるコンピューターの知識、活用スキルを身につける 4. 看護・医学領域の学術雑誌の文献検索方法や読解に必要な基本的な統計知識を理解する。身につけ、簡単な統計データ処理を行う能力を養う。 			
1	情報の定義と特徴	講義・演習		
2	情報化社会	講義・演習		
3	看護における情報/情報社会と看護	講義・演習		
4	医療における情報システム	講義・演習		
5	情報倫理と医療	講義・演習		
6	患者の権利と情報	講義・演習		
7	個人情報の保護	講義・演習		
8	コンピュータリテラシーとセキュリティ	講義・演習		
9	インターネットを通じ基本的情報の検索	講義・演習		
10	既存の情報の収集方法（文献検索方法など）	講義・演習		
11	調査によるデータ収集方法（質問紙法など）	講義・演習		
12	取得した情報の分析・解析 (表計算ソフト:Excel による関数、表集計、グラフの作成など)	講義・演習		
13	文字情報の整理（ワードの使い方：文字の書式、文章の体裁、レイアウト、箇条書きなど）	講義・演習		
14	情報の発表の方法（口頭、ポスターなど）	講義・演習		
15	看護学教育と情報（e-ラーニング/遠隔授業体験）	講義・演習		
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	系統看護学講座 看護情報学 第3版 医学書院. 適宜資料提示する。			
受講事前準備	可能な範囲でコンピューターの利用方法を心得ておく。 USB 準備（詳細は後日連絡）			

科目	哲 学	1 単位 1 6 時間	1 年 後期	担当 森下 直貴
授業の目的・目標	<p>看護者が看護するのは一人の人間である。患者は決して看護の対象として存在するのではなく、一人の人間として存在する。これは当然のことであるようでいて、それだけに深く考えてみなければならない。そのため、いったい人間として存在するとはどういうことであるのかについて考え深める。</p> <p>1. 人間とは何かについて自分の考えをもつことができる。 2. 哲学的な思考の特徴をつかむことができる。</p>			
1	哲学とは、人間存在への問い	講義		
2	意味・解釈・コミュニケーション	講義		
3	心と身体、現象と実在、表現の進化	講義		
4	行為と相互行為と社会、家族と国家	講義		
5	デジタル化と現代社会の課題	講義		
6	科学と技術、真実と虚偽、偏見と差別	講義		
7	老いと死、幸福と QOL、健康と病	講義		
8	人間と自然、動物と AI ロボット	講義		
評価方法	課題レポート 50 点 筆記試験 50 点			
学習資源	森下直貴編 システム倫理的思考 幻冬舎 参考文献は講義中に紹介する。			
受講事前準備	熱心に授業を聞き、自分の頭で考えながら教科書を読み進めてほしい。			

科目	倫理学	1 単位 1 6 時間	2 年 前期	担当 森下 直貴
授業の目的・目標	<p>臨床倫理の原則を踏まえて倫理的な問題を解決する方法を考える。特に患者の権利等を理解したうえで、健康と病について看護の視点から評価し、倫理的ジレンマの存在を認識できる能力を養う。</p> <p>1. 倫理的ジレンマの存在を認識できる。 2. 方法を意識しながら倫理的な問題を解決することができる。</p>			
1	臨床倫理の基礎概念と諸原則	講義		
2	看護とは、看護師の役割と責任とは	講義		
3	臨床倫理・看護倫理の方法	講義		
4	倫理的ジレンマ（1）生殖医療、先端技術	講義・グループワーク		
5	倫理的ジレンマ（2）延命医療、看護と介護	講義・グループワーク		
6	倫理的ジレンマ（3）安楽死・尊厳死	講義・グループワーク		
7	倫理的ジレンマ（4）医療資源の配分、トリアージ	講義・グループワーク		
8	リスクマネジメントと組織の倫理	講義・グループワーク		
評価方法	課題レポート 50 点 筆記試験 50 点			
学習資源	赤林朗 ケースブック医療倫理 医学書院 森下直貴、佐野誠 新版「生きるに値しない命」とは誰のことか 中央公論新社			
受講事前準備	熱心に授業を聞き、自分の頭で考えながら教科書を読み進めてほしい。			

科目	教育学	1単位 30時間	2年 後期	担当 羽田野 真帆
授業の目的・目標	<p>人間は学ぶことで知識を獲得し、その知識を取捨選択していくことで人生を豊かにしていく。つまり、人間は学ぶことで生涯成長し続ける存在である。教育とは知識の提供だけでなく、人が自ら学び成長することを支持する側面を持つ。教育学を学ぶことで患者教育等必要な知識を取得するとともに、看護師として生涯成長し続けることの意義について学習する。</p> <p>1. 教育に関連する学習理論を理解できる。 2. 看護における対象の特性に合わせた教育のあり方を理解できる。 3. 看護師にとってのキャリア開発・生涯学習の必要性について理解できる。</p>			
1	学ぶことと教えること			講義
2	人の発達を理解する			講義
3	学習の原理を理解する①			講義
4	学習の原理を理解する②			講義
5	指導者の役割と姿勢を理解する			講義
6	効果的に指導する①			講義
7	効果的に指導する②			講義
8	学習を評価する			講義
9	さまざまな指導の工夫①			講義
10	さまざまな指導の工夫②			講義
11	講習プログラム案の作成			講義・演習
12	講習プログラム案の検討			講義・演習
13	学習とキャリア開発①			講義
14	学習とキャリア開発②			講義
15	授業のまとめと振り返り			講義
評価方法	リアクションペーパー20点、筆記試験80点			
学習資源	中井俊樹 看護のための教育学 医学書院			
受講事前準備	「教育学」用のファイルを用意しておくことが望ましい			

科目	社会学	1 単位 30 時間	1 年 後期	担当 松澤 俊行
授業の目的・目標	<p>社会学は、社会全体の変動のみに焦点を当てるのではなく、人間の行動がどのように社会を変えているのかなど、社会と人間の相互作用を理解するものである。看護を学ぶものにとっては、どのように他者を理解し、自らを社会の中に位置づけ、社会とつながって生きればよいのかを考えることは、重要な意味を持つ。</p> <p>看護は、社会の中で生活し、社会を構成している全ての人々を対象に行われる専門的な営みである。そこで、現代社会における健康と医療について社会学の視点で捉え、医療従事者の役割について考える。</p> <p>1. 現代社会の特性を理解できる。 2. 個人と社会の関係性を理解し、生活者としての個人を理解できる。 3. 現代社会と医療従事者の役割について、社会学的観点から理解できる。</p>			
1	社会学の基礎 社会学の誕生、社会的行為と社会関係、地域と役割他			講義、演習
2	社会学的視点とモデル 合意とコンフリクト、モデルの応用			講義、演習
3	保健医療と社会学 医療と社会学の接点、社会システムとしての医療			講義、演習
4	社会調査の理論と技法 社会調査とは何か、社会調査の手順など			講義、演習
5	健康・病気・ストレスの新しい見方ととらえかた 健康・病気の見方・とらえ方の移り変わり			講義、演習
6	健康・病気の社会格差 社会格差と健康格差			講義、演習
7	「働き方」「働かせ方」と健康・病気 日本の働き方の変遷、健康への影響			講義、演習
8	健康・病気行動と病経験 健康行動と病気行動、ヘルスリテラシー			講義、演習
9	患者 - 医療者関係とコミュニケーション 社会学におけるコミュニケーション、患者 - 医療者関係の捉え方			講義、演習
10	保健医療の専門職 専門職の概念、専門職と自律性、医療専門職の問題 医療職の職業倫理			講義、演習
11	性・ジェンダー・家族と保健医療 社会的カテゴリーとしての性・ジェンダーの捉え方			講義、演習
12	地域社会と保健医療 地域コミュニティと健康・保健の関係			講義、演習
13	保健医療制度とその現代的変化 福祉国家と社会保障制度、保健医療システムの変容、医療システムの特徴と課題			講義、演習
14	ケアと医療 「ケア」の定義と時代による変化、社会のあり方との関係			講義、演習
15	まとめ 医療従事者が社会学を学ぶ意義とは			講義、演習
評価方法	小テスト 24 点、授業内レポート 26 点、筆記試験 50 点			
学習資源	系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院			
受講事前準備	テキストの該当箇所を読んでおくこと。			

科目	人間関係論	1単位 30時間	1年 前期	担当 松原 凡代 校外演習担当 鈴木 葉子
授業の目的・目標	<p>人間関係の基本は「自分自身を知る」ことである。一般的に人は他者に照合することによって自分自身を認識し、他者の存在によって自分の社会的役割を認識する。他者との関係や他者から受ける影響、組織や集団での起こりうる現象などから、他者と人間関係を築く際の態度や行動について理解を深める。</p> <p>また、保健医療の現場では専門職が職務を遂行する基盤として、良好な人間関係を構築することが不可欠である。他者とどのような人間関係を構築できるかが援助の質を左右することに繋がる。医療の質や倫理が問われている今、医療人として人間関係の在り方やその特徴を理解することは重要な学修課題である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の基本的意義が理解できる。 2. 自分から見た自分、自分から見た他者、他者から見た自分等について理解できる。 3. 対人関係とコミュニケーションの関係について理解できる。 4. 医療の場における必要な人間関係について理解できる。 			
1	人間関係論とは	講義・演習		
2	自己理解 自分を表現する	講義・演習		
3	コミュニケーションとは 言語的・非言語的コミュニケーション	講義・演習		
4	コミュニケーションと人間関係① 表情からのコミュニケーション（感情、気持ち）	講義・演習		
5	コミュニケーションと人間関係② コミュニケーションギャップ（属性、年齢など）	講義・演習		
6	コミュニケーションと人間関係③ 価値観の違いを知る	講義・演習		
7	アサーティブ - コミュニケーション アサーションの理解とスキル	講義・演習		
8	共感的理解とは	講義・演習		
9	保健医療における人間関係 医療におけるチームと看護師の役割	講義・演習		
10	患者を支える人間関係 患者・医療者関係	講義・演習		
11	人間関係づくり ソシオメトリーから人間関係を捉える	校外演習		
12	人間関係づくり 人間関係における個人的・社会的役割の影響	校外演習		
13	人間関係づくり 問題解決のための集団成員間での協働的作業	校外演習		
14	人間関係づくり リーダーシップと人間関係	校外演習		
15	人間関係の振り返り	講義・演習		
評価方法	毎回の授業出席と感想の提出 55点 最終レポートの提出 45点			
学習資源	鯖戸義弘 コミュニケーションと人間関係づくりのための グループ体験学習ワーク 金子書房			
受講事前準備	テキストの該当項目を事前に読んでおく。 ワークを通じた自己発見・他者発見を目的とした体験学習が主となるため、授業中に他者を傷つけるような言動は厳に慎むこと。			

科目	英語	1単位 30時間	1年 通年	担当	杉野 俊子
授業の目的・目標	<p>グローバル化に伴い、日本の医療現場での外国人の受け入れ増加や医療者の国際交流などの変化が生じている。そのため、看護に特化した英語コミュニケーション能力がますます必要になってきた。一方、グローバルな視野を持ちながら地域の課題の解決に主体的に取り組めるグローバルな人材も必要になってきた。この科目では、地域の特性や世界の動向への関心を高めることで、多文化共生や国際看護を学ぶ礎とする。</p> <p>1. 看護における基礎的な英語コミュニケーション能力を習得できる。 2. 英語を通して世界の社会・言語問題を意識し、国際的な感覚を持つことができる。 3. グローバルおよび地域に対応したグローバルな視点を持つことができる。</p>				
1	自己紹介・他己紹介、Unit 1 看護英語の基本知識	言語と社会 基本概念の導入	講義、ペアワーク		
2	Unit 1 続き、Unit 2 診療手続き・症状	言語と社会 (ミニ講義) 基本概念	講義、ペアワーク		
3	Unit 2 続き、Unit 3 入院時オリエンテーション	言語と社会 (ミニ講義) エスニシティと少数派	講義、ペアワーク		
4	Unit 3 続き Unit 4 病歴の聴取・病名、発表準備	言語と社会 (ミニ講義) アメリカ先住民	講義、ペアワーク、		
5	Unit 4 続き、Unit 5 検査	発表準備 言語と社会 (ミニ講義) アメリカ先住民	講義、ペアワーク、ビデオ視聴		
6	Unit 5 続き、Unit 6 産婦人科	発表 言語と社会 (ミニ講義) アフリカ系アメリカ人	講義、ペアワーク		
7	Unit 6 続き、Unit 7 小児科・予防接種	発表 言語と社会 (ミニ講義) アフリカ系アメリカ人	講義、ペアワーク		
8	Unit 7 続き、Unit 8 手術	発表 言語と社会 (ミニ講義) エボニックスとは？	講義、ペアワーク、ビデオ視聴		
9	Unit 8 術後・日常 ウエストバージニア大学とオンライン交流準備	言語と社会 (ミニ講義) ヒスパニック	講義・グループワーク		
10	Unit 9 術後・日常 ウエストバージニア大学とオンライン交流準備	言語と社会 (ミニ講義) ヒスパニック、日系アメリカ人	講義・グループワーク、ビデオ視聴		
11	Unit 9 術後・日常 (続き) ウエストバージニア大学とオンライン交流準備	言語と社会 (ミニ講義) 日系アメリカ人、日系ブラジル人	講義・グループワーク		
12	Unit 10 心のケア・文化宗教の違い ゲストスピーカー	言語と社会 (ミニ講義) 日系ブラジル人	講義・質疑応答		
13	Unit 10 続き、まとめ ウエストバージニア大学とオンライン交流準備	言語と社会 (ミニ講義) 日系ブラジル人	講義・グループワーク		
14	ウエストバージニア大学とオンライン交流			グループワーク	
15	まとめ試験 (英語コミュニケーション力、概念)				
評価方法	平常点 (授業内小課題、小テスト)、発表、オンライン交流を総合して評価する				
学習資源	知念クリスティーン、迫 和子 クリスティーンのレベルアップ看護英会話、医学書院				
受講事前準備	高校等で学習した英語の復習。各授業の予習・復習をして臨んでほしい。				

科目	ART	1単位 30時間	2年 前・後期	担当 松澤 俊行 菅澤 薫 永岡和香子
授業の目的・目標	<p>感性は人間の持つ知覚的な能力であり、感覚の伴う感情や衝動を指す。芸術を通して感性を働かせることで、気づく力や感じる力を養う。また、自己表現の中で自他の独自性に気づき、尊重する姿勢を育む。</p> <p>1. 芸術に触れることで心の動きを体験することができる。 2. 芸術活動を通して感情を表現することができる。 3. 芸術活動を通して自他の独自性に気づき、互いを尊重することができる。</p>			
1	松澤	オリエンテーション 身体を動かしながら感性を磨く①「蛭塚公園を歩く」	講義・演習	
2		身体を動かしながら感性を磨く②「佐鳴湖公園を歩く」	演習	
3		身体を動かしながら感性を磨く③「パラバルーンの振り付け体験」	演習	
4	菅澤	紙コップでの積み木遊び	演習	
5		三原色の色水から色相環をつくる	演習	
6		技法・材料学からみる美術史①	講義	
7		技法・材料学からみる美術史②	講義	
8		美術館見学 浜松市美術館	講義・演習	
9				
10	永岡	芸術とは？感性とは？ 一心と体を解放して表現してみようー	講義・演習	
11		動きで遊ぼう	演習	
12		音楽と動きで遊ぼう	演習	
13		新聞紙で遊ぼう	演習	
14		歩いてみよう	演習	
15		音楽療法とは？芸術家とは？	講義・演習	
評価方法	授業出席状況 学びのレポートなど			
学習資源				
受講事前準備	日ごろから様々な芸術作品や自然に触れ、自分の感情の動きを意識してみてください。			

科目	チームビルディング	1単位 16時間	2年 後期	担当 芹沢 麻里子・土屋 京子 成岡 千恵子
授業の目的・目標	<p>保健・医療・福祉の専門職としてチームで協働するために必要となる基本的な知識を学ぶ。また、チームで目標達成に向けて課題に取り組む過程を通して自己理解・他者理解を深めるとともに、チーム活動に必要な姿勢とスキルを習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 協働や連携に必要な基本的態度を身に付けることができる。 2. 多様な価値観を尊重することができる。 3. 互いにサポートし合う関係を築くことができる。 4. 役割を意識しながらチームで取り組むことができる。 5. 問題を解決するために他者に働きかけることができる。 			
1	芹沢	チームビルディングとは、グループとチーム		講義・演習
2		保健・医療・福祉におけるチーム活動		
3	土屋	協働の基盤をつくる：自己理解・他者理解		
4		効果的なチーム形成：コミュニケーション		
5	成岡	効果的なチーム形成：協働と役割と責任		
6		効果的なチーム形成：創出		
7		効果的なチーム形成：支援		
8		成果発表会「チームで挑戦！」		
評価方法	ルーブリック、レポート、ピア評価			
学習資源	レジュメ、資料の配布あり。参考図書は適宜紹介します。			
受講事前準備	授業内容について自己学習してくること。			

科目	解剖生理学 I	1 単位 30 時間	1 年 前期	担当 山下 寛奈・山岸 寛 村松 貴志
授業の目的・目標	<p>看護師として病態の理解や人々の生活行動を援助するために、人体を構成する各器官の構造と機能を系統的に学習するとともに、人間のからだと生活行動のつながりを考えられるようにする。ここでは、個体維持に必要な「息をする」・「食べる」ことがどのようになされているのかを学ぶ。</p> <p>1. 生命維持にとっての恒常性維持の内容と意義を理解できる。 2. どのようなからだの仕組みを使って生活行動を行っているかを理解できる。 3. 「息をする」・「食べる」ことについて理解できる。</p>			
1	山下	総論	講義	
2		解剖生理学のための基礎知識	講義	
3		恒常性維持のための物質の流通① 血液の組成と機能、赤血球	講義	
4		恒常性維持のための物質の流通② 白血球、血小板、血漿タンパク質	講義	
5		恒常性維持のための物質の流通③ 凝固と線溶、血液型	講義	
6	村松	恒常性維持のための物質の流通④ リンパとリンパ管	講義	
7		恒常性維持のための物質の流通⑤ 心臓の構造と機能	講義	
8		恒常性維持のための物質の流通⑥ 末梢循環系の構造	講義	
9		恒常性維持のための物質の流通⑦ 血液循環の調節	講義	
10		息をする① 呼吸器の構造と機能	講義	
11		息をする② 呼吸運動とガス交換	講義	
12		山岸	食べる① 口・咽頭・食道の構造と機能	講義
13			食べる② 腹部消化管の構造と機能	講義
14			食べる③ 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義
15			食べる④ 消化・吸収・代謝、腹膜	講義
評価方法	筆記試験 100 点			
学習資源	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 『系統看護学講座』準処 解剖生理学ワークブック 医学書院			
受講事前準備	該当する書籍を事前に読んでおいて下さい。			

科目	解剖生理学Ⅱ	1単位 30時間	1年 前期	担当 山岸 覚
授業の目的・目標	<p>看護師として病態の理解や人々の生活行動を援助するために、人体を構成する各器官の構造と機能を系統的に学習するとともに、人間のからだと生活行動のつながりを考えられるようにする。ここでは、人体の活動を統合する働きである「恒常性維持のための調節機構における神経性調節」や「動く」ことがどのようになされているかを学ぶ。</p> <p>1. 情報を受容し、処理・出力に関連する「神経性調節」について理解できる。 2. 神経性調節との連繋によってなされる「動く」について理解できる。</p>			
1	恒常性維持のための調節機構 1 神経性調節① 神経系の構造と機能			講義
2	恒常性維持のための調節機構 1 神経性調節② 受容器（感覚総論）			講義
3	恒常性維持のための調節機構 1 神経性調節② 受容器（視覚）			講義
4	恒常性維持のための調節機構 1 神経性調節② 受容器と末梢神経（聴覚、味覚、嗅覚、痛覚）			講義
5	恒常性維持のための調節機構 1 神経性調節③ 中枢神経（大脳の構造）			講義
6	恒常性維持のための調節機構 1 神経性調節③ 中枢神経（脳の高次機能＜記憶・情動行動・本能、睡眠＞）			講義
7	恒常性維持のための調節機構 1 神経性調節③ 中枢神経（脊髄と脳幹の機能）			講義
8	恒常性維持のための調節機構 1 神経性調節③ 中枢神経（脊髄・脳神経）			講義
9	動く① 人体の骨格			講義
10	動く② 骨格筋			講義
11	動く③ 体幹の骨格と筋			講義
12	動く④ 上肢の骨格と筋			講義
13	動く⑤ 下肢の骨格と筋			講義
14	動く⑥ 頭頸部の骨格と筋			講義
15	動く⑦ 筋の収縮、運動と代謝			講義
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 『系統看護学講座』準処 解剖生理学ワークブック 医学書院			
受講事前準備	該当する書籍を事前に読んでおいて下さい。			

科目	解剖生理学Ⅲ	1単位 30時間	1年 前期	担当 山下 寛奈・山岸 覚
授業の目的・目標	<p>看護師として病態の理解や人々の生活行動を援助するために、人体を構成する各器官の構造と機能を系統的に学習するとともに、人間のからだと生活行動のつながりを考えられるようにする。ここでは、人体と細胞の生命を維持する基盤となる内部環境の恒常性がどのように調節されているのかを液性調節から学ぶ。また人体を保護し、種を保存する機能について学ぶ。</p> <p>1. 恒常性維持のための調整機構である腎・泌尿器、自律神経、内分泌について理解できる。 2. 生体の防御機能や内部環境の恒常性について理解できる。 3. 種を保存する機能について理解できる。</p>			
1	山下	恒常性維持のための調節機構 2	腎臓とは①	講義
2		恒常性維持のための調節機構 2	腎臓②—ネフロン	講義
3		恒常性維持のための調節機構 2	腎臓③—腎小体・尿細管	講義
4		恒常性維持のための調節機構 2	排尿路—尿管・膀胱・尿道	講義
5		恒常性維持のための調節機構 2	体液の調節①—血圧調節系	講義
6		恒常性維持のための調節機構 2	体液の調節②—酸塩基平衡	講義
7	山岸	恒常性維持のための調節機構 2	自律神経系	講義
8		恒常性維持のための調節機構 2	内分泌とは①	講義
9		恒常性維持のための調節機構 2	内分泌②—甲状腺、副甲状腺	講義
10		恒常性維持のための調節機構 2	内分泌③—副腎・性腺	講義
11		恒常性維持のための調節機構 2	内分泌④—ホルモン分泌調節	講義
12	山下	身体機能の防御と適応—皮膚の構造と機能		講義
13		身体機能の防御と適応 生体防御機構、体温調節		講義
14		種を保存する機能①	男性生殖器	講義
15		種を保存する機能②	女性生殖器	講義
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 『系統看護学講座』準処 解剖生理学ワークブック 医学書院			
受講事前準備	該当する書籍を事前に読んでおいて下さい。			

科目	生化学	1 単位 30 時間	1 年 前期	担当 大場 浩
授業の目的・目標	<p>医療の現場では、生化学によって説明される多くの現象が存在する。どのようにして生命活動が維持されるのか、どのようにして病気になるのか、これらを連続的に捉え、理論的に学ぶ。</p> <p>1. 生体の成り立ちと最小基本単位である細胞の構造や機能について理解できる。 2. 生体で起きている代謝機能および生体恒常性機能について理解できる。 3. 遺伝情報の保存、発現について、病気と遺伝子との関係について理解できる。</p>			
1	生体機能の概略（代謝の概略、体内の恒常性、遺伝など）	講義		
2	糖質代謝Ⅰ（糖類、解糖系、エネルギー産生など）	講義		
3	糖質代謝Ⅱ（糖新生、ペントースリン酸回路、糖尿病など）	講義		
4	脂質代謝Ⅰ（脂質の種類とβ酸化、コレステロール合成など）	講義		
5	脂質代謝Ⅱ（リポ蛋白、脂肪の生合成、脂質異常症など）	講義		
6	アミノ酸・蛋白質代謝Ⅰ（蛋白質分解、アミノ酸からの各種生理活性成分の合成、蛋白質の機能など）	講義		
7	アミノ酸・蛋白質代謝Ⅱ（尿素回路、酵素、補酵素、アミノ酸代謝異常症など）	講義		
8	3つの代謝過程の関連性とまとめ	講義		
9	生体内の恒常性（血糖値、pHの調節）	講義		
10	生体内の恒常性（ホルモン、ビタミン、水分・無機塩類の調節）	講義		
11	遺伝子情報とその発現（DNA, RNAの構造と機能、蛋白質合成）	講義		
12	変異・ガン化、遺伝子工学、遺伝子組み換え、再生医療関連情報	講義		
13	臓器の生化学（肝臓の機能、胆汁色素など）	講義		
14	臓器の生化学（腎臓の機能、尿成分など）	講義		
15	臓器の生化学（筋肉、血液、脳、神経組織など）	講義		
評価方法	筆記試験 100 点			
学習資源	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：よくわかる生化学 津田道雄著 金原出版 ・配布資料とパワーポイントによる説明 ・インターネット情報の提供 ・国試に関連した演習問題の提供 			
受講事前準備	高校時代の生物の復習は、授業理解に役立ちます。			

科目	病理総論	1単位 30時間	1年 前期	担当 小澤 享史・森 弘樹
授業の目的・目標	<p>病理学とは、病気の成り立ち（病態）について研究する学問であり、医学・医療従事者において基幹となる学問である。そのため、病気を先天異常・代謝異常・循環異常・炎症・腫瘍に大別し、大局的な観点から学習し、今後医療現場で直面する諸問題を弾力的に考え、解決していくための基礎知識とする。</p> <p>1. 病気について原因や成り立ちを理解できる。 2. 各々の器官に生じる病気ごとの病因や病態の成り立ち・特徴を理解できる。</p>			
1	病理学とは			講義
2	細胞・組織の損傷と修復①			講義
3	細胞・組織の損傷と修復②			講義
4	循環障害①			講義
5	循環障害②			講義
6	炎症			講義
7	免疫			講義
8	自己免疫疾患・移植			講義
9	感染症①			講義
10	感染症②			講義
11	代謝障害			講義
12	黄疸、老化と死			講義
13	先天異常			講義
14	腫瘍①			講義
15	腫瘍②			講義
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	系統看護学講座 病気の成り立ちと回復の促進 病理学 医学書院 ＊受講時に解剖生理学と生化学のテキストを持参すること			
受講事前準備	次回の講義内容について予習してくること。			

科目	疾病治療論 I	1 単位 30 時間	1 年 後期	担当 佐藤 潤 ・朝井 克之 田中 敬三・高仲 知永 長山 浩士
授業の目的・目標	<p>看護で関わる様々な対象の病態・診断・治療法に関する知識を修得し、看護師として臨床現場で必要とされるアセスメントや看護実践を行う基盤となる専門的知識体系の構築につなげる。ここでは、呼吸器系、循環器系、内分泌・代謝系の疾患をもつ対象の病態生理学および治療診断学の基礎知識を理解する。</p> <p>1. 呼吸器疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。 2. 循環器疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。 3. 内分泌・代謝疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。</p>			
1	佐藤	呼吸器系－解剖生理と病態生理、臨床所見、酸素療法	症候：呼吸困難	
2		呼吸器系－肺感染症、間質性肺炎		
3		呼吸器系－気道疾患、肺血栓症、呼吸不全		
4	朝井	呼吸器系－肺腫瘍①		
5		呼吸器系－肺腫瘍②	症候：チアノーゼ	
6	田中 ・ 高仲	循環器の役割と循環動態		
7		循環器系－心不全の病態		
8		循環器系－心不全の治療		
9		循環器系－不整脈		
10		循環器系－血管疾患		
11		循環器系－虚血性心疾患①		
12	循環器系－虚血性心疾患②			
13	長山	内分泌・代謝：内分泌代謝総論 (ホルモンとは、検査・診察法)	症候：やせ	
14		内分泌・代謝：内分泌疾患各論 (甲状腺疾患、下垂体疾患、副腎疾患など)		
15		内分泌・代謝：代謝疾患各論① (糖尿病・高脂血症など)		
評価方法	筆記試験 100 点			
学習資源	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 2 呼吸器 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 3 循環器 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 6 内分泌・代謝 医学書院 授業実習国試に役立つ！看護学生のための重要疾患ドリル メヂカルフレンド社			
受講事前準備	事前にテキストを読んでくる。 解剖生理学ⅠⅡⅢ、病理学その他関連する専門基礎科目の復習をしておく。			

科目	疾病治療論Ⅱ	1単位 30時間	1年 後期	担当 金岡 繁・佐原 秀 栗山 茂・影山 富士人 大菊 正人・中山 禎司 澤下 光二
授業の目的・目標	<p>看護で関わる様々な対象の病態・診断・治療法に関する知識を修得し、看護師として臨床現場で必要とされるアセスメントや看護実践を行う基盤となる専門的知識体系の構築につなげる。ここでは、消化器、脳神経の疾患をもつ対象の病態生理学および治療診断学の基礎知識を理解する。</p> <p>1. 消化器疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。 2. 脳神経疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。</p>			
1	金岡	消化器系：消化管総論と下痢・便秘		症候：吐血・下血
2	栗山	消化器系：食道疾患		
3	佐原	消化器系：血便と胃・十二指腸疾患		
4	金岡	消化器系：大腸癌、イレウスとヘルニア		
5		消化器系：炎症性腸疾患と感染性腸炎		
6	影山	消化器系：肝炎・肝硬変		
7		消化器系：肝がん		
8	大菊	消化器系：胆嚢疾患		
9		消化器系：膵臓疾患		
10	中山 ・ 澤下	脳神経系—脳疾患①（脳梗塞）		症候：意識障害
11		脳神経系—脳疾患② （脳出血 脳動脈瘤 クモ膜下出血）		
12		脳神経系—脳疾患③ （脳腫瘍 頭蓋内圧亢進 脳ヘルニア）		
13		脳神経系—脳疾患④ （パーキンソン病 高次脳機能障害 水頭症）		
14		脳神経系—てんかん、外傷、脊髄疾患		
15		脳神経系—感染症（髄膜炎 脳炎）		
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院 授業実習国試に役立つ！看護学生のための重要疾患ドリル メヂカルフレンド社			
受講事前準備	事前にテキストを読んできると。 解剖生理学ⅠⅡⅢ、病理学その他関連する専門基礎科目の復習をしておく。			

科目	疾病治療論Ⅲ	1単位 30時間	1年 後期	担当 福德 晃子・甲山 篤 萩原 弘晃・牧野 絵巳 三澤 淳子・高取 宏昌 薮島 桂子
授業の目的・目標	<p>看護で関わる様々な対象の病態・診断・治療法に関する知識を修得し、看護師として臨床現場で必要とされるアセスメントや看護実践を行う基盤となる専門的知識体系の構築につなげる。ここでは、筋・神経系、運動器系、皮膚、免疫・膠原病、歯・口腔の疾患をもつ対象の病態生理学および治療診断学の基礎知識を理解する。</p> <p>1. 筋・神経、運動系疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。 2. 皮膚疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。 3. 免疫・膠原病疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。 4. 歯・口腔疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。</p>			
1	福德	筋・神経系—重症筋無力症・ギランバレー症候群		症候：筋力低下
2		筋・神経系—筋ジストロフィー・ALS		
3	甲山	運動系—先天性疾患 変形性関節症		
4		運動系—関節リウマチ・神経障害		症候：跛行
5		運動系—跛行		
6	萩原	運動系—外傷・骨折・脊椎疾患		
7	牧野	運動系—骨腫瘍・軟部腫瘍		
8	三澤	皮膚疾患—表在性、真皮・皮下脂肪織および皮膚付属器の疾患		症候：発疹
9		皮膚疾患—脈絡系疾患、物理化学的皮膚疾患		
10		皮膚疾患—腫瘍および色素異常症、感染症（白癬・疥癬など）		
11	高取	免疫疾患：気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、アナフィラキシー		
12		膠原病：関節リウマチ、多発性筋炎・皮膚筋炎など		
13		膠原病：シェーグレン症候群、ベーチェット病、血管炎症候群など		
14	薮島	歯・口腔疾患—歯・口腔粘膜疾患		
15		歯・口腔疾患—顎・口腔疾患、嚥下障害		
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	<p>系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学11 アレルギー・膠原病 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学12 皮膚 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学15 歯・口腔 医学書院 授業実習国試に役立つ！看護学生のための重要疾患ドリル メヂカルフレンド社</p>			
受講事前準備	<p>事前にテキストを読んでくる。 解剖生理学ⅠⅡⅢ、病理学その他関連する専門基礎科目の復習をしておく。</p>			

科目	疾病治療論Ⅳ	1単位 16時間	1年 後期	担当 武田 明日美・高橋 慎治 細川 優子
授業の目的・目標	<p>看護で関わる様々な対象の病態・診断・治療法に関する知識を修得し、看護師として臨床現場で必要とされるアセスメントや看護実践を行う基盤となる専門的知識体系の構築につなげる。ここでは、泌尿器・腎臓器、女性生殖器の疾患をもつ対象の病態生理学および治療診断学の基礎知識を理解する。</p> <p>1. 泌尿器・腎臓器疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。 2. 女性生殖器疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。</p>			
1	武田	泌尿器・腎臓器系—腎不全	症候：浮腫	
2		泌尿器・腎臓器系—感染症、尿路結石、前立腺肥大		
3		泌尿器・腎臓器系—腫瘍		
4		泌尿器・腎臓器・生殖系—男性不妊症		
5	高橋	女性生殖器疾患—子宮の疾患		
6		女性生殖器疾患—卵巣の疾患、外陰の疾患、膣の疾患		
7		女性生殖器疾患—月経異常、不妊症性、性感染症		
8	細川	乳腺疾患—乳癌、良性乳腺腫瘍、乳腺炎		
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 授業実習国試に役立つ！看護学生のための重要疾患ドリル メヂカルフレンド社			
受講事前準備	事前にテキストを読んでくる。 解剖生理学ⅠⅡⅢ、病理学その他関連する専門基礎科目の復習をしておく。			

科目	疾病治療論Ⅴ	1単位 16時間	1年 後期	担当 内藤 健助・石井 るみ子 荒井 真木
授業の目的・目標	<p>看護で関わる様々な対象の病態・診断・治療法に関する知識を修得し、看護師として臨床現場で必要とされるアセスメントや看護実践を行う基盤となる専門的知識体系の構築につなげる。ここでは、血液・造血器、眼、耳鼻咽喉の疾病をもつ対象の病態生理学および治療診断学の基礎知識を理解する。</p> <p>1. 皮膚疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。 2. 眼疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。 3. 耳鼻咽喉疾患の代表的な疾患と診断・治療について理解できる。</p>			
1	内藤	血液・造血器系—血液・造血器総論		症候：貧血
2		血液・造血器系—貧血・白血病①		
3		血液・造血器系—白血病②		
4		血液・造血器系—出血性疾患		
5	石井	眼疾患—眼の機能障害		
6		眼疾患—眼の部位別疾患		
7	荒井	耳鼻咽喉疾患—耳・鼻疾患 (難聴 外・中・内耳炎・メニエール病 鼻炎 副鼻腔炎)		
8		耳鼻咽喉疾患—咽頭・喉頭疾患 (扁桃炎 咽頭がん 喉頭炎 喉頭がん SAS 言語障害)		
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学4 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学13 眼 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院 授業実習国試に役立つ！看護学生のための重要疾患ドリル メヂカルフレンド社			
受講事前準備	事前にテキストを読んでくる。 解剖生理学ⅠⅡⅢ、病理学その他関連する専門基礎科目の復習をしておく。			

科目	臨床治療論	1単位 30時間	2年 前期	担当 神谷 智子・永田 洋一 中村 文俊・櫻井茉未 中村孝始・熊村ますみ 高橋 弘・山口聡子 鈴木亜希・小田木智子 杉村洋祐
授業の目的・目標	<p>医学の発展に伴い様々な健康の段階の人々に対して多くの検査や治療が行われている。対象の状態把握のための臨床検査の意義や目的、方法を理解するとともに健康障害から回復するための治療とその看護について学び、看護実践のための基礎とする。</p> <p>1. 人間の健康状態や疾患・症状の状態を明らかにするための臨床検査の概要について理解できる。</p> <p>2. 疾病を治療するための放射線療法・手術療法・化学療法および透析療法・臓器移植の概要とその看護について理解できる。</p>			
1	中村孝始	臨床検査① 心電図・呼吸機能など生理検査、骨髄検査・髄液検査、生検・細胞診		講義
2	熊村	臨床検査② 内視鏡<消化管・気管支>		講義
3	高橋	臨床検査③ ミエログラフィー・アンギオグラフィー<血管撮影>、消化管造影、肝生検・腎生検		講義
4	山口	輸血療法（輸血製剤の管理と生体への影響）		講義
5	鈴木	透析療法の特色と近年の傾向		講義
6		透析療法を受ける患者の生体反応		講義
7	神谷	化学療法の原理・副作用・目的・流れ		講義
8		抗がん剤暴露からの防護		講義
9		化学療法を受ける患者・家族の看護援助		講義
10	永田	手術療法の特色と近年の傾向・手術侵襲と生体の反応		講義
11		麻酔法・人工呼吸器・人工心肺		講義
12	中村文俊	放射線療法の原理・基礎・特徴・目的		講義
13	杉村	照射法の種類・放射線療法中にみられる急性有害反応		講義
14	櫻井	放射線療法における看護師の役割		講義
15	小田木	臓器移植（脳死移植・生体移植など）における看護師の役割		講義
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	<p>看護に生かす検査マニュアル 第2版 サイオ出版 系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器 医学書院 医療情報科学研究所編集 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 系統看護学講座 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 臨床放射線医学 医学書院 理解が実践につながるステップアップがん化学療法看護 第2版 学研 ナースのためのスキルアップノート 透析ケアのキホン 秀和システム</p>			
受講事前準備	テキストに目を通してくること。			

科目	感染症学	1単位 30時間	1年 通年	担当 鈴木 美奈・矢野 邦夫 葛原 健太
授業の目的・目標	<p>感染症の原因である微生物の性質や感染に対する人間の反応を理解することを通して、病原微生物それぞれの特徴と人間の反応について学ぶ。さらに、感染予防における看護師の役割と基礎知識を学ぶ。</p> <p>1. 病原微生物の特徴およびこれらによって引き起こされる疾病を、宿主・病原体相互関係の立場から理解できる。</p> <p>2. 主な感染症の病因、症状症候、病態生理、検査・治療について理解できる。</p> <p>3. 患者の安全・安楽を守るための感染予防や感染事故の実際を理解し、感染予防対策を実践できる。</p>			
1	鈴木	微生物の性質：細菌 真菌		講義
2		微生物の性質：原虫 ウィルス		講義
3		感染の成立から発症・感染経路		講義
4		生体防御機構・免疫の仕組み①		講義
5		生体防御機構・免疫の仕組み②		講義
6		生体防御機構・免疫の仕組み③		講義
7		生体防御機構・免疫の仕組み④		講義
8	矢野	H I V		講義
9		風邪		講義
10		M R S A		講義
11		ウィルス性肝炎		講義
12		結核・麻疹		講義
13	葛原	日和見感染、針刺し感染予防		講義
14		カテーテル関連、薬剤耐性菌		講義
15		感染予防対策の実際		講義・演習
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	系統看護学講座専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復促進 4 微生物学 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 11 アレルギー膠原病感染症 医学書院			
受講事前準備	テキストに目を通しておくこと。			

科目	薬理学	1単位 30時間	1年 後期	担当 外村 和也
授業の目的・目標	<p>薬物と生体との相互作用の結果、起こる現象を究明する科学である薬理学の概要を学ぶ。さらに、疾病の予防・治癒が必要な対象に対し、安全かつ有効な薬物療法を行うために必要な基本的知識を身につける。</p> <p>1. 代表的な薬物の作用機序、薬理作用、有害事象、与薬時の注意事項を理解できる。 2. 薬物動態（吸収、分解、排泄 など）について理解できる。</p>			
1	薬理作用			講義
2	薬理動態、影響因子、有害作用			講義
3	薬の管理と新薬の誕生			講義
4	抗感染症薬			講義
5	抗がん剤			講義
6	免疫治療薬			講義
7	抗アレルギー剤・抗炎症薬			講義
8	末梢神経系			講義
9	中枢神経系			講義
10	心臓・血管系			講義
11	呼吸・消化器・生殖器系			講義
12	物質代謝			講義
13	皮膚科用薬・眼科用薬			講義
14	救急時			講義
15	漢方薬・消毒薬			講義
評価方法	筆記試験 100 点			
学習資源	系統看護学講座専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進 3 薬理学 医学書院 必要に応じてプリント使用			
受講事前準備	テキストに目を通しておく。			

科目	臨床栄養学	1単位30時間	1年 後期	担当 上田 規江
授業の目的・目標	栄養学の基礎知識を理解し、看護師として関連職種と連携した栄養サポートを学ぶ。 1. 栄養素の種類及びはたらき、消化、吸収、代謝などの栄養学の基礎知識を理解する。 2. 食事の意義、バランスのよい食事の考え方を理解する。 3. 食品成分表を活用し、エネルギー量および栄養素量を考慮した献立作成ができる。 4. 栄養状態の評価および疾患別の食事療法を理解する。			
1	人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき①	講義		
2	栄養素の種類とはたらき②	講義		
3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	講義		
4	エネルギー代謝	講義		
5	食事と食品	講義		
6	ライフステージと栄養	講義		
7	献立作成（グループワーク）	演習		
8	調理実習（クラスごとに実施）	演習：調理実習室		
9	栄養ケア・マネジメント、栄養状態の評価・判定	講義		
10	病院食、栄養補給法	講義		
11	疾患・症状別食事療法 ①やせ、肥満、循環器疾患	講義		
12	疾患・症状別食事療法 ②消化器疾患	講義		
13	疾患・症状別食事療法 ③栄養・代謝疾患、腎臓疾患	講義		
14	場面別の栄養管理 ④小児、術前・術後、がん他	講義		
15	健康づくりと食生活	講義		
評価方法	筆記試験80点、課題レポート20点			
学習資源	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 栄養学：医学書院 ・系統看護学講座 栄養食事療法：医学書院 ・八訂食品成分表 2023：女子栄養大学出版部 ・栄養士・管理栄養士のためのなぜどうして？② 人体の構造と機能／臨床栄養学①：メディックメディア 			
受講事前準備	テキストに目を通しておく。			

科目	リハビリテーション学	1単位 16時間	2年 後期	担当 矢倉 千昭・有菌 信一 新屋 順子・中神 孝幸 田中有希子・荏原 のりこ
授業の目的・目標	<p>リハビリテーションの概念とアプローチ方法について学び、様々な生活機能障害を持つ人への援助や看護師とリハビリテーション専門職との連携のあり方を考える基盤とする。</p> <p>1. リハビリテーションの概念とそれに関連する考え方を理解できる。 2. 健康障害別のリハビリテーションの実際について理解し、実践できる。 3. 生活行動に関連したリハビリテーションについて理解できる。 4. 言語障害や嚥下障害へのリハビリテーションについて理解できる。</p>			
1	矢倉	リハビリテーションの理念、障害の捉え方 各期のリハビリテーション、機能評価	講義	
2	有菌	心機能障害のある患者のリハビリテーション	講義・演習	
3	新屋	脳血管障害患者のリハビリテーション	講義・演習	
4		呼吸器疾患患者のリハビリテーション	講義・演習	
5	中神	骨・筋障害患者のリハビリテーション	講義・演習	
6	田中	生活行動に関連したリハビリテーション①	講義・演習	
7		生活行動に関連したリハビリテーション②	講義・演習	
8	荏原	言語療法・摂食嚥下療法	講義・演習	
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 実践リハビリテーション看護 照林社			
受講事前準備	テキストに目を通しておくこと。			

科目	臨床推論	1単位 16時間	1年 後期	担当 中村 里恵・山本 浩樹
授業の目的・目標	<p>看護実践の基盤となる「看護師の思考」を身に付けるため、タナーの臨床判断モデルにある「気づく」力・「解釈する」力を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床推論の基本的な考え方について述べることができる。 2. 対象に起きている症候や反応などの情報を収集ができる。 3. 得られた情報と既習の知識を活用して、対象の状況を推論できる。 4. 対象の症候や反応等についてなりゆきを推論できる。 			
1	中村	臨床推論とは	講義	
2	中村	臨床実践家の「気づき」とは	講義・演習	
3	中村	入院患者Aさんの場合（循環器・呼吸器系）① Aさんについて気づいたことをまとめ、調べる	講義・演習	
4	中村	入院患者Aさんの場合（消化器系）② Aさんの状態を解釈するための観察と情報収集。	講義・演習	
5	中村	入院患者Aさんの場合（循環器・呼吸器系）③ Aさんの今後に予測されるなりゆきについて考える。	講義・演習	
6	山本	外来患者Bさんの場合（消化器系）① Bさんについて気づいたことをまとめ、調べる。	講義・演習	
7	山本	外来患者Bさんの場合（消化器系）② Bさんの状態を解釈するための観察と情報収集。	講義・演習	
8	山本	外来患者Bさんの場合（消化器系）③ Bさんの今後に予測されるなりゆきについて考える。	講義・演習	
評価方法	筆記試験もしくはレポート 100点			
学習資源	それぞれの事例に必要なと思われるテキスト等を準備する。			
受講事前準備	解剖生理学、疾病治療論、薬理学等の授業で学んだことを復習しておく。			

科目	法律と医療	1単位 16時間	1年 前期	担当 伊藤 祐尚
授業の目的・目標	<p>看護師が質の高い看護を提供するためには、社会人として豊かな見識を有し、専門家としてその任務を十分に果たすことが必要である。国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するために看護関係法令を学び、医療に携わる者として有すべき必要な法的知識、素養を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師の基本法規を理解できる。 2. 関連職域との業務に関する法的区分や福祉等周辺領域の法的規制などの基本を理解できる。 3. 成熟した社会人として有すべき社会的正義とは何か、思慮できる。 			
1	法規の基本概念、関係法規			講義
2	医事法規（保健師助産師看護師法）			講義
3	医事法規（看護師等の人材確保の促進に関する法律）			講義
4	保健衛生法規			講義
5	薬事法規			講義
6	社会保障法			講義
7	労働法規			講義
8	医療法			講義
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令 医学書院 参考文献については開講後適時紹介する			
受講事前準備	各回受講前、講義の理解を容易にするためテキストの該当箇所を一読しておくこと。 各回受講後、小テストに備え、当該講義事項を次回までに必ず修得すること。 日常より新聞報道等に接し、事件等現実社会に生起する事象に関心を持つこと。			

科目	社会福祉 I	1 単位	1 6 時間	1 年	後期	担当	藤田 直利
授業の目的・目標	<p>少子高齢化や人口減少の段階にある日本では多くの社会問題が存在している。それらの問題に対処していくためには保健・医療分野での知識だけでなく福祉も含めた総合的な視点が求められる。ここでは、社会保障・社会保険制度の基本的な構造や内容についての知識を習得し、暮らしの実態に根差した社会的支援について学ぶ。</p> <p>1. 社会保障・社会福祉の歴史を通して、社会情勢と合わせて変遷を理解できる。 2. 日本の社会保険制度とその動向・内容を理解できる。</p>						
1	社会保障・社会福祉の概念、歴史①					講義	
2	社会保障・社会福祉の概念、歴史②					講義	
3	社会保障・社会福祉の概念、歴史③					講義	
4	現代社会の現状					講義	
5	社会保険の動向と内容：医療保険					講義	
6	社会保険の動向と内容：年金保険・雇用保険・労災保険					講義	
7	社会保険の動向と内容：公的扶助（生活保護）					講義	
8	社会保険の動向と内容：介護保険					講義	
評価方法	筆記試験 100 点						
学習資源	系統看護学講座健康支援と社会保障制度 社会福祉 医学書院 参考文献：厚生省の指標・国民衛生の動向 厚生統計会						
受講事前準備	事前配布するレジメ及びテキストに目を通しておく。 常にマスコミ報道にたえず注意を払い、社会保障・社会福祉改革の動きを知っておく。						

科目	社会福祉Ⅱ	1単位 20時間	2年 前期	担当 河野 ほなみ・浜松市職員
授業の目的・目標	<p>これからの保健・医療・福祉においては、多様性を認め合い、地域で支え合う視点が不可欠である。ここでは、地域共生社会の実現に向けた社会福祉の動向と内容を学び、多様な発達段階や健康段階にある人々の暮らしを支える福祉のあり方について考える。</p> <p>1. 社会福祉制度の理念や目的、機能について理解できる。 2. 社会福祉における対象と支援方法、課題について理解できる。 3. 浜松市における保健医療福祉行政について理解できる。</p>			
1	河野	社会福祉援助技術	講義	
2		社会福祉とは・社会福祉の動向と内容：障害者福祉・ICF	講義	
3		社会福祉の動向と内容：高齢者福祉	講義	
4		社会福祉の動向と内容：成年後見制度	講義	
5		社会福祉の動向と内容：児童福祉・家庭福祉①	講義	
6		社会福祉の動向と内容：児童福祉・家庭福祉②	講義	
7		社会福祉の動向と内容：その他	講義	
8	子育て支援課	浜松市の保健医療福祉行政の実際 子育て支援施策の実際	講義	
9	障害保健福祉課	浜松市の保健医療福祉行政の実際 障がい者支援施策の実際	講義	
10	高齢者福祉課	浜松市の保健医療福祉行政の実際 健康づくり施策の実際（高齢者保健）	講義	
評価方法	筆記試験・レポート 100点			
学習資源	系統看護学講座健康支援と社会保障制度 社会福祉 医学書院 参考文献：厚生省の指標・国民衛生の動向 厚生統計会			
受講事前準備	事前配布するレジメ及びテキストに目を通しておく。 常にマスコミ報道にたえず注意を払い、社会保障・社会福祉改革の動きを知っておく。			

科目	公衆衛生学	1単位 16時間	2年 後期	担当 平岡 廣二
授業の目的・目標	<p>地域で生活している人々の健康の維持・増進およびQOL向上のための公衆衛生の考え方や目的、活動分野、方法などの保健衛生に関する基本的な知識を習得する。また、公衆衛生活動における看護師の役割を理解する。</p> <p>1. 公衆衛生の概念とその社会的意義について理解できる。 2. 環境諸要因が個人・集団の健康あるいは社会生活に及ぼす影響を理解できる。 3. 健康の維持増進・疾病予防のための組織的保健衛生活動を知り、看護師としての役割を理解できる。</p>			
1	近代公衆衛生の歩み			講義
2	公衆衛生の理念と看護の倫理			講義
3	健康と環境			講義
4	公衆衛生の技術			講義
5	グローバル化と公衆衛生			講義
6	公衆衛生の実践			講義
7	感染症対策、学校保健			講義
8	産業保健、災害保健、危機管理			講義
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	<p>系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生 医学書院</p> <p>参考文献 厚生指針 (臨時増刊) 国民衛生の動向 厚生統計協会 公衆衛生の時事問題や行政の作成資料等 (必要に応じて)</p>			
受講事前準備	<p>新聞やテレビ等の報道に関心を持ち、公衆衛生の動向を把握する。</p> <p>前回講義の復習をするとともに講義の前にはテキストに目を通しておく。</p>			

科目	福祉レクリエーション	1単位 16時間	2年 後期	担当 和久田 一夫
授業の目的・目標	<p>生活に楽しみを見出し、生きる意欲を獲得・向上するためのレクリエーションを通じた支援について学ぶ。また、様々な場で多職種と共に行う福祉レクリエーションの実際について学ぶ。</p> <p>1. 健康の維持増進や楽しみの獲得に向けたレクリエーションの意義を理解できる。 2. 発達段階や健康状態に合わせたレクリエーションについて理解できる。 3. 保健・医療・福祉分野を視野にいたれたレクリエーションを企画・実践できる。</p>			
1	レクリエーション基礎理論、福祉レクリエーション理論、レクリエーションの医学的効果			講義
2	ホスピタリティの理解、高齢者理解とレクリエーション、セラピューティック・レクリエーション			講義
3	幼児の遊びとその特色、レクリエーションと安全			講義
4	1グループ（原則3人にて1チーム）ロールプレーにて20分間の支援実技案作成			演習
5	支援実技演習・・・支援対象は高齢者（集団支援法）			演習
6	支援実技演習・・・支援対象は幼児（集団支援法）			演習
7	支援実技演習・・・支援対象は高齢者（個別支援法）			演習
8	支援実技演習・・・支援対象は高齢者（集団支援法）			演習
評価方法	筆記試験 50点 実技試験 50点			
学習資源	<p>参考文献： 楽しさの追求を支えるための介入技術 公益財団法人日本レクリエーション協会 福祉レクリエーション援助の方法 中央法規出版株式会社 西本勝子、上野美代子、福島光子 入院時（幼児）の遊びと看護 ※支援実技演習は講堂を使用</p>			
受講事前準備	特になし			

科目	看護学概論	1単位 30時間	1年 前期	担当 海野 直樹・小野 奈津子
授業の目的・目標	<p>「看護とは何か」という基本的概念を学習する。看護学の主要概念である人間・健康・看護、および看護実践の理論的根拠となる看護理論を看護学の発展の歴史的背景を踏まえて広い視野から学ぶ。さらに現代における看護の役割や機能、看護活動について理解を深める。これらの学習を通して、自らの看護観を育んでいくことを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念を歴史的視野から捉えて、看護の本質について理解できる。 2. 看護の対象および看護の役割と機能について理解できる。 3. 主な看護理論を理解できる。 4. 看護活動の内容と、看護活動の方法について理解できる。 5. 自分の看護観を考えることができる。 			
1	小野	授業ガイダンス 看護とは何か		講義・演習
2	小野	看護の役割と機能を理解する		講義・演習
3	海野	歴史的観点から看護を理解する① 医療の歴史・今後の医療の方向性		講義・演習
4	小野	歴史的観点から看護を理解する② 中世・近代における看護の歴史		講義・演習
5	小野	歴史的観点から看護を理解する③現代における看護これからの看護		講義・演習
6	小野	看護モデル・看護理論から看護を理解する 基礎知識編		講義・演習
7	小野	看護モデル・看護理論から看護を理解する ワーク編		講義・演習
8	小野	看護モデル・看護理論から看護を理解する 発表会		講義・演習
9	小野	看護の構成要素から看護を理解する① 対象理解 健康の概念		講義・演習
10	小野	看護の構成要素から看護を理解する② 環境 健康と看護		講義・演習
11	小野	実践としての看護から看護を理解する① 看護職者の責務		講義・演習
12	小野	実践としての看護から看護を理解する② 臨床看護師の話		シンポジウム
13	小野	自分の看護観を考える。① 専門職とは何か 看護職の制度		講義・演習
14	小野	自分の看護観を考える②グループワーク 改めて看護とは何か		講義・演習
15	小野	まとめ：発表会「私たちが理解した看護とは何か」		講義・演習
評価方法	課題レポート 50点 筆記試験 50点			
学習資源	<p>茂野香おる 系統看護学講座専門Ⅰ基礎看護学①看護学概論 第16版 医学書院 2016 参考資料 寺島恵監修 看護者の基本的責務 2022年版 日本看護協会出版会 2019 フロレンス・ナイチンゲール 看護覚え書(改訂第7版) 現代社 2011 ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 2016 ミルトン・メイヤロフ ケアの本質—生きることの意味 ゆみる出版 1987 ジョイス・トラベルビー 人間対人間の看護 医学書院 1977 舟島なをみ、望月美知代 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 2017 看護行政研究会編集 看護六法 令和4年版 新日本法規 2019</p>			
受講事前準備	テキストに目を通しておく。			

科目	看護理論	1単位 16時間	2年 前期	担当	小野奈津子
授業の目的・目標	<p>看護は実践の科学である。看護が科学的であるためには、理論的根拠をもって事象を記述、解釈し、結果を予測したうえで実践することが必要である。看護者には常に理論と実践を往還し、看護の意味を探究することで看護の質の向上に貢献することが求められる。そこで、看護理論や人間科学に関する理論を学ぶことで、基礎知識を習得するとともに理論の活用方法を理解する。</p> <p>1. 看護における理論の意義を説明できる。 2. 理論と実践の関係を説明できる。 3. 自身の実習での体験を、看護理論を用いて意味づけすることができる。</p>				
1	オリエンテーション	看護師の感性・思考・実践のつながり ーベナー、ワトソンによる看護論		講義・ペアワーク	
2	看護の役割とは何か	ーナイチンゲール、ウィーデンバックによる看護論		講義・ペアワーク	
3	人間とはどのような存在か①	ーロジャーズ、ヘンダーソンによる看護論、システム論、マズローによる欲求階層論		講義・ペアワーク	
4	人間とはどのような存在か②	ー自己概念・自己評価・自尊感情、移行理論、価値・信念		講義・ペアワーク	
5	患者ー看護師関係の意味と看護の役割	ーオレム、キングによる看護論、トラベルビーによる看護論		講義・ペアワーク	
6	看護理論とは何か	ー実践と理論の関係		講義・ペアワーク	
7	根拠に基づく看護実践と理論	ー既習実習を振り返る		グループワーク	
8	根拠に基づく看護実践と理論	発表会		発表会	
評価方法	ループリック				
学習資源	看護理論 南江堂、よくわかる中範囲理論 学研				
受講事前準備	テキストの該当箇所を読んでおく。				

科目	看護過程	1単位 30時間	2年 通年	担当 澤木 亜紀
授業の目的・目標	看護実践に必要な問題解決志向の基本を理解し、健康上の問題を持つ人々の生活上のニーズや諸問題を明らかにする。また、そのニーズを満たし、諸問題の解決に向けた援助を提供するための考え方を理解する。 1. 健康上の問題をもつ人々のニーズを満たし、諸問題を解決していくための思考プロセスを理解できる。 2. 対象の健康上の問題に対して、原因・誘因を明らかにし、対象の強みを生かした援助を考えることができる。			
1	I 看護過程とは何か II 本校の看護過程の構成要素			講義
2	III 看護過程の実際 第1段階 アセスメント Step1 情報（データ）収集及び病態理解			グループワーク
3	Step2 分析的アセスメント1 (1) 分析的アセスメントの意味と手順 (2) cluster 健康知覚・健康管理～活動まで：cluster の理解			講義
4	Step2 分析的アセスメント2 (2) cluster 健康知覚・健康管理～活動まで：注目する視点についての確認			グループワーク
5	Step2 分析的アセスメント3 (2) cluster 健康知覚・健康管理～活動まで：担当指導員からの個別指導と修正			個別指導
6	Step2 分析的アセスメント4 (2) cluster 健康知覚～活動まで：学びの整理 (3) cluster 睡眠～価値・信念まで：cluster 理解			グループワーク
7	Step2 分析的アセスメント5 (3) cluster 睡眠～価値・信念まで：注目する視点についての確認			グループワーク
8	Step2 分析的アセスメント6 (3) cluster 睡眠～価値・信念まで：担当指導員からの個別指導と修正			個別指導
9	Step3 関連図作成・Step4 全体像の作成1 関連図、全体像の作成の実際			講義
10	Step3 関連図作成・Step4 全体像の作成2 注目する視点についての確認			グループワーク
11	Step3 関連図作成・Step4 全体像の作成3 担当指導員からの個別指導と修正			個別指導
12	第2段階 看護診断過程 Step1 優先順位・優先順位設定の考え方			講義
13	Step2 看護上の問題の明確化・Step3 看護計画の作成と評価1 問題の明確化と看護計画の意義・作成方法			講義
14	Step2 看護上の問題の明確化・Step3 看護計画の作成と評価2 注目する視点についての確認			グループワーク
15	Step2 看護上の問題の明確化・Step3 看護計画の作成と評価3 担当指導員からの個別指導と修正 第3段階 計画実践と評価・看護記録			個別指導
評価方法	課題レポート 100点			
学習資源	茂野香おる著 系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 医学情報科学研究所編 看護がみえる4 看護過程の展開 メディックメディア ≪参考資料≫ 黒田裕子編 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 学研			
受講事前準備	テキストに目を通しておく。1年次の臨床看護方法論を復習しておく。			

科目	フィジカルアセスメント	1単位 30時間	1年 後期	担当 土屋 京子
授業の目的・目標	<p>看護には対象の生命を守る重要な役割があり、対象の状態を的確に観察し判断する能力が求められる。ここでは、対象の身体状態の把握や身体的ケアを実施するうえでの根拠、実施したケアの評価をするための情報を得るために必要となるフィジカルイグザミネーションを習得し、身体面におけるアセスメントするための基盤とする。</p> <p>1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義を理解できる。 2. フィジカルイグザミネーションに必要な基本技術を習得できる。 3. 身体機能別フィジカルアセスメントに必要な技術を習得し、正常・異常所見について理解できる。 4. 身体機能別フィジカルアセスメントに必要な技術を実践し、得られた結果の記録、判断ができる。 5. 「事例」の状態を観察し判断するために習得した技術を使うことができる。</p>			
1	土屋	看護におけるフィジカルアセスメントの目的と意義 「生きている」機能と「生きていく」機能		講義、DVD 視聴
2	土屋	呼吸系のフィジカルアセスメントの意義と体表解剖		講義、DVD 視聴、演習
3	土屋	呼吸系のフィジカルイグザミネーション1 問診・視診・触診・打診		講義、DVD 視聴、演習
4	土屋	呼吸系のフィジカルイグザミネーション2 聴診（副雑音など）		講義、DVD 視聴、シミュレーター使用、演習
5	土屋	呼吸系フィジカルアセスメント演習 呼吸系フィジカルイグザムの実践、記録、判断		演習
6	土屋	循環系のフィジカルアセスメントの意義 心臓と循環器系のフィジカルイグザミネーション1 （末梢循環不全の評価方法など）		講義、DVD 視聴、演習
7	土屋	循環系：心臓と循環器系のフィジカルイグザミネーション2 （心臓機能：心臓弁の領域、心臓の大きさ、中心静脈圧など）		講義、DVD 視聴、演習
8	土屋	循環系：心臓と循環器系のフィジカルイグザミネーション3 心音の聴診、記録、判断		講義、DVD 視聴、演習
9	土屋	消化系のフィジカルアセスメントの意義 消化系：腹部のフィジカルイグザミネーション （腸蠕動音聴取、腹部の打診・触診など）		講義、DVD 視聴、演習
10	土屋	中枢神経系、感覚系、運動系のフィジカルアセスメントの特徴 ①中枢神経系のフィジカルイグザミネーション （意識状態・高次脳機能など）		講義、DVD 視聴、演習
11	土屋	②感覚系のフィジカルイグザミネーション （視聴覚、皮膚知覚、深部知覚など）		講義、DVD 視聴、演習
12	土屋	③-1 運動系のフィジカルイグザミネーション（MMT、バレー徴候、関節可動域、歩行、反射、小脳機能試験）		講義、DVD 視聴、演習
13	土屋	③-2 運動系のフィジカルイグザミネーション （歩行、反射、小脳機能試験）		講義、DVD 視聴、演習
14	土屋	中枢神経系、感覚系、運動系のフィジカルアセスメント演習 中枢神経、感覚、運動系のフィジカルイグザム実践、記録、判断		演習
15	土屋	事例演習：状態把握するために必要な技術の活用 フィジカルイグザミネーション技術確認含む		講義、演習 シミュレーター使用
評価方法	筆記試験・レポート・技術点 100点			
学習資源	医学情報研究所 看護がみえる vol. 3 フィジカルアセスメント メディックメディア (DVD) 山内豊明監修 山内豊明教授のフィジカルアセスメント全10巻 京都科学			
受講事前準備	講義前にテキストを読み、関連知識の復習しておく。 白Tシャツ、聴診器、ペンライト、定規を準備しておく。 （準備物品の詳細は事前に説明する）			

科目	共通看護技術論		1単位 30時間	1年 前期	担当 鳥居 千恵・土屋 京子・
授業の目的・目標	<p>看護とは対象が必要としている援助は何かを見出し、その援助の目的を明確にし、意図的に働きかけることであり、共通看護技術とはそれらに必要となる共通した看護技術である。ここでは、さまざまな対象や看護活動の場で看護を成立させるための看護技術の概念を理解し、対象への援助を見出すために必要となる共通する基本援助技術を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の特徴と看護技術を習得するための手段として自己努力する姿勢の必要性を説明できる。 2. 看護師に求められるコミュニケーション技術について説明できる。 3. 医療における看護記録、報告の意義と実施時の原則・留意点について説明できる。 4. バイタルサインを測定する意義を理解し測定技術を習得できる。 5. 医療・看護における安全の意義と安全を確保するための基本となる看護技術を習得できる。 				
1	鳥居	看護技術の概念 「看護の心」と「技術」の連関について	講義、DVD 視聴など		
2	鳥居	看護におけるコミュニケーション技術 (1) コミュニケーションの基礎知識	講義、演習		
3	鳥居	(2) 人間関係とコミュニケーション (ベッドサイドで 最適なコミュニケーションの位置の検討含む)	講義、演習		
4	鳥居	観察・記録・報告 (1) 看護における観察	講義、グループワーク		
5	鳥居	(2) 看護記録の基礎知識	講義		
6	鳥居	(3) 看護記録の実際 (SOAP, プロセスレコードなど) (4) 報告	講義		
7	土屋	バイタルサイン (1) バイタルサインの意義	講義		
8	土屋	(2) バイタルサインの測定方法① 体温・呼吸・循環・意識	講義、演習		
9	土屋	バイタルサインの測定方法② 体温・呼吸・循環・意識	講義、演習		
10	土屋	演習：血圧測定の実際/血圧測定 of 技術確認あり	講義、演習		
11	土屋	演習：事例を通してバイタルサイン測定の一連の実施と記録	演習		
12	鳥居	安全・安楽の技術 (1) 医療・看護における安全の意義	講義		
13	鳥居	(2) ボディメカニクス/看護における安楽	講義、演習		
14	鳥居	(3) 感染予防対策	講義		
15	鳥居	(4) 演習：感染予防の実際 (衛生的手洗い、感染防護用具の装着、無菌物の取り扱い)	演習		
評価方法	筆記試験・レポート・技術点 100点				
学習資源	茂野香おる著 系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 任和子著 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 医療情報科学研究所編集 看護技術がみえる vol. 1 基礎看護技術 メディックメディア 医療情報科学研究所編集 看護技術がみえる vol. 2 臨床看護技術 メディックメディア 高橋清美編著 はじめての看護実習 基礎からのステップアップ 看護コミュニケーションへるす出版				
受講事前準備	講義の前にテキストを読んでおく。 聴診器、ペーパータオル、ディスポ手袋、ディスポエプロン、マスク 擦式アルコール洗浄液を準備する。(準備物品の詳細は事前に説明)				

科目	日常生活援助技術論Ⅰ	1単位 30時間	1年 前期	担当 成岡千恵子・石井 幸子
授業の目的・目標	<p>日常生活援助技術論では、健康障害によりセルフケア不足をきたした対象が健康生活を保持していくうえで欠かすことができない基本的な生活支援技術の基礎を学ぶ。</p> <p>また、共通看護技術論で学んだ安全・安楽・自立を踏まえ、科学的根拠と倫理的配慮に基づき、専心を基盤とした看護実践能力を育む。</p> <p>人間と環境の相互関係と対象にとっての環境の意味を理解し、環境を整える技術を習得する。また、対象の生活習慣を考慮し、活動と休息のバランスを考え生活を整える技術を習得する。</p> <p>1. 環境の概念・環境調整の意義を理解し、学生自身も人的環境の一部である事を認識し、快適な病床環境について考えることができる。</p> <p>2. 療養者の快適な環境調整として「病室整備」と「ベッドメイキング」の基本的技術を習得することができる。</p> <p>3. 健康と体位の関係性に基づき安楽な体位への援助が実施できる。</p> <p>4. 人間にとっての睡眠・休息の意義を考えて、睡眠・休息の援助方法を説明できる。</p> <p>5. 安全・安楽・自立支援に基づいた体位変換・移乗・移送技術を習得できる。</p>			
1	成岡	環境の概念と環境調整の意義		講義
2	成岡	環境調整の実際 ①病床の作り方、②基本的なベッドの作り方		講義、演習
3	成岡	ベッドメイキングの基本と実践に即したベッドメイキングの実際 *別日：ベッドメイキングの技術チェックあり		講義、演習
4				講義、演習
5	成岡	病床整備の基礎知識／病床整備の実際		講義
6	成岡	病床整備の実際（事例検討：シミュレーション使用） 事例の「環境整備」の手順表を作成／事例の生活空間としての病床整備を実施		演習/グループ発表
7				
8	石井	健康生活と体位 体位とは／体位の特徴		講義、演習
9	石井	安楽な体位への援助方法（1） 床上安静ケア・ポジショニングの検討		演習
10	石井	安楽な体位への援助方法（2） 床上安静ケア・ポジショニングの実際		演習
11	石井	健康生活にとっての活動と休息の意義		講義
12	石井	活動の援助方法（1） 体位変換の基本／体位変換の技術演習		講義、演習
13	石井	活動の援助方法（2） 起き上がり・移乗の基本／起き上がり・移乗の技術演習		講義、演習
14	石井	活動の援助方法（3） 移送の援助の基本／移送の技術演習		講義、演習
15	石井	事例検討 -対象の状態に応じた活動の援助-		演習/グループ発表
評価方法	筆記試験・レポート・技術点 100点			
学習資源	任和子著 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 医療情報科学研究所 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 川島みどり著 生活行動援助の技術 ありふれた営みを援助する専門性 看護の科学新社			
受講事前準備	講義の前にテキストを読んでおく。			

科目	日常生活援助技術論Ⅱ	1単位 30時間	1年 前期	担当 澤木 亜紀
授業の目的・目標	<p>人が生活するうえでの清潔の意義を理解し、清潔保持に関する生理的メカニズムを踏まえ、対象に応じた清潔援助の基礎を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 療養環境における衣生活と清潔について考え、清潔を維持する必要性と看護師の役割を理解できる。 介助を必要とする対象の寝衣交換を安全、安楽に実施できる。 清潔に影響を及ぼす身体・心理・社会的背景などの要因について理解することができる。 心地よい清潔援助をするための安全、安楽な方法を見出し実施できる。 事例に沿った清潔援助を考え実施し、清潔援助の意義を再考することができる。 			
1	澤木	身だしなみを整えることの必要性と看護師の役割		講義、グループワーク
2	澤木	療養生活における衣生活を考える		講義、グループワーク
3	澤木	事例に沿った寝衣交換		講義、演習
4				
5	澤木	清潔ケアの種類と実際（1） （入浴・シャワー浴・全身清拭・洗髪）		講義、演習
6	澤木	清潔ケアの種類と実際（2） （部分清拭・部分浴・陰部洗浄・口腔ケア）		講義、演習
7	澤木	事例に沿った清拭（1）		講義、演習
8				
9	澤木	洗髪・シャワー浴・手浴・足浴・陰部洗浄の実際		演習
10				
11				
12	澤木	事例に沿った清拭の実際（2） 別日：臥床患者の清拭技術確認あり		演習
13				
14	澤木	事例に沿い気持ち良い清潔援助をグループ内検討/発表/共有		演習/グループ発表
15				
評価方法	筆記試験・レポート・技術点 100点			
学習資源	任和子著 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 医療情報科学研究所編集 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 川島みどり著 生活行動援助の技術 ありふれた営みを援助する専門性 看護の科学新社 小寺豊彦著 プチナース Book 楽しく学ぶ！看護につながる解剖生理 照林社			
受講事前準備	講義前にテキストを読んでおく。			

科目	日常生活援助技術論Ⅲ	1単位 30時間	1年 後期	担当 新人2名・石井幸子
授業の目的・目標	<p>人間にとっての食事・排泄の意義を理解し、対象の尊厳を守り、状況に応じた援助をするための基礎的知識・技術を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての食事、排泄行動の意義について理解できる。 2. 解剖生理学の知識を統合し、安全・安楽に留意した食事、排泄援助の方法を理解できる 3. 対象の身体機能・生活背景を踏まえて、その人のニーズに沿った食事・排泄の援助方法を理解し、援助技術を習得できる。 4. 対象の尊厳を守り食事・排泄援助を行うことの重要性を理解できる。 			
1	基礎新人	【健康生活と食事・栄養】 食事・栄養のしくみ／栄養のアセスメント／食事行動における看護師の役割	講義	
2	基礎新人	【食事援助】 医療施設で提供される食事／経口摂取可能患者の食事介助	講義、演習	
3	基礎新人	【食事援助の実際】 食事行動を障害された対象の食事援助の方法／食事の形態的特徴を考慮した食事援助の方法	演習	
4				
5	野嶋	【経腸栄養】 経腸栄養の基礎知識／経鼻胃チューブによる栄養摂取の援助／胃瘻による栄養の援助／経腸栄養の実際	講義、演習	
6				
7	石井	【人間にとっての排泄とは】 排泄は人間の生理的欲求	講義、演習	
8	石井	【健康生活と排泄】 自分の生活から排泄を考える／臥床排泄体験	講義、グループワーク	
9	石井	【排泄援助】 排泄行動の援助（尿器・便器）／排泄機能の援助（導尿、グリセリン浣腸・摘便、おむつ交換）／環境の調整	講義、演習	
10	石井	【排便異常時の援助】 排便異常時のアセスメント／排便異常時の看護（便秘・下剤・便失禁）／浣腸の技術	講義、演習	
11	石井	【演習：グリセリン浣腸】	演習	
12	石井	【排尿異常時の援助】 排尿異常時のアセスメント／排尿異常時の看護／導尿の技術／滅菌操作について（滅菌手袋技術確認あり）	講義、演習	
13	石井	【演習：一時的導尿】	演習	
14	石井	【演習】事例に基づく、個人のニーズに沿った排泄援助の検討／グループ内検討・発表・共有	演習	
15				
評価方法	筆記試験・レポート・技術点 100点			
学習資源	任和子著 系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 医療情報科学研究所編集 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 医療情報科学研究所 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア 川島みどり著 生活行動援助の技術 ありふれた営みを援助する専門性 看護の科学新社 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 学研 小寺豊彦著 プチナース Book 楽しく学ぶ！看護につながる解剖生理 照林社			
受講事前準備	講義の前にテキストを読んでおく。			

科目	回復促進援助技術論 I	1 単位 30 時間	2 年 前期	担当 横畑 久子・成岡千恵子
授業の目的・目標	<p>診療とは診察と治療を行うことであり、医師と共に他の医療従事者が協働して進められるものである。そのなかでも看護師は対象と常に共にある存在であり、対象に適切な診療が行われるように医師の指示のもと、援助を実践する最終実施者としての重大な責任をもつ。ここでは、診療に伴う基本技術のうち薬物療法と検査に関するものについて学ぶ。対象に適切な診療が行われるよう、原理・原則をふまえ、その場に応じて判断・実施できるための基本的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 検査の種類と留意点を理解し、検査における看護師の役割を説明できる。 2. 静脈血採血が原理・原則に基づいて安全・安楽に実施できる。 3. 与薬の援助に必要な基礎知識と看護師の役割・責任を説明することができる。 4. 安全・安楽な与薬に必要な方法と注意点を理解できる。 			
1	横畑	<検査に伴う援助技術> 検査における看護師の役割/検体検査(尿・便検査など)		講義
2	横畑	【血液検査と看護】		講義
3	横畑	【静脈血採血の実際】		演習:シミュレーター
4	横畑	【真空管採血・穿刺】真空管採血の実際/穿刺液検査の種類		演習:シミュレーター 使用・講義
5	横畑	【生体検査と看護】		講義、グループ発表
6	成岡	<与薬の技術> 【与薬の基礎知識】《薬物療法の意義/与薬における看護師の役割と責任/誤薬防止のための知識》		講義
7	成岡	【与薬の実際】《処方箋見方、経口・直腸内・吸入他》		講義、演習
8	成岡	【注射法の基礎知識】 針・シリンジの接続/アンプル・バイアルの使用方法		演習:シミュレーター
9	成岡	【皮内注射の実際】		演習:シミュレーター
10	成岡	【皮下注射の実際】		演習:シミュレーター
11	成岡	【筋肉内注射の実際】		演習:シミュレーター
12	成岡	【静脈内注射の基礎知識】		演習:シミュレーター
13	成岡	【静脈内注射の実際】		演習:シミュレーター
14	成岡	事例に沿った与薬の検討		演習:シミュレーター
15	成岡	輸血時の看護		講義
評価方法	筆記試験・レポート・技術点 100 点			
学習資源	任和子著 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 医療情報科学研究所 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア 高木康編 新訂版 看護に生かす検査マニュアル 第2版 サイオ出版			
受講事前準備	講義前にテキストを読んでおく。 アルコール綿を事前に準備しておく。(準備物品の詳細は事前に説明)			

科目	回復促進援助技術論Ⅱ	1単位 30時間	2年 前期	担当 嶺岡永味子・袴田久美子 植村いづ美・藤井 浩美 落合美智枝
授業の目的・目標	<p>診療に伴う基本技術のうち、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、および医療用機器の原理と操作方法について学び、対象に適切な診療が行われるよう、原理・原則をふまえ、その場に応じて判断・実施できるための基本的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸・循環に関連する解剖生理学、病態生理、フィジカルアセスメントの知識を想起させ、低酸素血症に陥る原因を考察し呼吸困難感をイメージすることができる。 2. 呼吸・循環を整える援助の基本知識と基本的援助技術を習得できる。 3. 呼吸・循環を回復するために患者の身体・精神両面に目を向けた援助を提案できる。 4. 創傷治癒過程を正しく理解し創傷の回復に必要な技術を習得できる。 5. 医療用機器の原理と使用方法を正しく理解することができる。 			
1	嶺岡	【呼吸・循環を整える技術】 (1) 呼吸・循環を整える援助技術の基本	講義、演習	
2	嶺岡	(2) 呼吸を整える援助方法 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法/気道分泌物の排出の援助	講義、演習	
3	嶺岡	(3) 酸素吸入療法の基本 酸素吸入療法の概要/酸素吸入療法の方法	講義、演習	
4	嶺岡	(4) 酸素吸入療法の実際 酸素吸入療法/酸素吸入療法の実際	講義、演習	
5	落合	(5) 循環・体温を整える援助技術の基本	講義、演習	
6		冷電法/温電法		
7	藤井	(6) 一時吸引の方法の基本 一時的吸引の目的/一時的吸引の方法/胸腔ドレナージ/人工呼吸療法	講義、演習	
8	藤井	(7) 一時吸引の方法の実際 口腔や鼻腔から行う一時的吸引/気管切開・気管挿管している患者に行う一時的吸引	講義	
9	嶺岡	事例検討：呼吸・循環を回復する援助技術の実際	演習	
10				
11	植村	【創傷管理技術】 (1) 創傷管理の基礎知識	講義	
12	植村	(2) 包帯法	演習	
13	袴田	医療用機器の原理と実際 (1) ME 機器の基礎知識	講義	
14	袴田	(2) ME 機器の概要と留意点	講義	
15	袴田	(3) 輸液ポンプ 電気メス 他	演習	
評価方法	筆記試験・レポート・技術点 100点			
学習資源	任和子著 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 医療情報科学研究所 看護技術がみえる vol.1 臨床看護技術 メディックメディア 香春知永編著 系統看護学講座専門1 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 小寺豊彦著 プチナース Book 楽しく学ぶ！看護につながる解剖生理 照林社			
受講事前準備	講義の前にテキストを読んでおく。			

科目	臨床看護方法論	1単位 30時間	1年 後期	担当 鳥居 千恵・小野奈津子
授業の目的・目標	<p>看護の場は病院・施設に留まらず、地域にも拡大している。この現状を踏まえつつ、健康障害をもつ対象を理解し状態に応じた看護実践するための基礎的能力を養う。総論として、「対象を大づかみにとらえる全体像の把握の視点」を学ぶ。さらに、「経過別および症状別」の視点で対象理解を深め、健康障害の各経過において必要となる看護や健康障害により生じる症状に対する看護の基礎を学ぶ。特に、症状別に関しては、看護師がベッドサイドで直接関わるのは対象から多様に訴えられる「症状」であることに着目し、看護の独自性として症状が対象に与える苦痛の理解や日常生活への影響を分析できる能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害をもつ対象を全人的に捉える視点と家族のニーズを捉えるための視点を説明できる。 2. 健康障害の各過程の経過の特徴と対象の心身の反応を理解し必要となる看護の概要が説明できる。 3. 看護師が対象の抱える症状に介入する意義について理解できる。 4. 健康障害により生じる症状が対象に及ぼす影響を考え、看護上のニーズを見出すことができる。 5. 看護上のニーズに沿った援助計画を実施及び修正することができる。 			
1	鳥居	健康上のニーズをもつ対象と家族への看護Ⅰ /全体像モデルを活用した視点		講義 個人ワーク グループワーク
2		健康上のニーズをもつ対象と家族への看護Ⅱ /健康障害を持つ人の家族のニーズ		
3		経過別看護①健康状態の変化に伴う「経過」の特徴と看護の視点/ヘルスプロモーション期		
4		経過別看護② 急性期にある人と看護		
5		経過別看護③ リハビリテーション期にある人と看護		
6		経過別看護④ 慢性期にある人と看護		
7		経過別看護⑤ 終末期にある人と看護（臨終時の看護技術を含む）		
8	小野	症状別看護① 症状別看護とは		講義 「個人ワーク」→ 「グループワーク」 →全体共有
9		症状別看護② 事例の症状を捉える（症状マップの作成）		
10		症状別看護③ 症状のメカニズムの再考と症状が人や生活に与える影響について		
11		症状別看護④ 症状を捉える視点を考えよう（症状マップ発表）		
12		症状別看護⑤ 症状の生活への影響と課題を考えよう（生活への影響の分析）		
13		症状別看護⑥ 必要とされる援助を明らかにする（行動計画・手順書の作成）		
14		症状別看護⑦ 症状に対する看護を検討しよう（グループ発表①）		
15		症状別看護⑧ 症状に対する看護を検討しよう（グループ発表②・まとめ）		
評価方法	課題レポート 75 点（経過別看護 25 点、症状別 55 点）筆記試験 20 点			
学習資源	<p>香春知永他 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 医学書院 医療情報科学研究所編 看護技術がみえる①基礎看護技術, ②臨床看護技術 メディックメディア 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 第5版 学研 小寺豊彦著 プチナース Book 楽しく学ぶ!看護につながる解剖生理 照林社</p>			
受講事前準備	講義前にテキスト読んでおく。既習の解剖生理、疾病治療論の学習を復習しておく。			

科目	地域・在宅看護概論	1単位 30時間	1年 通年	担当 渡邊禎子
授業の目的・目標	<p>地域で暮らす人々の多様性と暮らしを自己を通して理解し、地域を展望する俯瞰の目と生活者としての自己を投入して我が事として対象を見る視座の基礎を修得する。また、地域・在宅看護論の対象の理解、暮らしと健康の関係を理解して支える仕組み、地域包括ケアシステムの意義と概念を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々の暮らしの多様性、生活様式の独自性を理解する 2. 暮らしが健康に与える影響を理解する 3. 地域・在宅看護の対象を理解する 4. 地域包括ケアシステム等の意義と概念、看護の役割を学ぶ 5. 健康と暮らしを支えあう地域の仕組みを理解する 			
1	I. 人々の暮らしと地域・在宅看護 1. 地域・在宅看護論に期待すること 2. 人々の暮らしの理解			講義・GW
2	3. 地域・在宅看護の役割			講義・GW
3	暮らしを理解する～インタビューから暮らしについて考えよう～			GW
4	II. 暮らしの基盤としての地域の理解 1. 暮らしと地域のかかわり 2. 暮らしと地域を理解するための考え方			講義・GW
5	フィールドワーク オリエンテーションと事前準備			講義・GW
6	フィールドワーク（中区・南区・北区・西区・浜北区）			演習
7	「地域の特性とその地域の人々の暮らしを理解する」			
8	「地域の特性とその地域の人々の暮らしを理解する」発表			GW
9	III. 地域・在宅看護の対象者 1. 地域・在宅看護の対象者			講義・GW
10	2. 家族の理解			講義・演習
11	IV. 地域における暮らしを支える看護 1. 暮らしの環境を整える看護 2. 健康ニーズを支える看護			講義・GW
12	3. 地域・在宅看護におけるライフステージに応じた看護			講義・GW
13	4. 地域・在宅看護における倫理			講義・GW
14	5. 地域での暮らしにおけるリスクの理解 6. 地域での暮らしにおける災害対策			講義・GW
15	まとめ 地域・在宅看護概論での学びと自己の課題発見			講義
評価方法	ループリック評価100点			
学習資源	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院			
受講事前準備	<p>日頃から新聞記事やニュースなど社会情勢に関心を持つとともに、自らが居住する地域の活動や情報に関心を持って身近な人から情報を集める。 家族や身近な人の生活習慣に関心をもつなど、自ら学びを深める姿勢をもつ。 テキストに目を通す。 提示する事前学習に取り組む。</p>			

科目	地域・在宅看護援助論 I	1 単位 20 時間	1 年 後期	担当 渡邊禎子 下位彰吾・山口美津子
授業の目的・目標	<p>暮らしを支える法・制度・施策の活用について学び、地域包括支援体制の理解と、その一員としての看護が基盤とすべき理念と役割を学ぶ。変化の渦中にある現体制を踏まえて暮らしに必要な新たな社会システムの創造の必要性についても看護の課題であることを学ぶ。</p> <p>1. ケアを必要とする人々に提供される場と看護について説明できる。 2. 地域・在宅看護に必要な法・制度・施策の活用が分かる。 3. 地域・在宅看護に携わる人に求められる姿勢を理解できる。</p>			
1	渡邊	地域・在宅看護実践の場と看護 看護を提供する場と看護の役割	講義・GW	
2		地域・在宅看護における多職種連携 多職種連携に必要な看護者の役割	講義・GW	
3		地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 地域に暮らす人々の求める支援とそれに関連した制度 事例を基に課題と解決策を考える	講義・GW	
4		地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 グループの制作物の発表	講義・GW	
5	下位 (地域包括)	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 地域包括ケアシステム① 地域包括支援センターの目的・機能・特徴と関連する制度	講義	
6		地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 地域包括ケアシステム② 地域の課題に対する法と制度の活用事例	講義	
7	山口 (訪問看護)	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 訪問看護の制度と機能① 訪問看護の目的・機能・特徴と関連する制度	講義	
8		地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 訪問看護の制度と機能② 訪問看護の仕組みとその実際	講義	
9	渡邊	暮らしを支える活動への参画とは 支援をするものとして必要な能力を明らかにしよう 暮らしへの支援の中における看護とは	GW (超高齢社会体験ゲーム)	
10		地域の人々の暮らしに寄り添う看護とは 「支援を受ける」人の声から考える 地域・在宅看護実践に欠かせない要素	講義・GW	
評価方法	筆記試験 60 点 ルーブリック 40 点			
学習資源	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院			
受講事前準備	日頃から新聞記事やニュースなどの関連記事に関心を持つ。 提示する事前学習に取り組む。 実習で記録したノートを読んで、学んだ事や気づいたことを整理しておく			

科目	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1単位 30時間	2年 前期	担当 澤木亜紀・谷口弥生 犬塚久美子・糸賀小ゆり
授業の目的・目標	<p>地域で生活している人々の健康の保持増進・疾病の予防にかかわる看護の視点、パートナーシップに基づいたセルフケアマネジメント支援の概要を学ぶ。また、地域で暮らす人々の健康を守る支援のための考え方と看護、その実践の基礎を学ぶ。</p> <p>1. 対象の生活や健康課題、地域の特性と暮らしの関連を説明できる。 2. 対象の暮らしを支え、守る看護の実際と看護者の心構え・必要な技術を説明できる。 3. 対象の健康課題の解決や健康の保持増進と疾病を予防する支援の方向性を説明できる。</p>			
1	澤木	I. 地域共生社会に向けた支援の創造 1. 1年次の振り返りの地域共生社会を実現するために必要なこと 超高齢社会における支援の在り方について考える ストレングスとケアマネジメントの視点		講義・GW
2		2. フィールドワークオリエンテーション		講義・GW
3		3. フィールドワーク 地域の特性と人々の暮らしと健康		演習
4				
5		4. フィールドワーク 成果発表会		GW
6				
7	犬塚	中山間地域に暮らす人々を支える看護職の在り方		講義
8	谷口	II. 暮らしを支える看護職のあり方 1. 暮らしを支える看護実践 意思決定を支える・チームで支えるとは パートナーシップとナビゲートする対話		講義・GW
9		2. 地域・在宅看護における家族を支える看護 3. 地域・在宅看護における安全を守る看護		講義・GW
10		III. 地域に暮らす人々の健康を守る支援 1. 地域に暮らす人々の暮らしと健康段階及び各期に関連する場		講義・GW
11		2. 健康段階各期の支援（健康な時期・外来受診期・入院期の支援）		講義・GW
12	糸賀	3. 療養の場の移行時に必要な支援 移行時にかかわる職種と連携・協働による包括支援 看護職の役割		講義・GW
13		4. 移行期の支援の実際（在宅療養準備期・在宅療養移行期）		講義・GW
14	谷口	IV. 地域・在宅看護におけるケアマネジメント		講義・GW
15		まとめ 地域共生社会における看護の役割と考える		講義・GW
評価方法	筆記試験 40点 ループリック・レポート 60点（澤木・犬塚 46点）			
学習資源	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実際 地域在宅看護論2 医学書院			
受講事前準備	提示する事前学習に取り組む。 地域・在宅看護概論、援助論Ⅰのノートとプロセス・リザルト図解を一読しておく。			

科目	地域・在宅看護援助論Ⅲ	1単位 30時間	2年 後期	担当 谷口弥生・長谷川厚子 袴田智彦
授業の目的・目標	<p>対象を連続体としてとらえ、健康維持・療養が必要な人々への看護の視点と在宅における慰労・看護の特徴を踏まえた技術を習得することで、地域・在宅看護におけるケアニーズを重視した看護実践について学ぶ。</p> <p>1. 「生きること」を支える暮らしと医療を統合した援助の必要性と実際を説明できる。 2. 暮らす人々への看護実践に向けた看護過程を理解できる。 3. 様々な状況にある対象に必要な看護援助の方法を習得できる。 4. 地域共生社会における看護活動の創造について理解できる。</p>			
1		I. 地域・在宅看護における看護の展開 1. 地域・在宅看護過程の基本～ストレングスとケアマネジメント～ 地域・在宅看護過程の特徴		講義
2	谷口	II. 地域における暮らしを支える看護実践 1. 「生きること」を支える暮らしと医療の統合とは 健康レベル・場に合った支援 2. 対象者とかぞくの視点に立って支援を考える		講義
3		3. 様々な生活行動に関する地域・在宅看護技術 活動・食事・排泄・清潔・衣生活		講義・GW
4	谷口 外部講師 (株) 帝人	4. 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術 呼吸循環に関するアセスメントと医療管理レベルの高い療養者の看護 HOT・NPPV・TPPV・HMV		講義・GW
5		III. 地域・在宅看護過程の展開 1. 地域・在宅看護過程の展開方法		講義・GW
6		情報収集・アセスメント・看護目標の設定・計画・実施・評価		
7		2. 事例を通して援助を考えてみよう		
8	谷口	グループごとに事例に必要な援助の計画と実践		GW・演習
9		3. 地域に暮らす個人の主体的な健康づくりとその支援		
10		ヘルスリテラシーと小集団（グループ）の力を活用した支援の実際		講義・GW
11		グループごとに健康支援活動を企画しよう		
12	長谷川	IV. 在宅看護の実際の展開 医療的ケア児・難病・がん終末期		講義
13	袴田	精神訪問看護（統合失調症・認知症高齢者 等）		講義
14	谷口	V. 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働 医療福祉介護関係者以外の人々も含めた連携・協働と地域資源の開発		GW
15		まとめ 地域・在宅看護活動の創造について考える		
評価方法	筆記試験・ループリック 100点			
学習資源	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践 地域在宅看護論2 医学書院			
受講事前準備	日頃から新聞記事やニュースなどの関連記事に関心を持つ。 提示する事前学習に取り組む。 関連する既習内容の復習しておく。			

科目	成人看護学概論	1単位 16時間	1年 後期	担当 澤木 亜紀・藤田 美也子
授業の目的・目標	<p>成人期にある人の健康問題をライフサイクル・ライフスタイルに関連付けて理解し、健康問題の動向と予防対策を保健活動の視点から学ぶ。また、健康障害をもつ成人期にある人の看護の基本について学ぶ。</p> <p>1. 成人期にある人の身体的・心理的・社会的な特徴を踏まえ、健康問題の特徴と予防対策を理解できる。</p> <p>2. 成人期にある人を支援するための看護の基本的な視点を理解できる。</p>			
1	澤木	成人期にある人とその背景 成人保健における予防と援助活動の基本		講義 グループワーク など
2		生活習慣病に関連する健康障害・生活習慣病の予防		
3		生活ストレスに関連する健康障害・ストレスの予防		
4		職業に関連する健康障害とその予防		
5		成人保健における予防と援助活動の基本		
6	藤田	健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的な視点① 成人看護学における「健康」・権利擁護と看護者の役割		
7		健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的な視点② 健康生活を支える人間関係の構築・看護場面の再構成		
8		健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的な視点③ 健康行動への行動変容：成人に対する健康学習支援 「自己効力」「アンドラゴジー」「エンパワーメント」		
評価方法	筆記試験 80点 課題レポート 20点			
学習資源	黒江ゆり子編 新体系看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論/成人保健 7版 メヂカルフレンド社 黒田裕子 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第3版 学研 国民衛生の動向 厚生労働統計協会（令和5年夏発売）			
受講事前準備	テキストに目を通しておく。 新聞記事・ニュースなど社会情勢に関心を持つ。			

科目 成人看護援助論 I (健康障害別看護援助論 I)	1 単位 30 時間	2 年 後期	担当 鈴木 麻希子・山本 浩樹 杉本 雄一 ・加藤 夕子 高橋 紫 ・川口 里枝
授業 の 目 的 ・ 目 標	<p>身体の様々な機能障害とそれらがもたらす生命・生活への影響を理解し、健康障害を持つ人への基本的看護活動を学ぶ。特に呼吸機能障害、循環機能障害、運動機能障害を持つ人の外科的・内科的療法学ぶ。また、それらに付随して起こる看護上の問題並びに生活への支援について学ぶ。</p> <p>1. 呼吸・循環障害を有する対象への診療の補助・看護上の問題並びに生活支援方法が理解できる。</p> <p>2. 運動機能障害を有する対象への診療の補助・看護上の問題並びに生活支援方法が理解できる。</p>		
1	鈴木 麻	呼吸機能障害を持つ患者の看護① 1 呼吸機能障害の観察とアセスメント 1) 呼吸機能の検査と観察 2) 呼吸器症状の観察 3) 換気障害、ガス交換障害の程度・分析・原因	
2		呼吸機能障害を持つ患者の看護② 2 症状に対する援助① 1) 呼吸困難時の看護 ①呼吸理学療法 ②酸素療法 ③生活指導	
3		呼吸機能障害を持つ患者の看護③ 2 症状に対する援助② 2) 喀痰困難時の看護 ①呼吸理学療法 ②吸入療法 ③薬物療法への指導	
4		呼吸機能障害を持つ患者の看護④ 3 慢性呼吸不全患者の看護	
5	山 本	呼吸機能障害を持つ患者の看護⑤ (外科的看護①) 1 肺切除術における術前・中・後の看護 2 胸腔鏡下手術における看護	
6		呼吸機能障害を持つ患者の看護⑥ (外科的看護②) 3 胸腔ドレーン管理 1) 胸腔ドレーンの原理 2) 胸腔ドレーンの管理、挿入時のケア	
7	杉 本	循環機能障害を持つ患者への看護① 1 循環機能障害の観察とアセスメント 1) 循環機能の検査と観察 2) 循環機能障害の程度と観察 3) 心身・日常生活への影響	
8		循環機能障害を持つ患者への看護② 2 症状・疾患・治療における援助① 1) 不整脈時の治療と援助 2) 経皮的冠動脈形成術時の援助 3) ペースメーカー装着時の援助	
9	加 藤	循環機能障害を持つ患者への看護③ 2 症状・疾患・治療における援助② 4) 慢性心不全患者の看護	
10		循環機能障害を持つ患者の看護④ 2 症状・疾患・治療における援助③ 5) 虚血性心疾患患者の生活指導 6) 薬物療法における服薬指導☆	
11	高 橋	循環機能障害を持つ患者の看護⑤ (外科的看護①) 1 心臓血管手術における術前・中・後の看護 1) 冠動脈バイパス術	
12		循環機能障害を持つ患者の看護⑥ (外科的看護②) 1 心臓血管手術における術前・中・後の看護 2) 人工血管置換術 3) 弁膜手術 (補助循環< I A B P, P C P S 等>、人工心肺装置)	
講義・グループワーク・演習等			

13	川 口	運動機能障害を持つ患者の看護① 1 運動機能障害の観察とアセスメント 1) 運動機能の検査と観察 2) 日常生活動作の観察 3) 運動機能障害の程度と原因 4) 心身・日常生活への影響
14		運動機能障害をもつ患者の看護② 2 病態・治療における看護① 1) 骨折の看護 (保存的療法・外科的療法) 2) 人工関節置換術の看護 3) 四肢切断・再接着術の看護
15		運動機能障害をもつ患者の看護③ 2 病態・治療における看護② 4) 脊髄損傷の看護 (排泄障害の看護も含む) 5) 関節リウマチ患者の看護
評価方法	筆記試験 200 点 (100 点換算し、評価する)	
学習資源	野口美和子他編 新体系看護学全書 別巻① 呼吸機能障害/循環機能障害 メヂカルフレンド社 浅野浩一郎他編 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 2 呼吸器 15 版 医学書院 吉田俊子他編 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 3 循環器 15 版 医学書院 矢永勝彦他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 12 版 医学書院 北島政樹他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 10 版 医学書院 野口美和子他編 新体系看護学全書 別巻⑤ 運動機能障害/性・生殖機能障害 メヂカルフレンド社 田中栄他編 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 15 版 医学書院	
受講事前準備	テキストに目を通しておく	

科目 成人看護援助論Ⅱ (健康障害別看護援助論Ⅱ)	1単位 30時間	2年 後期	担当 福井 諭 ・遠藤 祐子 岡野 紀子・松下 美緒 小栗 智子・江間 沙記
授業の目的・目標	<p>身体の様々な機能障害とそれらがもたらす生命・生活への影響を理解し、健康障害を持つ人への基本的看護活動を学ぶ。特に人体の主要な機能である消化・吸収/栄養代謝、生体防御機能、咀嚼・嚥下機能、感覚機能障害について外科的・内科的療法を学ぶ。また、それらに付随して起こる看護上の問題並びに生活への支援について学ぶ。</p> <p>1. 消化・吸収/栄養代謝機能障害を有し、治療を受ける対象への診療の補助・看護上の問題並びに生活支援方法を理解できる。</p> <p>2. 生体防御機能障害を有し、治療を受ける対象への診療の補助・看護上の問題並びに生活支援方法を理解できる。</p> <p>3. 咀嚼・嚥下機能、感覚機能障害を有し、治療を受ける対象への診療の補助・看護上の問題並びに生活支援方法を理解できる。</p>		
1	福井	消化・吸収/栄養代謝障害を持つ患者への看護① 消化・吸収機能と役割 消化・吸収機能の障害とその症状 (嘔吐・イレウス・下痢・便秘)	
2		消化・吸収機能障害の把握と看護② 消化・吸収機能の障害とその症状 (吐血・下血・腹痛・腹部膨満)	
3		消化・吸収障害を持つ患者の看護③ 消化器系の治療 (薬物・放射線・栄養療法) 消化性潰瘍・急性膵炎・慢性膵炎・	
4		消化・吸収障害を持つ患者の看護④ 大腸がん (直腸切除を除く)・潰瘍性大腸炎・クローン病	
5	遠藤	消化・吸収障害を持つ患者の看護⑤ (外科的看護①) 消化管手術における術前・中・後の看護 1) 食道再建術 2) 胃切除術	
6		消化・吸収障害を持つ患者の看護⑥ (外科的看護②) 消化管手術における術前・中・後の看護 3) 膵臓切除術・胆嚢切除術	
7		消化・吸収障害を持つ患者の看護⑦ (外科的看護③) 内視鏡的検査・治療における看護 1) 食道・胃に対する内視鏡手術 2) 膵・胆道に対する内視鏡的検査・治療 3) 腹腔鏡下手術	
8	岡野	消化・吸収障害を持つ患者の看護⑤ (外科的看護④) 演習 消化管手術における術後管理 ドレーンの原理と種類、管理について	
9	松下	栄養代謝障害を持つ患者への看護① 肝機能障害の観察とアセスメント 栄養代謝機能障害の症状 (肥満・動脈硬化・るいそう・肝不全)	
10		栄養代謝障害を持つ患者への看護② 急性・慢性肝炎のメカニズムと治療・検査 肝硬変のメカニズムと症状および治療・検査 肝硬変のある患者の看護	
11		栄養代謝障害を持つ患者への看護③ 肝臓がんの検査と病期 肝臓がんの検査と治療 (外科的治療・化学療法・放射線療法) 肝臓がんのある患者の看護	
			講義・グループワークなど

12	小栗	生体防御機能障害を持つ患者の看護① 1 免疫機能の観察とアセスメント 1) 炎症反応の観察 2) 免疫機能低下の程度と原因 3) 心身・日常生活への影響 2 免疫不全のある患者の看護
13		生体防御機能障害を持つ患者の看護② 3 免疫機能低下のある患者の看護 1) 白血病患者の看護 2) 骨髄移植・幹細胞移植術の看護 3) 臓器移植での看護 4) 移植時の倫理的配慮
14	江間	咀嚼・嚥下機能障害を持つ患者の看護① 咀嚼・嚥下障害の観察とアセスメントとその看護
15		感覚機能障害を持つ患者の看護① 耳鼻咽喉に関連した治療とその看護 (外内耳・甲状腺・咽頭・副鼻腔)
評価方法	筆記試験 200 点 (100 点換算し、評価する)	
学習資源	野口美和子他編 新体系看護学全書 別巻② 消化・吸収機能障害/栄養代謝機能障害 メヂカルフレンド社 松田明子他編 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 5 消化器 15 版 医学書院 矢永勝彦他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 12 版 医学書院 北島政樹他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 10 版 医学書院 野口美和子他編 新体系看護学全書 別巻③ 内部環境調節機能障害/身体防御機能障害 メヂカルフレンド社 吉田成人他編 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 6 内分泌・代謝 15 版 医学書院 黒江ゆり子編 新体系 看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護 2 版 メヂカルフレンド社 飯野京子他編 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 4 血液・造血器 15 版 医学書院 小松浩子他編 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 14 耳鼻咽喉 14 版 医学書院	
受講事前準備	テキストに目を通しておく。	

科目 成人看護援助論Ⅲ (健康障害別看護援助論Ⅲ)	1単位 30時間	2年 後期	担当 金森 光治・鈴木 恵里 高柳 昌子・瀧澤 潮美 佐野 絢子・高羽 里佳 内田 亜美・松永 啓代 天野 一恵
授業の目的・目標	<p>身体の様々な機能障害とそれらがもたらす生命・生活への影響を理解し、健康障害を持つ人への基本的看護活動を学ぶ。特に人体の調整機能である脳・神経、内部環境調整、排泄/性・生殖機能障害について、外科的・内科的療法を学ぶ。また、それらに付随して起こる看護上の問題並びに生活への支援について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経障害を有し、治療を受ける対象への診療の補助・看護上の問題並びに生活支援方法を理解できる。 2. 内部調節機能障害を有し、治療を受ける対象への診療の補助・看護上の問題並びに生活支援方法を理解できる。 3. 排泄/性・生殖機能障害を有し、治療を受ける対象への診療の補助・看護上の問題並びに生活支援方法を理解できる。 		
1	金森	脳・神経機能障害を持つ患者の看護① 1 脳・神経機能の観察とアセスメント 1) 脳・神経機能の検査と観察 2) 頭蓋内圧亢進症状の程度と原因 3) 心身・日常生活への影響	
2		脳・神経機能障害を持つ患者の看護② (外科的看護) 2 脳神経手術における術前・中・後の看護 1) 開頭術 3 脳室ドレーン管理 1) 脳室ドレーンの原理と管理、挿入時のケア	
3	鈴木恵	内部環境調節障害を持つ患者への看護① (糖代謝障害①) 1 糖代謝障害の観察とアセスメント 1) 糖代謝障害の原因と程度 2) 糖代謝の検査 3) 高血糖、低血糖症状の観察	
4	高羽	内部環境調節障害を持つ患者への看護② (糖代謝障害②) 2 糖代謝障害のある患者の看護① 1) インシュリン療法・経口糖尿病薬の服薬指導 2) 自己血糖測定の指導 3) インシュリン自己注射の指導	
5	鈴木恵	内部環境調節障害を持つ患者への看護③ (糖代謝障害③) 2 糖代謝障害のある患者の看護② 4) 糖尿病の食事・運動療法 5) 糖尿病の合併症予防と生活指導	
6		内部環境調節障害を持つ患者への看護④ (内分泌機能障害①) 3 内分泌機能の観察とアセスメント 1) 甲状腺機能の検査と観察 2) 甲状腺機能障害に伴う症状の観察 3) 甲状腺機能障害の程度と観察 4) 心身・日常生活への影響	
7	瀧澤	内部環境調節障害を持つ患者への看護⑤ (内分泌機能障害②) 4 内分泌機能障害の看護 1) 検査・治療における看護 ①ホルモン補充療法、抗ホルモン療法の援助 ②アイソトープ検査、治療時の援助 2) ホルモンバランス失調状態時の生活指導	
8	佐野	内部環境調節障害を持つ患者への看護⑥ 5 体液調整機能のフィジカルアセスメント 1) 腎機能低下に伴う症状の観察 2) 体液不均衡の程度と原因	
9		内部環境調節障害を持つ患者への看護⑦ 6 体液不均衡のある患者の看護 3) 腎不全の病期に応じた援助 4) 血液透析・腹膜透析を行っている対象への生活指導	

講義・グループワークなど

10	松永	排泄機能障害を持つ患者の看護① 1 排尿・排便機能障害の観察とアセスメント 1) 排尿・排便機能の検査と観察 2) 尿排泄・排便障害の程度と原因 3) 心身・日常生活への影響
11		排泄機能障害を持つ患者の看護② 2 排泄機能障害における術前・中・後の看護 1) 直腸切除術、人工肛門造設術 2) 尿路変更術
12	高柳	性・生殖機能障害を持つ患者の看護① 1 女性生殖機能障害に対する看護① 1) 子宮摘出術 2) 卵巣摘出術
13	天野	性・生殖機能障害を持つ患者の看護② 1 女性生殖機能障害に対する看護② 3) 乳房摘出術 4) 生活指導
14	内田	腎/性・生殖機能障害を持つ患者の看護 1 検査時の援助 1) 尿流動態検査、膀胱鏡検査時の援助 2 腎・泌尿器手術における看護 1) 腎摘出術・腎移植 2) 前立腺摘出術
15	高柳	性・生殖機能障害を持つ患者の看護 1 性機能障害の観察とアセスメント (検査・症状・原因・性生活) 2 性機能障害を持つ患者の看護 (治療と性生活指導)
評価方法		筆記試験 100 点
学習資源		井手隆文他編 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 7 脳・神経 15 版 医学書院 矢永勝彦他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 12 版 医学書院 北島政樹他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 10 版 医学書院 野口美和子他編 新体系看護学全書 別巻③ 内部環境調節機能障害・身体防御機能障害 メヂカルフレンド社 吉田成人他編 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 6 内分泌・代謝 15 版 医学書院 柏崎純子 看護の現場ですぐに役立つ 糖尿病看護のキホン 秀和システム 飯野京子他編 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 4 血液・造血器 15 版 医学書院 松田明子他編 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 5 消化器 15 版 医学書院 大東貴志他編 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 8 腎・泌尿器 15 版 医学書院 宮嶋正子監修 はじめてでもやさしい ストーマ・排泄ケア 学研 植木博子著：看護現場ですぐに役立つ 透析ケアのキホン 秀和システム 野口美和子他編 新体系看護学全書 別巻⑤ 運動機能障害・性生殖機能障害 メヂカルフレンド社 池田正他編 系統看護学講座 専門分野成人看護学 9 女性生殖器 15 版 医学書院
受講事前準備		テキストに目を通しておく。

科目	老年看護学概論	1 単位	2 2 時間	1 年 後期	担当	花島 一哲・倉田 貞美 横畑 久子
授業の目的・目標	<p>高齢者を理解する諸概念を学び、高齢者の個別性を捉える視点を理解する。また高齢者の健康と生活、環境の課題や、高齢者を取り巻く社会について理解し、倫理的基盤に立ち実践する老年看護の基礎を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老いの意味を考えることができる。 2. 高齢者を取り巻く社会制度の成立背景と、その目的や役割を理解することができる。 3. 高齢者における倫理的課題と、権利擁護のための制度を理解することができる。 4. 老年看護における理論、概念の特徴を学び高齢者の理解を深めることができる。 5. 高齢者によくみられる疾患・病態について理解することができる。 					
1	横畑	老いるということ、老いを生きるということ 老年看護を学ぶ入り口 ①高齢者を知ろうとすることから始まる②老いのイメージ				講義
2		高齢者疑似体験				演習
3		高齢者を取りまく社会 超高齢社会の統計的輪郭				講義
4	倉田	高齢者の権利擁護				講義
5		老年看護のなりたち 老年看護の役割				
6		老年看護における理論・概念の活用				
7		老年看護に携わる者の責務				
8	花島	高齢者によくみられる疾患 脳卒中・心不全・パーキンソン病・パーキンソン症候群 インフルエンザ・肺炎・骨粗鬆症・骨折・認知症				講義
9						
10						
11						
評価方法	筆記試験 85 点 課題レポート（高齢者へのインタビュー） 15 点					
学習資源	北川公子 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院、 正木治恵 老年看護学概論 南江堂、国民衛生の動向 厚生統計協会					
受講事前準備	高齢者に関連するニュースに関心を持ち、新聞や雑誌に目を通しておく。					

科目	老年看護援助論 I	1 単位 30 時間	2 年 前期	担当 藤下 典子 河本 路加・横畑 久子
授業の目的・目標	<p>高齢者のアセスメントに必要な加齢に伴う変化を理解し、高齢者の生活機能に焦点を当てた看護を展開するための基礎的能力を身に着ける。</p> <p>1. 高齢者の健康生活のありようを理解できる。 2. 高齢者の生活機能のアセスメントについて理解できる。 3. 高齢者の健康生活の維持への支援について考えることができる。</p>			
1	河本	高齢者のアセスメント	講義	
2		A ヘルシアセスメントの基本 B 身体の高齢変化とアセスメント		
3	藤下	高齢者の生活機能を整える看護	講義 グループワーク	
4		A 日常生活を支える基本的活動 ①基本動作と環境のアセスメント		
5		②転倒のアセスメントと看護		
6		③廃用症候群のアセスメントと看護		
7		F コミュニケーション 高齢者とのコミュニケーションとかわり方の原則 ①コミュニケーション能力のアセスメント		
8	横畑	B 食事・食生活 高齢者における食生活の意義・特徴的な変調・アセスメント・支援	講義 グループワーク	
9		C 排泄 高齢者の排泄ケアの基本・排尿障害・排便障害のアセスメントとケア		
10		食事・排泄について、事例を通して展開		
11		D 清潔 清潔の意義・高齢者に生じやすい健康課題・アセスメント・援助		
12		E 生活リズム G セクシュアリティ H 社会参加 高齢者と生活リズム・特徴的な変調・アセスメント・整える看護		
13		清潔・生活リズムについて、事例をとおして展開		
14		清潔・衣生活援助技術（義歯の取り扱い・爪切り）	講義・演習	
15	排泄援助技術（おむつ交換）			
評価方法	筆記試験 85 点 課題レポート（高齢者へのフィジカルアセスメント） 15 点			
学習資源	北川公子 系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学 医学書院、 山田律子 生活機能からみた老年看護過程 医学書院、 大塚真理子 高齢者の看護技術 医歯薬出版			
受講事前準備	高齢者に関連するニュースに関心を持ち、新聞や雑誌に目を通しておく。			

科目	老年看護援助論Ⅱ	1単位 24時間	2年 通年	担当 奥田 希世子・小梢 雅野 河本 路加・横畑 久子
授業の目的・目標	<p>老年看護の役割と機能を踏まえ、高齢者のアセスメントに必要な病態と生活機能との関連を理解し、健康逸脱からの回復に対する看護の展開について学ぶ。また、ICFの理念に基づき生活機能に着目した目標志向型思考について学ぶ。</p> <p>1. 高齢者によくみられる症候について理解できる。 2. 症状や、生活上の困難を知り、高齢者の理解や支援の方法について考えることができる。 3. 疾病や生活機能に着眼した目標志向型の看護過程を展開することで、対象の望みを踏まえた支援を考えることができる。</p>			
1	河本	症候のアセスメントと看護 発熱・脱水・浮腫・痛み・かゆみ		講義
2				
3	小梢	症候のアセスメントと看護 褥瘡・スキン-ケア		講義 演習
4				
5	奥田	認知機能障害のある高齢者の看護 うつ・せん妄・認知症		講義
6				
7				
8				
9	横畑	看護過程の展開 A看護過程の考え方 ①看護過程の基本②高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方 ・生活行動モデルによる看護過程・目標志向型思考の考え方 B事例展開の実際		講義 グループ ワーク
10				
11				
12				
評価方法	筆記試験 70点 レポート（看護過程） 30点			
学習資源	北川公子 系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学 医学書院 正木治恵 老年看護学概論 南江堂 山田律子 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 大塚真理子 高齢者の看護技術 医歯薬出版			
受講事前準備	高齢者に関連するニュースに関心を持ち、新聞や雑誌に目を通しておく。			

科目	小児看護学概論	1単位 30時間	2年 前期	担当 落合 美智枝 柴田 真由子
授業の目的・目標	<p>小児看護の理念、倫理と子どもの権利について学び、子どもを主体とした小児看護のあり方について考える。さらに、現代社会における子どもと家族の特徴をふまえた子どもの育ちの支援に必要な基礎知識を学ぶ</p> <p>1. 子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を理解できる。 2. 子どもに関する諸統計や法律・施策を学び小児看護の課題を考えることができる。 3. 看護理論・発達理論を活用して子どもとその家族を理解できる。 4. 子どもの特徴を理解し、成長発達に合わせた養育の方法を理解できる。</p>			
1	落合	小児看護の理念と特徴 (理念、変遷、役割、課題)	講義	
2	柴田	小児看護・医療における諸統計・国際的動向と法律	講義	グループワーク
3		小児保健施策	講義	
4	落合	小児看護・医療における倫理と子どもの権利	講義	
5	柴田	小児看護で用いられる看護理論	講義	
6	落合	子どもの遊びの機能と発達	講義	グループワーク
7	柴田	子どもと家族との援助関係の形成 (コミュニケーション)	講義	DVD
8		安心・安全な環境の調整 (事故防止、感染予防)	講義	グループワーク
9		子どもの栄養とその支援	講義	
10	落合	小児のもつ力 (発達) と精神・社会性の発達	講義	
11		子どものフィジカルアセスメント	講義	
12		子どものバイタルサイン測定	演習	保育園児参加
13		子どもの日常生活のセルフケア発達と援助①	講義	
14		子どもの日常生活のセルフケア発達と援助②	講義	グループワーク
15		子どもの日常生活のセルフケア発達と援助②	演習	
評価方法	筆記試験 100点 (課題提出無しは減点対象)			
学習資源	<p>新体系看護学全書小児看護学概論/小児保健小児看護学① メヂカルフレンド社 ナーシング・グラフィカ小児の発達と看護 メディカ出版 根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院 厚生労働統計協会 国民衛生の動向</p>			
受講事前準備	<p>発達理論は発達段階別の授業の基盤となるため、生涯発達学の講義を含め復習しておく。</p> <p>日常生活の中で見かける子どもや親子の様子を意識して観察する。 子育て用品の店や書店に出かけ子どもに関するものの実際を見ておく。 自分の子ども時代のことを家族に聞いたり、思い出したりしながら学習をすすめてほしい。</p>			

科目	小児看護援助論 I	1 単位 2 8 時間	2 年 後期	担当 宮本 健・田口 智英 矢島 周平・野口 智靖 坂井 聡 藪内 明子・岩下 和希 窪野ゆず香・落合 美智枝
授業の目的・目標	<p>小児期に特有な健康障害の学習をもとに、それらをもつ子どもと家族について理解し、子どもの最良の健康状態を保持・増進するための援助を学ぶ。</p> <p>1. 小児期の主要疾患の病因、病態、検査、治療、予後について理解できる。 2. 子どもの自覚症状や身体所見と関連した健康障害の特徴と、治療上の注意点が理解できる。 3. 疾患のある子どもの入院から在宅療養中の子どもと家族の看護を理解できる。</p>			
1	宮本	神経疾患、筋疾患、精神疾患	講義	
2		腎・泌尿器疾患、皮膚疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患、事故、虐待	講義	
3	田口	免疫疾患、アレルギー性疾患、リウマチ性疾患	講義	
4		呼吸器疾患、循環器疾患	講義	
5	矢島	消化器疾患	講義	
6		血液・造血器疾患、腫瘍性疾患	講義	
7	野口	染色体異常、代謝性疾患、内分泌疾患	講義	
8	坂井	感染症	講義	
9	窪野	小児各期によくみられる健康問題と看護① 乳児期、幼児期	講義	
10		小児各期によくみられる健康問題と看護② 学童期、思春期	講義	
11	岩下	虐待を受けている子どもと家族への看護	講義	
12		発達障害のある子どもと家族の看護	講義	
13	藪内	先天的疾患、心身障害のある子どもと家族の看護	講義	
14		医療的ケア児の看護	講義	
評価方法	筆記試験 100 点			
学習資源	<p>新体系看護学全書健康障害をもつ小児の看護小児看護学② メヂカルフレンド社 新体系看護学全書小児看護学概論/小児保健小児看護学① メヂカルフレンド社 ナーシング・グラフィカ小児の発達と看護 メディカ出版 根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院</p>			
受講事前準備	解剖生理学、小児看護学概論の復習をして授業に臨むこと。			

科目	小児看護援助論Ⅱ	1単位 24時間	2年 後期	担当 宮木 良美 落合 美智枝
授業の目的・目標	<p>健康障害をもつ子どもと家族を理解し、成長・発達の妨げを最小限にする子どもの最善の利益を目指した看護を実践するため、必要な知識・小児看護技術を学ぶ。</p> <p>子どもの看護を実践するために、必要な基礎知識を統合して子どもの状況に合わせた看護を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害をもつ子どもの状況を理解し適切な看護について考えることができる。 2. 健康障害をもつ子どもの家族の看護について考えることができる。 3. 健康障害による成長発達への影響を考えることができる。 4. 子どもの権利や倫理に基づいた看護を考えることができる。 5. 小児看護の看護過程の展開がわかる。 			
1	宮木	外来受診、入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	講義	
2		検査・治療・処置に伴う技術と看護	講義	
3		検査・治療・処置時の看護（プレパレーション）	講義 グループワーク	
4		検査・治療・処置時の看護の演習	演習	
5	落合	子どもに出現しやすい症状と子どもと家族への看護①	講義 グループワーク	
6		子どもに出現しやすい症状と子どもと家族への看護②	講義 グループワーク	
7		子どもに出現しやすい症状と子どもと家族への看護③	講義 グループワーク	
8		痛みを表現している子どもと家族への看護 事例	講義 グループワーク	
9		活動制限・隔離が必要な子どもと家族への看護 事例	講義 グループワーク	
10		看護過程	講義 グループワーク	
11		看護過程	講義 グループワーク	
12		看護過程	講義 グループワーク	
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	<p>新体系看護学全書健康障害をもつ小児の看護小児看護学② メヂカルフレンド社</p> <p>新体系看護学全書小児看護学概論/小児保健小児看護学① メヂカルフレンド社</p> <p>ナーシング・グラフィカ小児の発達と看護 メディカ出版</p> <p>根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院</p>			
受講事前準備	小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰの復習をしておく。			

科目	母性看護学概論	1単位20時間	1年 後期	担当 成岡千恵子・芹沢麻里子
授業の目的・目標	<p>女性の健康を支援するために、人の生涯を通じた性と生殖ならびに母子や女性のライフステージにおける健康課題を理解し、女性の一生を通じた健康の保持・増進と次世代育成を支援するための母性看護の役割や機能について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性の概念を知り、性と生殖に関する健康の視点から母性看護の対象を理解できる。 2. 母性看護の対象を身体的、心理的、社会的側面から説明できる。 3. 女性のライフステージ各期の健康と看護について説明できる。 4. 母性看護とは何かを考えることができる。 			
1	成岡	オリエンテーション、母性とは、母性看護のあり方	講義	
2		セクシュアリティとジェンダー	講義	
3		母子保健に関する法と施策	講義	
4		母子保健統計と施策	講義・演習	
5		生殖器の形態機能	演習	
6		ライフステージ各期の健康と看護①	講義・演習	
7		ライフステージ各期の健康と看護②	講義・演習	
8	芹沢	生殖医療と倫理	講義	
9	成岡	リプロダクティブヘルスとケア	講義	
10		まとめ ～生活提案発表会～	演習	
評価方法	筆記試験 80点 成果物 20点			
学習資源	<p>森恵美 系統看護学講座専門分野 母性看護学概論 医学書院 森恵美 系統看護学講座専門分野 母性看護学各論 医学書院 国民衛生の動向 2022/2023 厚生労働統計会 小寺豊彦 楽しく学ぶ看護につながる解剖生理 照林社</p>			
受講事前準備	<p>発達看護学や女性生殖器の解剖生理、性ホルモンについて復習しておく。 学習資源に目を通したうえで授業に臨むこと。</p>			

科目	母性看護援助論 I	1 単位 30 時間	2 年 前期	担当 芹沢麻里子・松井浩之 山口香苗・森三和子 嶺岡永味子
授業の目的・目標	<p>マタニティサイクル（妊娠期・分娩期）にある母子とその家族の身体的・心理的特徴と健康課題や健康問題を理解し、必要な看護について学ぶ。</p> <p>1. 妊娠期の母体の変化と心理・社会的変化について理解できる。 2. 分娩期にある母子の身体的変化と産婦の心理・社会的変化について理解できる。 3. 妊娠・分娩期の健康課題と健康問題について理解できる。 4. 妊娠・分娩期にある母子とその家族に対する看護の方法について理解できる。</p>			
1	嶺岡	オリエンテーション・妊娠期の対象理解①（妊娠期の母体の変化）	講義	
2		妊娠期の対象理解②（妊婦の心理・社会的変化）	講義・演習	
3	山口	妊娠期の生活と体づくり：基礎編（マイナートラブルとセルフケア：妊婦体操・ヨガ・骨盤ケア）	講義・演習	
4	松井	妊娠期の異常①（ハイリスク妊娠・子宮外妊娠・妊娠悪阻）	講義	
5	芹沢	妊娠期の異常②（切迫流産・多胎妊娠）	講義	
6		妊娠期の異常③（妊娠高血圧症候群・血液型不適合妊娠）	講義	
7	森	妊娠期の異常と看護	講義	
8	山口	妊娠期の生活と体づくり：実践編（妊娠中の食生活：調理実習）	講義・演習	
9	嶺岡	分娩期の対象理解①（分娩機序と分娩経過）	講義	
10		分娩期の対象理解②（分娩期の身体的変化と心理・社会的変化）	講義	
11	松井	分娩要素の異常①（産道の異常・娩出力の異常）	講義	
12	芹沢	分娩要素の異常②と異常分娩①（前置胎盤・常位胎盤早期剥離・胎児機能不全・異常出血）	講義	
13		異常分娩②（帝王切開・吸引分娩・鉗子分娩）	講義	
14	山口	安全な分娩への看護	講義・演習	
15	森	分娩期の異常と看護（破水・分娩遷延・無痛分娩）	講義	
評価方法	筆記試験 100 点			
学習資源	森恵美 系統看護学講座専門分野 母性看護学各論 医学書院 櫛引美代子 周産期の看護技術 医歯薬出版株式会社			
受講事前準備	学習資源に目を通したうえで授業に臨む。 母性看護学概論・解剖生理学・疾病治療論（女性生殖器）を復習しておく。			

科目	母性看護援助論Ⅱ	1単位 30時間	2年 通年	担当 芹沢麻里子・松井浩之 馬場徹・森三和子 山口香苗・平野佐由利 石井幸子・嶺岡永味子
授業の目的・目標	<p>マタニティサイクル（産褥期・新生児期）にある母子とその家族の身体的・心理的な特徴と健康課題や健康問題を理解し、必要な看護について学ぶ。</p> <p>1. 産褥期の母体の変化と心理・社会的変化について理解できる。 2. 新生児の生理的变化について理解できる。 3. 産褥・新生児期の健康課題と健康問題について理解できる。 4. 産褥・新生児期にある母子とその家族に対する看護の方法について理解できる。</p>			
1	嶺岡	産褥期の対象理解（産褥期の身体的変化と心理・社会的変化）	講義・演習	
2	松井	産褥期の異常①（子宮復古不全・産褥血栓症・産褥熱・母子感染）	講義	
3		産褥期の異常②（産後うつ・精神障害）	講義	
4	石井	順調な産褥経過のための看護（産直後の観察・2週間健診・家族計画・社会資源）	講義・演習	
5	山口	育児を支える技術（授乳支援）	講義・演習	
6	森	産褥期の異常と看護（乳腺炎・産後うつ）	講義	
7		帝王切開の看護（身体的特徴と心理）	講義	
8	嶺岡	新生児期の対象理解	講義	
9	馬場	新生児期の異常①	講義	
10		新生児期の異常②	講義	
11	石井	新生児のフィジカルイグザミネーション	講義・演習	
12		新生児の生活を支える看護①	講義・演習	
13		新生児の生活を支える看護②	講義・演習	
14	平野	N I C Uの看護	講義・演習	
15	芹沢	周産期医療システム	講義	
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	森恵美 系統看護学講座専門分野 母性看護学各論 医学書院 櫛引美代子 周産期の看護技術 医歯薬出版株式会社 櫛引美代子 新生児の観察と看護技術 医歯薬出版株式会社			
受講事前準備	学習資源に目を通したうえで授業に臨む。 母性看護学概論・解剖生理学・疾病治療論（女性生殖器）を復習しておく。			

科目	母性看護援助論Ⅲ	1単位 16時間	2年 後期	担当 嶺岡永味子
授業の目的・目標	<p>マタニティサイクルにある対象を捉える力や対象に合った看護を導き出す力を身に付けるために、模擬事例を通してマタニティサイクル各期の母子およびその家族に対する看護が考えられようになることを目指す。</p> <p>模擬事例を通して、情報収集から計画立案までの看護過程の展開ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の収集および整理ができる。 2. 得られた情報のアセスメントから結論を導き出すことができる。 3. 全体像を捉え、看護の方向性を導き出すことができる。 4. 個別性のある看護計画を立案できる。 			
1	ガイダンス 母性看護の考え方と妊娠期の展開	講義・演習		
2	妊娠期のまとめと分娩期の展開	講義・演習		
3	分娩期のまとめと産褥期の展開	講義・演習		
4	産褥期のまとめと新生児期の展開	講義・演習		
5	新生児期のまとめと看護診断の考え方	講義・演習		
6	看護診断の整理と看護計画	講義・演習		
7	看護計画発表会	事前準備：発表用資料を印刷・配布しておく		
8				
評価方法	成果物および授業参加態度（ルーブリック評価 80 点、ピア評価 20 点）			
学習資源	<p>森恵美 系統看護学講座専門分野 母性看護学概論 医学書院</p> <p>森恵美 系統看護学講座専門分野 母性看護学各論 医学書院</p> <p>櫛引美代子 周産期の看護技術 医歯薬出版株式会社</p> <p>櫛引美代子 新生児の観察と看護技術 医歯薬出版株式会社</p> <p>太田操 ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版株式会社</p>			
受講事前準備	<p>母性看護学概論・母性看護援助論Ⅰ・Ⅱの内容を復習しておく。</p> <p>学習資源を活用しながら授業に取り組むこと。</p> <p>グループでの学習となるため、メンバー間でしっかりと連携を取り、学びを共有すること。</p>			

科目	精神看護学概論	1単位 16時間	1年 後期	担当 浅井 大輔・吉川 靖子
授業の目的・目標	<p>精神看護学が扱う精神保健と精神科看護の役割の概要を理解するとともに、こころの健康と全人的理解のつながりを学ぶ。また、こころの仕組みや働き、こころの健康の維持・増進を学ぶとともに、看護師を目指す自身のありようについての理解を深める。まとめとして精神保健医療に関する現状と課題について概観する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における精神看護の位置づけとその概要を理解できる。 2. こころの仕組みと働きを理解できる。 3. こころの健康の維持・増進とは何か、自分自身について考えることを通して理解できる。 4. 精神保健医療の現状と課題を理解できる。 			
1	吉川	授業ガイダンス ー本校の理念と精神看護学 精神看護学とは何か ーこころの健康と全人的理解		講義・演習
2	浅井	人のこころの諸活動① 人格・気質・知能		講義
3		人のこころの諸活動② 意識・認知・感情		講義
4		人のこころの諸活動③ 学習・心の理論 自我の構造・発達 防衛機制・転移		講義
5		集団力動		講義・演習
6		こころの健康と危機 ストレス・コーピングとストレンクス・レジリエンス ー自己理解を深めよう (状況危機を含む)		講義・演習
7		認知の傾向 ー自己理解を深めよう カウンセリングの実際		講義・演習
8	吉川	こころの健康に関する現状と課題 ー自分ごととして考えてみよう		講義・演習
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	系統看護学講座 専門分野 精神看護学①② 医学書院			
受講事前準備	積極的に発言し、互いの考えを聞き合い学び合う主体的な姿勢を期待します。多様な考えに触れ、自分とは異なる価値観を受け止めようとする姿勢を育むことも看護につながります。また、予習・復習ならびにメンタルヘルスに関する新聞記事等に目を通すなど、自ら学びを深める姿勢を強く期待します。			

科目	精神看護援助論 I	1 単位 30 時間	2 年 前期	担当 山村淳一・鈴木多美 浅井 大輔・松島 千香子
授業の目的・目標	<p>精神疾患とその治療、精神医療の歴史について学ぶと同時に、精神障がいをもつ人の主観的体験を想像し理解しようとする感性を養う。また、精神障がいをもつ人が置かれてきた社会のありようを知り、精神障がいをもつ人に対する自身の感情に気づくことを通して、精神障がいを持ちながら生きることについて考え、自分の価値観や経験を超越するものをも理解しようとする姿勢を養うことを目指す。</p> <p>1. 主な精神疾患の成り立ちや症状、心理検査、治療について理解できる。 2. 精神障がいをもつ人の体験と生活への影響を理解できる。 3. 精神医療の歴史を理解し、精神障がいをもつ人の人権について考えることができる。 4. 精神障がいや精神障がいをもつ人に対する自身の感情や考えに気づくことができる。</p>			
1	松島	オリエンテーション 「病いの経験」の理解への手がかり —科学—論理的思考モードと物語的思考モード		講義・GW
2	松島	精神障害のとらえ方 —国際生活機能分類 ICF で考える		講義・GW
3	Dr	診断と疾病分類 統合失調症 概要		講義・GW
4	Dr	統合失調症 急性期・慢性期		講義・GW
5	Dr	気分障害（双極性障害）		講義・GW
6	Dr	気分障害（うつ病） ※高齢者のうつ病を含む		講義・GW
7	Dr	不安障害・強迫性障害		講義・GW
8	山村	摂食障害・境界性パーソナリティ障害		講義・GW
9	Dr	依存症		講義・GW
10	山村	知的障害・自閉症スペクトラム障害		講義・GW
11	浅井	心理検査とその活用の実際		講義・GW
12	鈴木	精神障害とスティグマ —人権と精神医療の歴史①		講義・GW
13		精神障害とスティグマ —人権と精神医療の歴史② 偏見がうまれるメカニズム		講義・GW
14	吉川	「回復する」とはどういうことか —リカバリーとストレングス・レジリエンス		講義・GW
15	吉川	今あらためて「精神障がいをもつ人」の体験とは —自分ごととして考える		講義・GW
評価方法	筆記試験 100 点			
学習資源	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学①② 医学書院 新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社			
受講事前準備	新しく学ぶ専門用語が多いため、予習・復習は必須。また、自分が相手の立場であったらどう思うかと思いを馳せる習慣を身につけることや、他者との交流を通して自身の価値観に気づき他者から学ぶ姿勢も培うことを強く期待する。			

科目	精神看護援助論Ⅱ	1単位 30時間	2年 後期	担当 土屋 正利・吉川 靖子 花田 敦子・鈴木 一樹 長谷川菜津紀・佐藤 明則 渡邊 啓右
授業の目的・目標	<p>対象理解や対象との関係構築に必要な治療的コミュニケーションを学ぶとともに、看護の道具としての自身を振り返る目的とその方法を学ぶ。また精神症状のアセスメント、経過別・症状別看護、フィジカルアセスメントの基本を学ぶ。加えて、精神障がいをもちながらも自分らしく生きることの意味とその支援について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象理解と関係構築に必要な治療的コミュニケーションと理論的背景を理解できる。 2. 対象と自身のありよう、自身と対象との関係を振り返る意味とその方法を理解できる。 3. 精神症状や対象の成育歴等がセルフケアに及ぼす影響を理解できる。 4. 精神症状査定、経過別看護・症状別看護、主な治療における看護の基礎を理解できる。 5. 精神障がいをもつ人が自分らしく生きることの意味を考えるとともに、支援の基礎を理解できる。 			
1	吉川	「患者―看護師」関係の目指すこと ―対象理解と自己理解、トラベルビーとペプロウによる看護論をもとに	講義・演習	
2		治療的コミュニケーションと3つの観察モード	講義・演習	
3	長谷川	振り返ることの意味 ―リフレクション、プロセスレコード	講義・演習	
4	花田	生活者とは セルフケアと自己決定とは何か ―オレム―アンダーウッド理論	講義・演習	
5		入院の意味 精神保健福祉法における入院、行動制限と人権メンタルステータスイグザミネーション（精神症状査定）	講義・演習	
6	佐藤	経過別看護 統合失調症の急性期と慢性期における看護 ―セルフケア理論を活用して	講義・演習	
7	渡邊	症状別看護① 幻覚・妄想状態にある患者への看護	講義・演習	
8		症状別看護② 無為自閉・意欲減退、不安焦燥のある患者への看護（不安の4段階）	講義・演習	
9	佐藤	症状別看護③ 躁状態・うつ状態にある患者への看護（セルフモニタリング等心理教育を含む）、希死念慮のある患者への看護（TALKの原則含む）	講義・演習	
10	土屋	症状別看護④ 興奮・攻撃性のある患者の看護（包括的暴力防止プログラムCVPPPを含む）、隔離拘束中の患者の看護	講義・演習	
11	渡邊	症状別看護⑤ 強迫観念・強迫行為、操作性のある患者への看護	講義・演習	
12	土屋	知的障害・自閉症スペクトラムをもつ患者への看護（トークンエコノミー含む）	講義・演習	
13	土屋	薬物療法と看護（セルフマネジメントを含む）	講義・演習	
14	長谷川	精神障害をもつ人のフィジカルアセスメント、タッチケア	講義・演習	
15	鈴木	自分らしく生きることを支えるとは ―生活技能訓練、認知行動療法	講義・演習	
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	系統看護学講座 専門分野 精神看護学①・② 医学書院 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 中範囲理論、対症看護、検査関連のテキスト			
受講事前準備	普段から他者に関心を持ち、人の言動の意味やその背景について考え、相手に思いを確認することを意識してほしい。また、自分のものごとのとらえ方や思考の傾向（くせ）を俯瞰する機会を持つことを強く期待する。精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰを十分復習して授業に臨んでほしい。			

科目	精神看護援助論Ⅲ	1単位 20時間	2年 後期	担当 金田 祥史・鈴木 一樹 花田 敦子・松島 千香子
授業の目的・目標	<p>精神障がいをもちながら地域で暮らす人の思いや体験を理解するとともに、地域精神医療福祉にかかわる法律・制度、多職種連携・協働による支援の実際について学ぶ。また、身体疾患をもつ患者や看護職のメンタルヘルスに関わるリエゾン精神看護の役割と支援の実際について学ぶ。加えて、模擬事例を通して精神看護学実習で求められる姿勢と思考過程を学ぶ。</p> <p>1. 精神障がいをもちながら地域で暮らすとはどういうことか、自分ごととして考えることができる。</p> <p>2. 地域精神医療福祉に関する法律・制度、多職種の役割と支援の実際を理解できる。</p> <p>3. リエゾン精神看護の役割と支援の実際を理解できる。</p> <p>4. 科学論理的思考モードと物語思考モードを意識しつつ、理論をもとに必要な看護を導き出すプロセスを理解できる。</p>			
1	金田	精神障害をもちながら地域で暮らすとは	ーリカバリーとは何か	講義・GW
2	金田	地域生活支援 障害者総合支援法等と地域生活支援の実際	ー暮らすとはどういうことか	講義・GW
3	金田	地域生活支援 地域生活支援と多職種連携の実際		講義・GW
4	鈴木	デイケアの役割と多職種連携の実際		講義・GW
5	花田	リエゾン精神看護とは	ーリエゾナーズ役割と活動の実際	講義・GW
6	松島	実習に向けて① 観察・コミュニケーション・リフレクション	目的的な情報収集	講義・GW
7	松島	実習に向けて② アセスメント	前半	講義・GW
8	松島	実習に向けて③ アセスメント	後半	講義・GW
9	松島	実習に向けて④ 全体像・今後の方向性と看護の方向性		講義・GW
10	松島	実習に向けて⑤ 行動計画とその評価		講義・GW
評価方法	筆記試験 95点 (PSW30点、OT10点、リエゾン10点、専任45点)、第6回～第10回ピア評価5点			
学習資源	系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学①・② 医学書院 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 リカバリーの学校の教科書 EDITEX			
受講事前準備	精神障がいをもつ人も学生自身も同じ「地域で暮らす人」であることを、折に触れて考えてもらいたい。また、自身にとっての「暮らし」「働くこと」「自分らしく生きること」とは何か考える機会としてほしい。 精神看護学や看護過程等の既習科目の十分な理解を前提とした科目である。十分に準備した上で臨んでほしい。			

科目	家族看護学	1単位 30時間	1年 後期	担当 小野 五月 成岡 千恵子・落合 美智枝 澤木 亜紀・佐野 実幸 土屋 正利・谷口 弥生
授業の目的・目標	<p>健康課題をもつ人を含む1単位の家族を看護の対象として捉え、家族が望む生活を主体的に営むことを目指す家族看護の基本的な考え方と援助を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代家族の特徴や諸問題を知り、家族はどのような存在であるかを理解できる。 2. 家族に関する諸理論を説明できる。を理解するための諸理論を理解し説明できる。 3. 家族の健康を多角的に地域の社会資源との関係も踏まえてアセスメントできる。 4. 家族の健康課題に対する看護のあり方を説明できる。 5. 家族看護における看護師の役割や姿勢を理解できる。 			
1	谷口	家族を看護するとは	講義	
2		家族システム理論とパートナーシップ	講義	
3	成岡	家族の発達とセルフケア機能	講義	
4		家族の誕生と児の誕生が家族に与える影響	講義	
5	落合	現代社会における子どもと家族	講義	
6	澤木	病気体験と本人・家族への影響	講義	
7	落合	健康障害が子どもと家族に与える影響	講義	
8	澤木	健康障害と成人期を生きる人・家族への影響と看護	講義	
9	佐野	老年期にある人と家族とその関係	講義	
10		健康障害を持つ老年期にある人とその家族への看護	講義	
11	土屋	精神 精神障がいをもつ人をケアする家族への看護(精神障がいの親をもつ子どもへの支援を含む)	講義	
12	小野	家族看護における看護社に求められる基礎的姿勢	講義	
13		家族への看護アプローチ	講義	
14		家族看護の実際①	講義	
15		家族看護の実際②	講義	
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	<p>家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア 谷口：系統看護学講座 地域・在宅看護論① 医学書院 成岡：系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 医学書院 落合：新体系看護学全書 小児看護学概論/小児保健 メヂカルフレンド社 澤木：新体系看護学全書 成人看護学概論/成人保健 メヂカルフレンド社 石野：系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院 佐野：老年看護学概論 南江堂 / 老年看護学 医学書院</p>			
受講事前準備	<p>提示された事前学習に取り組む。 テキストに目を通す。</p>			

科目	生涯発達学	1単位 28時間	1年 通年	担当 澤木 亜紀・嶺岡 永味子 落合 美智枝・横畑 久子
授業の目的・目標	<p>看護の対象である人は、「一生、発達し続ける存在」であるため、生涯発達の理解は重要である。各発達段階の基本的特徴と発達に影響を及ぼす要因について理解するとともに、誕生から死までの全生涯のプロセスを体系的に学ぶ</p> <p>1. 発達に関する諸理論を理解できる。 2. ライフサイクルにおける発達の特徴と影響を及ぼす因子について理解できる。 3. 生涯発達の視点から人の一生を理解できる。</p>			
1	澤木	生涯発達学を学ぶ意義とは		講義
2	嶺岡	生命の始まりについて考える胎児期の心と身体 胎児期から誕生までを学ぶ		講義
3		胎児期の心と身体 育ちへの準備と人生のスタートについて理解する		
4	落合	小児の成長・発達の原則と影響因子 新生児・乳児期の子どもの成長・発達		講義
5		幼児期の子どもの成長・発達		
6		学童期・思春期（～15歳）の子どもの成長・発達 発育の評価		
7	澤木	成人期にある人の理解、発達課題		講義
8		青年期（15歳～30歳）の心と身体		
9		壮年期・向老期（30歳～64歳）の心と身体		
10		働くことと生活、成人を取り巻く社会環境		
11	横畑	加齢と老化		講義
12		加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化		
13		老年期の心と身体 心身の衰えを受け入れ、それまでの人生の意味付けを考える老年期を学ぶ、 発達と成熟		
14	澤木	まとめ 事例を活用して生涯発達の視点から人の一生を理解してみよう		GW
評価方法	筆記試験 85点（嶺岡 15点・落合 20点・澤木 30点・河本 20点） レポート評価（鳥居） 15点 = 100点			
学習資源	舟島なをみ 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 【老年】 老年看護学概論 南江堂／老年看護学 医学書院 【成人】 新体系看護学全書 成人看護学概論／成人保健 メヂカルフレンド社 【母性】 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 医学書院 【小児】 新体系看護学全書 小児看護学概論／小児保健 メヂカルフレンド社 【基礎】 臨床看護総論 医学書院			
受講事前準備	テキストに目を通してくること。			

科目	経過別看護援助論 I	1単位 30時間	2年 通年	担当 澤木 亜紀 渡邊 禎子・吉田 喜久江 松本 明美・松井 陽子 吉川 陽子・土屋 京子
授業の目的・目標	<p>各健康段階にある人の理解とその段階に特異的な看護のあり方、方法を学ぶ。特にヘルスプロモーション・終末期看護の概念および特徴を理解し、発達段階に沿った看護を学ぶ。</p> <p>1. ヘルスプロモーション・終末期にある人の身体・精神・社会的な特徴を理解できる。</p> <p>2. 人が自らの健康をコントロールするために看護がどのようにに関わり、援助していくのか理解できる。</p> <p>3. 終末期にある人について、人生の最期を迎える中での援助について理解できる。</p> <p>4. ヘルスプロモーション・終末期にある人の発達段階や活動の場によって生じる看護の特性について理解できる。</p>			
1	澤木	ヘルスプロモーションに向けた看護① ヘルスプロモーションの考え方		講義・グループワーク・全体発表など
2		ヘルスプロモーションに向けた看護② ヘルスプロモーションの理論とその活用		
3	松本	ヘルスプロモーションに向けた高齢者への看護②		
4	渡邊	ヘルスプロモーションに向けた在宅での看護②		
5	土屋	終末期に関わる医療問題と課題 終末期とは 死とは何か(死のイメージ) 終末期医療の現状		
6		終末期にある人の死と家族の理解 死の受け止め方 終末期にあるひとの家族の悲嘆		
7		終末期看護における倫理的課題 終末期の看護の理念 終末期にある人のQOL 安楽死と尊厳死		
8	吉川	緩和ケアとホスピス 緩和ケアとは 緩和ケアの歴史 がん対策と緩和ケアの関係 緩和ケアの現状		
9		緩和ケアにおける症状マネジメント①		
10		緩和ケアにおける症状マネジメント② 身体症状の特徴 症状マネジメントモデル 身体症状のマネジメントと援助の実際		
11	土屋	終末期にある人の心理・社会的苦痛の理解と援助① 精神的苦痛 死にゆく患者の心理 社会的苦痛 スピリチュアルペイン		
12		終末期にある人の心理・社会的苦痛の理解と援助② 看取りをする家族の理解と援助 死別後の遺族への援助		
13	松井	終末期にある老年患者の看護		
14	吉田	終末期にある小児患者の看護①		
15	渡邊	終末期にある人の在宅看護		
評価方法	筆記試験 90点 レポート 10点			
学習資源	<p>新体系 看護学全書 別巻ヘルスプロモーション メヂカルフレンド社</p> <p>系統看護学講座 老年看護学 医学書院</p> <p>系統看護学講座 小児概論・小児臨床総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 地域・在宅看護の実際 地域・在宅看護論 2 医学書院</p> <p>キューブラ・ロス 死ぬ瞬間 読売新聞社</p> <p>田村恵子編 経過別成人看護学4 終末期看護 エンド・オブ・ライフ・ケア メヂカルフレンド社</p>			
受講事前準備	<p>テキストに目を通しておく。</p> <p>新聞記事・ニュースなど社会情勢に関心を持つ。</p>			

科目	経過別看護援助論Ⅱ	1単位 30時間	2年 前期	担当 森 里枝子・山本 浩樹 笠原 真弓・寺田 佐智代 野崎 歩・藤田 美也子 内田 亜美
授業の目的・目標	<p>各健康段階にある人の理解とその段階に特異的な看護のあり方、方法を学ぶ。特にクリティカル期（クリティカルケア・救急看護）・周手術期看護の概念および特徴を理解し、発達段階に沿った看護を学ぶ。</p> <p>1. クリティカル・周手術期にある人の身体的・精神的・社会的な特徴を理解できる。 2. クリティカル・周手術期に生じる身体侵襲の予測と回避のための基礎的知識を習得する。 3. クリティカル・周手術期に生じた生体機能回復と苦痛の緩和に向けた看護実践の基礎を理解できる 4. クリティカル・周手術期にある人の発達段階によって生じる看護の特性について理解できる。</p>			
1	森	急性期・クリティカルな状態にある患者の看護		講義・グループワークなど
2		クリティカルケア看護の看護展開		
3	山本	クリティカルな状態にある患者の全身管理と日常生活への支援 各種モニタリングの基本と方法 人工呼吸器ケア 気管内吸引の方法		
4		救急看護の概念		
5	笠原	初期・第二次・第三次救急医療における対応		
6		院内救急時・在宅医療における対応 心肺停止状態への対応		
7	野崎	クリティカルな状態にある小児患者の看護①		
8	藤田	周手術期看護の特徴と課題① 手術療法の目的と生体・生活にもたらす影響		
9		手術期看護の特徴と課題② 周手術期看護の意義と役割・課題、手術前患者の看護		
10	内田	手術室看護① 手術前日・当日の看護 日帰り手術を受ける患者の看護		
11		手術室看護② 手術直前・手術中・手術終了時の看護		
12	藤田	手術後患者の看護① 手術後の回復を促進するための看護		
13		手術後患者の看護② 術後合併症の発生メカニズムと予防ケア		
14	寺田	クリティカル・周手術期ある高齢患者の看護①		
15	野崎	周手術期にある小児患者の看護①		
評価方法	筆記試験 100点			
学習資源	<p>新体系 看護学全書 経過別成人看護学① 急性期看護 クリティカルケア メヂカルフレンド社 系統看護学講座専門 別冊1 臨床外科看護総論 12版 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 小児概論・小児臨床総論 医学書院</p>			
受講事前準備	テキストに目を通しておく。			

科目	経過別看護援助論Ⅲ	1単位 30時間	2年 通年	担当	斎藤花菜子・足立陽平 吉田 喜久江・谷口弥生 藤田美也子・落合美智枝
授業の目的・目標	<p>各健康段階にある人の理解とその段階に特異的な看護のあり方、方法を学ぶ。特にリハビリテーション期・慢性期看護の概念および特徴を理解し、発達段階に沿った看護を学ぶ。</p> <p>1. リハビリテーション期・慢性期にある人の身体的・精神的・社会的な特徴を理解できる。</p> <p>2. リハビリテーション期にある人に看護がどのように関わり、援助していくのか理解できる。</p> <p>3. 慢性期にある人の慢性疾患と共存し、セルフケア行動の形成・持続に向けての援助について理解できる。</p> <p>4. リハビリテーション・慢性期にある人の発達段階や活動の場によって生じる看護の特性について理解できる。</p>				
1	斎藤	リハビリテーション期にある人の看護① リハビリテーション看護の定義と専門化			講義・グループワークなど
2		リハビリテーション期にある人の看護② リハビリテーション看護の対象			
3		リハビリテーション期にある人の看護③ リハビリテーション看護の独自性と基本的な方法			
4		リハビリテーション期にある老年患者の看護			
5	落合	リハビリテーション期にある小児患者の看護			
6	谷口	リハビリテーション期にある人の在宅での看護			
7	藤田	慢性期にある人の看護① 慢性期・慢性疾患の概念			
8		慢性期にある人の看護② 慢性疾患を有する人の理解①			
9		慢性期にある人の看護③ 慢性疾患を有する人の理解②			
10		慢性期にある人の看護④ 慢性疾患を有する人とその家族の理解・援助			
11		慢性期にある人の看護⑤ 慢性期疾患を有する人への支援の基本①			
12		慢性期にある人の看護⑥ 慢性期疾患を有する人への支援の基本②			
13	足立	慢性期にある老年患者への看護			
14	吉田	慢性期にある小児患者への看護			
15	谷口	慢性期にある人の在宅での看護			
評価方法	筆記試験 80点 レポート 20点				
学習資源	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 小児概論・小児臨床総論 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院 新体系 看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護 メヂカルフレンド社				
受講事前準備	テキストに目を通しておく。				

科目名	基礎看護学実習 I		
単位数	2 単位		
時間	90 時間		
時期	1 年 後期		
実習担当教員	澤木亜紀 成岡千恵子 土屋京子 嶋野響 他		
実習場所	浜松医療センター		
実習時間	8 : 30 ~ 16 : 15		
実習の目的・目標	<p>「健康障害をもちながら病院という場で生活している対象を理解し、対象の症状に着目して看護上のニーズを見出し、看護実践に繋げるプロセスを学ぶ」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の症状に着目しながら対象理解することができる。 2. 得られた情報の意味づけを行いながら、患者の日常生活における看護上のニーズを見出すことができる。 3. 最優先ニーズに沿った援助計画を立案、実施、修正することができる。 		
内容	対象理解準備	1 日目	病棟内の療養環境シャドーイング/病院理念講義・病院見学
		2 日目	シャドーイングを通して患者と看護師の関りの場をを観察する。 その中で、患者一人のバイタルサインの測定を看護師監視下で実施
		3 日目	病棟オリエンテーション、受け持ち患者紹介、情報収集
	対象理解	4 日目～7 日目	<ul style="list-style-type: none"> ・得た情報を活用し「全体像」を捉え、“患者のために何とかしたい”と感じた「症状」に注目する。/「症状マップ」で症状の成り立ちと症状が3 側面や生活行動に与える影響を推論する。 ・「アクションシート・リフレクションシート」カンファレンスを活用し、得た気づきを翌日の「行動計画」に反映させ対象理解を深める。自己を知り患者との対人関係に活かす。 ・「日常生活行動の分析・アセスメント」を活用し「症状」が生活行動に与える影響を分析・推論しニーズ（強み含む）を見出す
実践	8 日目～10 日目	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の監視下で看護技術の原理・原則をふまえ安全安楽に実施し振り返りなどを活用し、「日常生活援助の手順書」を洗練させていく。 <p>※最終日に病棟で臨床指導者交えて最終カンファレンスを実施</p>	
評価方法	実習評価表に沿って評価する。		
学修資源	<ul style="list-style-type: none"> ・高木永子監修：看護過程に沿った対症看護 第5 版，学研。 ・茂野香おる著 系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 ・任和子著 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 ・医療情報科学研究所編集 看護技術がみえる vol. 1 基礎看護技術 メディックメディア ・医療情報科学研究所編集 看護技術がみえる vol. 2 臨床看護技術 メディックメディア ・江原勝幸：看護学生のためのレポート書き方教室，照林社。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床看護方法論の復習、レポートの書き方の要点を整理しておく。 ・バイタル測定その他、実習に必要な看護技術に関する知識・技術を反復練習しておく。 		

1 科目名	基礎看護学実習Ⅱ		
単位数	2 単位		
時間	90 時間		
時期	2 年 後期		
実習担当教員	澤木亜紀 成岡千恵子 土屋京子 他		
実習場所	浜松医療センター		
実習時間	8 : 30 ~ 16 : 15		
実習の目的・目標	<p>「発達段階における対象の特徴および健康についての既習の知識・技術をもとに健康レベルに応じた看護実践の基礎を学ぶ」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の分析的アセスメントを通して対象の全体像を把握することができる。 2. 対象の健康問題を特定し、その発生要因との関連性から看護診断を確定していく過程を理解できる。 3. 看護計画の立案過程を通して計画を立案し、実践・評価・修正することができる。 		
看護過程のプロセス	対象理解	1 日目	・病棟オリエンテーション、患者紹介、情報収集など
		2 日目～ 4 日目	<p>《情報収集・分析アセスメント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病態を整理する（疾患、治療についてまとめる） ・対象との関わりや日常生活援助の実施などを通して目的的に収集した情報を、ゴードンの枠組みに沿って分析・アセスメントする。 ・アセスメントした情報から看護問題、強みを抽出する
		5 日目～ 7 日目	<p>《全体像と看護上の問題の理解》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得られた情報の意味付けをしながら、「関連図」、「全体像」を作成 ・「関連図」・「全体像」を踏まえて優先度の高い看護診断を明確化する。
	実践	8 日目～ 10 日目	<p>《看護計画の立案と実践》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決のための看護計画を具体的に立案する ・看護技術の原理原則を個に変容しながら、個別状況に合わせて実施する。実施後、看護診断に沿った記録を SOAP 形式で記載する。 ・日々の振り返りや指導者の助言を通して対象に合った援助に修正していく。
評価方法	実習評価表に沿って評価する		
学習資源	<ul style="list-style-type: none"> ・医療情報科学研究所編：看護がみえる④看護過程の展開,メディックメディア. ・リンダ J・カルペニート：看護診断ハンドブック, 医学書院. ・黒田裕子編 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研 ・高木永子監修：看護過程に沿った対症看護 第5版, 学研 他 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴードンの枠組みに沿った分析・アセスメントの復習 ・共通看護技術、日常生活援助技術、フィジカルイグザムの反復練習など 		

科目名	地域・在宅看護論実習 I		
単位数	1 単位		
時間	4 5 時間		
時期	1 年 前期		
実習担当教員	渡邊 禎子・谷口 弥生・専任教員 等		
実習場所	高齢者通所サービス・障がい者施設・病院外来・病棟・地域包括支援センター・高齢者施設・訪問看護ステーション		
実習時間	8 : 3 0 ~ 1 6 : 1 5		
実習の目的・目標	<p>地域包括ケアシステム等のサービスが提供される多様な場を知る。協働の実際、暮らしに困難を抱えながらも暮らしを継続している対象を理解し、健康と暮らしを支援する看護の役割を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サービスが提供される多様な場を、五感を使い捉えることができる。 2. サービスを利用している対象を、五感を使い捉えることができる。 3. 健康と暮らしを支える職種の活動と役割を知り、協働の実際を学ぶ。 4. 地域における看護の役割を考えることができる 5. 暮らしの連続性、看護の対象について理解できる 		
実習内容 場所	1 日目	浜松医療センター病棟・外来・高齢者通所サービス等	指導者のシャドーイング、指導、対象との関わり等を通して学ぶ。
	2 日目		
	3 日目	障がい者施設・地域包括支援センター 等	
	4 日目		
	5 日目	訪問看護ステーション	
共通内容	実習での経験を個人で振り返る、経験内容をまとめた制作物の作成、グループでの学びの共有・発表、実習のまとめレポート		
評価方法	実習評価表に基づいた評価と出席状況		
学習資源	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院 等		
受講事前学習	<p>実習する施設の概要と役割をインターネットや資料を参考に調べる</p> <p>実習する施設の場所やタイムスケジュールを確認する</p> <p>Google Workspace の使い方を復習し、実習中に活用できるように準備する</p>		

科目	経過別看護実習 I (成人看護学実習 I)	
単位数	2 単位	
時間	90 時間	
時期	2 年 前期	
実習担当教員	藤田 美也子・藤井浩美・専任教員 他	
実習場所	浜松医療センター	
実習時間	8 : 30 ~ 16 : 15	
実習の目的 実習の目標	<p>対象の特徴および健康について理解し、健康問題の解決に向けた看護実践について学ぶ。また、場面の再構成を通し看護の基礎としての人間対人関係のプロセスについて学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各健康レベルにある人の特徴を理解し、その対象が直面する健康問題およびその解決に向けた看護の特徴を理解できる。 2. 各健康レベルにある人の特徴を理解し、その対象が直面する健康問題およびその解決に向けた看護を提供できる。 3. 看護に必要な人間対人関係のプロセスを学び、自己洞察することができる。 	
実習内容	1 日目	オリエンテーション 概要・構造、設備及び環境管理、看護の特徴について学ぶ。
	2 日目	診療録、患者との関わりを通して情報収集を行う。
	3 日目	患者との関わりの中で体験したことを再構成し自己洞察を深める。
	4 日目	収集した情報を整理し、理論的根拠を基に情報の意味を読み取る。
	5 日目	読み取った情報から、健康問題を導き出す。 行動計画に基づいて看護実践する。
	6 日目	評価・修正した記録を基に行動計画を修正する。
	7 日目	ライフサイクルを踏まえて受け持ち患者の全体像を捉え、看護の方向性を導き出す。
	8 日目	看護の方向性に沿った行動計画を立案し、実践する。
	9 日目	実践した内容を評価し、行動計画を修正する。
	10 日目	最終日に最終カンファレンスを実施する。
評価方法	経過別看護実習 I (成人看護学実習 I) 評価表に基づいて評価する。	
学習資源	<p>新体系看護学成人看護学① 成人看護学概論・成人保健メヂカルフレンド社 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 経過別看護援助論 I・II・III で用いたテキスト 周術期の看護ビデオシリーズ 1～3 インターメディア (DVD) 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研 看護が見える vol. 1・2 基礎・臨床看護技術 メディックメディア 看護が見える vol. 4 看護過程の展開 メディックメディア</p>	
受講事前準備	<p>実習病棟の特徴を踏まえ、関連する疾患・科目の学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習病棟に多い疾患の解剖生理・病態・診断・治療・看護を学習する。 ・成人看護学概論・経過別看護、成人看護援助論の復習を行う。 <p>臨床看護方法論 (症状別看護)、看護過程の復習を行う。 本実習の目標・目的、自己の課題を明らかにし、積極的・主体的に考え行動できるように準備をする。</p>	

科目名	老年看護学実習 I	
単位数	2 単位	
時間	90 時間	
時期	2 年	
実習担当教員	横畑 久子・専任教員 他	
実習場所	西山病院グループ：西山病院・西山ナーシング・西山ウエルケア 白梅会：白梅ケアホーム・ケアハウス花・彩・ハーモニー 白梅県居ケアホーム ほなみ会：南風・第2南風・花菜風	
実習時間	8：30～16：15	
実習の目的・目標	高齢者の特徴を理解し生活している人として捉え、自己の老年観を拡大した上で、その多様性を理解し、高齢者の尊厳を尊重した態度を学ぶ。	
内容	1 日目	施設・病棟オリエンテーション、患者紹介、情報収集
	2 日目	行動計画を立て、バイタルサイン測定、日常生活援助を実施する。 病床整備・入浴介助・食事・排泄への援助を通してコミュニケーションをはかり、振り返りの記録やカンファレンス・発表により、その人が望んでいることを捉える。 受け持ち以外の高齢者の望みをカンファレンス・発表を通して、共通性と個別性を理解する。
	3 日目	
	4 日目	
	5 日目	
	6 日目	「生活機能から見た老年看護過程」による対象理解をし、生活史を踏まえた全体像を捉える。
	7 日目	もてる力を活用したその人の望みに基づく「望ましい姿」を描く。それを看護目標として、日々の行動計画に反映させる。
	8 日目	指導者の指導の下に、計画に基づいた日常生活行動への支援とレクリエーションを実施する。
	9 日目	高齢者の自己決定を尊重した関わり・反応から、培ってきた英知や価値信念を見出して高齢者の尊厳に対する意識を高め、その高齢者の人生の統合への支援のあり方を見出す。
	10 日目	振り返りやカンファレンスを通して、関わりや援助内容を振り返り行動計画を修正する。 カンファレンスで多様な高齢者の姿を知り、老年観を広げる。 指導者と最終カンファレンスを実施する。
評価方法	実習評価表に沿って評価する	
学習資源	北川公子 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院、 正木治恵 老年看護学概論 南江堂、 山田律子 生活機能から見た老年看護過程 医学書院、 大塚真理子 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社	
受講事前準備	老年看護概論、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱの授業内容の振り返っておく。	

48回生カリキュラム

看護課程の基本的な考え方

現代社会の急激な少子高齢化の進展、医療の高度・専門化に伴い、医師・看護師不足の問題、看護業務の複雑・多様化など、現代社会と医療をめぐる大きな変化、問題が起り、社会的に看護師の基礎教育にも、看護実践力の育成がより求められることとなった。

そのため、平成21年度から、今後の社会変化にも対応できる看護師の育成を目指し、「コミュニケーション能力の強化」「看護実践能力の強化」を目的としてカリキュラムが改正された。

本校は、昭和49年に開設された市立の学校であり、開設以来、患者との互いに成長し合える良好な関係を形成しながら、専門職としての責任を達成できる、人間性豊かな看護師の育成に力を注ぎ、多くの卒業生が地域で活躍している。そのような実績を踏まえながら、今回のカリキュラムの改正にあたり、コミュニケーション能力の強化と合わせ、卒業後も看護実践力を高めつづける“人”の育成を重要なこととして考えた。

そのため、カリキュラムの中心に、人の成長と自己実現を相互作用のもとに支援する「ケアリング能力の育成」を据えることにした。

ケアリングを教育するということは、“配慮”“気づかい”“慈しみ”のこころを育て相手に専心し「相手の求めに気づき、意志をもって誠心誠意関わる」構えを培うことである。そのことが相手の苦痛を和らげたいという心の衝動を生み出し、自ら看護を模索し探求する行動をとる。そこから主体的な行動のもとに学生自身がその人に合った看護を創造することができる。それがコミュニケーション能力を踏まえた、真の看護実践力になる。

そのような看護実践力の育成を目指し、改めて従来のカリキュラムを全面的に見直し、まず、現状の臨床に対応できる能力の基礎を養うために、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の知識が関連づけて理解でき、臨床につなげることができる知識となるよう構築した。次に、各専門分野で重複していた内容を精選することで、学内演習を強化することや、看護判断能力の強化を図ることとした。また、その基盤としての、相手に対し思いやりをもって専心し看護を探求する姿勢の育成は、教科内はもちろん、今まで行っていた教科外活動を、体系立てて整理し育成する方針を立てた。

新設科目である統合分野は、学習した知識・技術の統合力を高めて、卒業後の臨床への適応をスムーズに進めていくためにも重要とされている科目である。そのため多重課題対応能力の育成のための実習や卒業前の技術演習、保健医療福祉における他職種との連携・協働を調整できる能力を養えるよう、多様な場での実習体制を整えていくこととした。

このように、人と人との関係に不可欠な“ケアリング”を基盤として、一人一人の学生が学習した知識や経験を生かして看護実践力を培い、自己成長していくことができることを願いとして、このカリキュラムを構成した。

教育理念

人間は環境との相互作用の中で変化し、成長・発達を続け、自らの責任で意思決定し、自己実現に向かうべき唯一無二の全体的存在である。そして、その尊厳と権利はいかなる時も尊重されるべきものである。

人間にとって健康は連続的・個別的・全人的な生活概念であり、望ましい健康とはどのような状況であってもその人にとって最高のQOLが保たれている状態であるといえる。

看護はケアリングを基盤として実践されていく。すなわち、互いの「個」としての存在を尊重し、相互の自己成長・自己実現を目指した援助関係を確立していく。

本校では、豊かな感性と高い倫理観、科学的知識、確かな技術とを統合した看護実践で、地域社会の人々に貢献し、自己成長していくことのできる看護師の育成を目指す。

また、学習の主体である学生が能力を最大限発揮し、いきいきと看護を学べる環境を目指し、学習者と教育者が共に学習し、発展していく関係を大切にした教育をしていく。

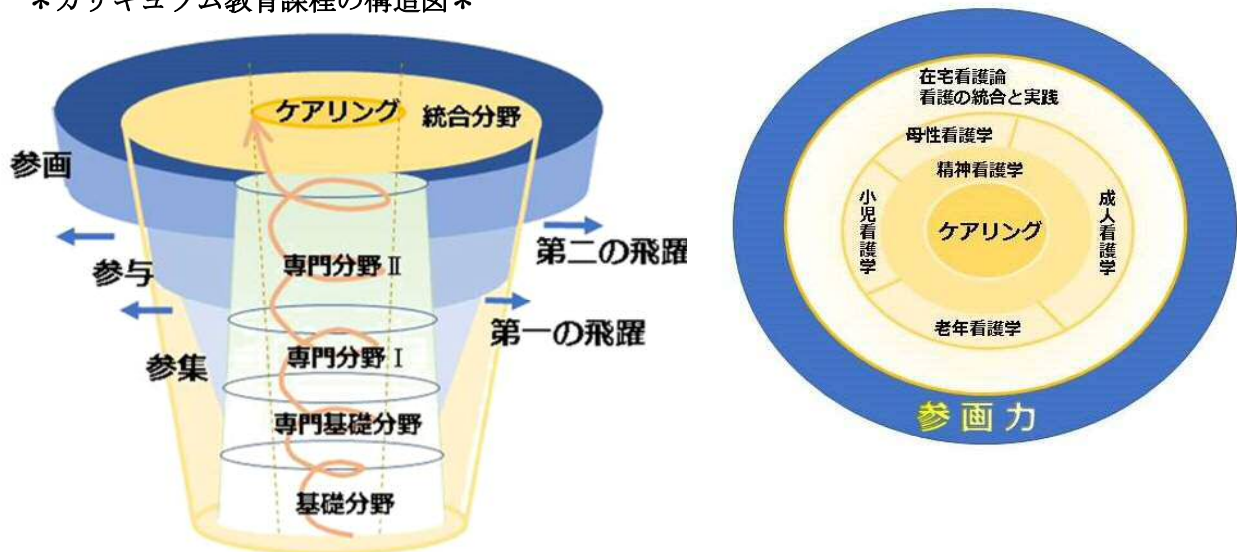
教育目的

豊かな人間性を養い、ヒューマンケアリングを基盤とした看護実践により、地域社会の人々に貢献し、自己成長していくことのできる看護師を育成する。

教育目標

1. 人間を唯一無二の全体的存在として理解し、高い倫理観のもとに、生命の尊厳と権利を擁護できる能力を養う
2. 対象との相互作用の中で、自己成長・自己実現を目指した援助的人間関係が確立できる能力を養う
3. 専門的・科学的知識に基づいた実践的判断能力を養う
4. 専心を基盤とした主体的・創造的ケアができる能力を養う
5. 看護を科学的、研究的に探求する姿勢を育み、自己研鑽できる能力を養う
6. 保健医療福祉における看護の役割と責任を自覚し、他職種と協働・調整できる能力を養う

カリキュラム教育課程の構造図



1) 全体の構造

本校の教育課程の構造は、それぞれの教育分野を積み上げて示しているが、それは単に積み上げられるのではない。その学びはそれぞれが関連しあい、中心に融合されて行き、時間空間的広がりの中で、らせん状に大きく広がっていく。それは統合分野を超えて卒業後も伸びていく専門職として不可欠なケアリング能力が成長していく過程を示している。

2) 各分野の特徴と相互の関連

基礎分野は、人間や生活、社会を科学的に広く深く理解し、看護を科学的に進めていく思考を培い、人間としても豊かな存在として成長していく基盤を形成する重要な分野である。それはその後学ぶ全ての土台となるものであり、部分で学んだ人間や健康、医療に関する知識を統合して提供する要ともなる。そのため全ての土台として位置づけ、その厚さはその重要性を表わしている。

専門基礎分野は、専門分野を学ぶ上での基礎であり、人間を生きて生活している存在として、その身体機能、健康状態を理解し、その健康を支援するうえで基礎となる知識を学んでいく。その知識は科学的な臨床判断能力の基盤となるものであり、この知識を臨床で看護として活かしていくことが看護の専門性を高める上で不可欠の要素である。

専門分野Ⅰは、専門分野Ⅱ・統合分野の基盤であり、看護専門職として必要な知識、技術、態度を育成していく土台となる基礎看護学からなる。基礎分野、専門基礎分野の知識を活用して、看護を展開していく上で核となる概念、理論、技術を学び、看護の対象となる人との関わりの基盤ともなる体験を培う重要な分野である。

専門分野Ⅱは成人・老年・母性・小児というライフサイクル・対象特性による看護学と、人間理解を深め、関係を形成していく看護として共通の知識、視点を含む精神看護学によりなる。そのため、各看護学を外側、精神看護学を内側に置き、その中心にケアリング能力が融合されて伸びていくと考え、配置した。

新設された統合分野は看護基礎教育の集大成ともいえる分野で「看護の統合と実践」、「在宅看護論」が置かれている。これまでの学びを統合し、あらゆる場、あらゆる対象、あらゆる状況に対応した看護実践ができるための基礎的能力が育成できることを目的としている。学んだことの統合は積み上げの最終結果として行われるのではなく、これまで培ってきた生活体験や学習体験を基盤にして、各分野を包括して末広がり広がっていくものとし、その後も伸び続ける力として考え、表わした。

3) 参画型看護教育との関連

それぞれの教育分野を積み上げていく課程と共に参画型看護教育(第2節参照)も行っている。基礎分野の始まる時点では参集であるが、専門基礎分野、専門分野Ⅰ・Ⅱと経ていく過程の中で、参与・参加へと飛躍していく。自ら学び、看護を行える“場”を創造していく「参画力」を育成し、ケアリング能力を拡張させる力となっている。

学年目標

	教育目標	1 学年	2 学年	3 学年
1	人間を唯一無二の全体的存在として理解し、高い倫理観のもとに、生命の尊厳と権利を擁護できる能力を養う。	① 人間は生物的・心理的・精神的・社会的・霊的側面を統合した全体的存在として理解する。 ② 人間の尊厳と権利擁護について理解する。 ③ 看護における倫理の必要性と関連する基礎的知識について理解する。	① 全体的存在としての個を尊重し、擁護する必要性について理解する。 ② 他者の信条や価値観に関心をもち、倫理的判断能力を育む。	① 人間としての尊厳と権利を擁護する姿勢を持ち、温かい人間的配慮ができる。 ② 倫理的感性を高め、倫理的課題への対応について表現できる。
2	対象との相互作用の中で、自己成長・自己実現を目指した援助的人間関係が確立できる能力を養う。	① 自己分析・自己理解によって内的な深化を図ることができる。 ② 他者への興味・関心を抱き、関わりをもつことができる。 ③ 帰属集団の一員として自覚し、感情体験の共有化を図ることができる。	① 他者理解を深めることで、相手の独自性や個別性に気付くことができる。 ② 人間関係をつくるための適切なコミュニケーションスキルについて理解することができる。 ③ 帰属集団としての凝集性や斉一性を高められる。	① 互いの独自性と関係性が尊重される中で、他者の自己成長を助けることができる。 ② 他者と積極的にコミュニケーションをはかり、チームワークを高めることができる。
3	専門的・科学的知識に基づいた実践的判断能力を養う。	① 看護と看護に関連する基礎的知識を理解する。 ② 看護の基本となる理論を理解する。	① ライフサイクル、健康レベル、看護の場に応じた看護の方法を理解する。 ② 看護実践における看護理論の活用方法が理解できる。 ③ 看護実践における看護過程の展開方法が理解できる。	① 既習の知識を統合し、看護実践に活用できる。 ② 看護理論に基づいて看護実践できる。 ③ 対象に合った看護過程の展開ができる。

	教育目標	1 学年	2 学年	3 学年
4	専心を基盤とした主体的・創造的ケアができる能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ① 原理原則に基づいた看護技術を身につける。 ② 看護することの意味を自分の中に位置づけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 病む人の心身の状態や生活を捉え、個別性を考えた看護実践ができる。 ② 自分の全てで患者と関わることの大切さに気づき、ケアする存在としての自分を自覚することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 専心を基盤に、場の状況に応じて個別的なケアを主体的・創造的に実践できる。
5	看護を科学的、研究的に探究する姿勢を育み、自己研鑽できる能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習の中に疑問・関心をもち、追求する学習行動がとれる。 ② 現象を論理的に説明し、文章表現ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 看護実践を通して、看護に対する考えを具体化することができる。 ② 看護実践においてクリティカルシンキングの姿勢をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 科学的・研究的に看護を探究する姿勢をもつことができる。
6	保健医療福祉における看護の役割と責任を自覚し、他職種と協働・調整できる能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ① 保健医療福祉の概念とシステムや社会的ニーズを理解する。 ② 社会情勢に興味関心をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 保健医療福祉チームにおける健康や障がいに応じた看護の役割や共同のあり方を理解する。 ② 社会に広く関心を持ち、情報の収集・分析ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 保健医療福祉チームの一員として看護実践できる。 ② 保健医療福祉における課題を見出すことができる。

進 度 表 (48回生)

	教育内容	科目	単位数	時間数	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の 基盤	心理学	1	30	30					
		論理学	1	15	15					
		生活科学	1	30	30					
		看護人間工学	1	30	30					
		情報科学	1	30		30				
	人間と生活、 社会の理解	倫理学	1	30					30	
		教育学	1	30				30		
		社会家族論	1	30					30	
		人間関係論	1	30	30					
		カウンセリング	1	15			15			
		多文化共生論	1	15					15	
		看護医学英語	1	30	30					
	体育	1	30	30						
	計		13	345	225	30	15	30	75	

	教育内容	科目	単位数	時間数	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎分野	人体の構造 と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	30					
		解剖生理学Ⅱ	1	30	30					
		解剖生理学Ⅲ	1	30	30					
		生化学	1	30	30					
	疾病の成り立ち と回復の促進	病理総論	1	30	30					
		疾病治療論Ⅰ	1	30	30					
		疾病治療論Ⅱ	1	30		30				
		疾病治療論Ⅲ	1	30		30				
		疾病治療論Ⅳ	1	15		15				
		疾病治療論Ⅴ	1	15		15				
		治療看護論	1	30			30			
		感染症学(感染看護)	1	30			30			
		薬理学	1	30		30				
		臨床栄養学	1	30			30			
	リハビリテーション学	1	30				30			
	健康支援と 社会保障制度	法律と医療	1	15	15					
		医療安全	1	15					15	
		社会福祉	1	30		30				
		公衆衛生	1	15				15		
		保健福祉行政論	1	15					15	
		福祉レクリエーション	1	15				15		
	計		21	525	195	150	90	60	30	

	教育内容	科目	単位数	時間数	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論	1	30	30					
		看護過程	1	30			30			
		フィジカルアセスメント	1	30		30				
		共通看護技術論	1	30	30					
		日常生活援助技術論Ⅰ	1	30	30					
		日常生活援助技術論Ⅱ	1	30	30					
		日常生活援助技術論Ⅲ	1	30		30				
		回復促進援助技術論Ⅰ	1	30		30				
		回復促進援助技術論Ⅱ	1	30		30				
	臨床看護方法論	1	30		30					
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	7.5	37.5				
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90		90				
		計	13	435	127.5	277.5	30			

	教育内容	科目	単位数	時間数	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	1	30		30				
		成人看護援助論Ⅰ	1	30			30			
		成人看護援助論Ⅱ	1	30				30		
		成人看護援助論Ⅲ	1	30				30		
		成人看護援助論Ⅳ	1	30				30		
		成人看護援助論Ⅴ	1	30				30		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		30				
		老年看護援助論Ⅰ	1	30			30			
		老年看護援助論Ⅱ	1	30			30			
		老年看護援助論Ⅲ	1	15				15		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		30				
		小児看護援助論Ⅰ	1	30			30			
		小児看護援助論Ⅱ	1	15			15			
		小児看護援助論Ⅲ	1	30				30		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		30				
		母性看護援助論Ⅰ	1	30			30			
		母性看護援助論Ⅱ	1	30			30			
		母性看護援助論Ⅲ	1	15				15		
	精神看護学	精神看護学Ⅰ	1	30		30				
		精神看護学Ⅱ	1	15		15				
精神看護学概論		1	30			30				
精神看護援助論		1	30				30			

臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90			90			
	成人看護学実習Ⅱ	2	90				90		
	成人看護学実習Ⅲ	2	90					90	
	老年看護学実習Ⅰ	2	90			90			
	老年看護学実習Ⅱ	2	90					90	
	小児看護学実習	2	90					90	
	母性看護学実習	2	90					90	
	精神看護学実習	2	90					90	
	計	38	1320		165	405	300	225	225

教育内容	科目	単位数	時間数	1年		2年		3年	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
在宅看護論	在宅看護概論	1	30			30			
	在宅看護援助論Ⅰ	1	15				15		
	在宅看護援助論Ⅱ	1	30				30		
	在宅看護援助論Ⅲ	1	15				15		
看護の統合と実践	看護管理	1	15					15	
	救急・災害看護	1	30					30	
	総合看護技術	1	30					26	4
	看護理論・看護研究	1	30			22	8		
臨地実習	在宅看護論実習	2	90					90	
	総合実習	2	90						90
	計	12	375			52	68	116	139

合計	単位数	時間数	1年		2年		3年	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
			517.5	622.5	592	458	446	364
	97	3000	1140		1050		810	

科目 倫理学	1 単位 30 時間	3 年 前期	担当 森下直貴
授業の目的・目標	<p>倫理の原点は、日常の対面的なコミュニケーションである。コミュニケーションは種々に分化し、社会機能システムからなる様々なコミュニティを形成する。この社会機能システム内部の構造の働きが一般に「倫理」と呼ばれるものの正体である。本講義では「システム倫理学」という独自の観点からとりわけ医療をシステムとして捉え、医療をめぐる倫理問題を幅広く考察する。</p> <p>目標は、①倫理という事象を包括的・連関的に理解できること。 ②医療と看護をシステムとして捉える見方に習熟すること。 ③医療の倫理問題について方法を用いて考察できること。</p>		
1	システム倫理の基本構図		講義
2	人間のコミュニケーション		講義
3	人という四次元システムの統合		講義
4	心と相互的コミュニケーション		講義
5	社会システムと理念		講義
6	対立を移動させる方法（1）		講義
7	対立を移動させる方法（2）		講義
8	生殖医療の倫理		講義
9	安楽死の倫理		講義
10	QOL の尺度		講義
11	人生観・死生観		講義
12	医療のデジタル化		講義
13	超高齢社会の医療と介護		講義
14	つながり合いの哲学		講義
15	まとめ		講義
評価方法	定期試験 80% 授業態度 20%		
学習資源	<p>テキスト：森下直貴編『システム倫理的思考 対立しながらも、つながり合う』 幻冬舎、2020 年 参考文献は講義中に紹介する。</p>		
受講事前準備	<p>システム倫理学の考え方は医療だけでなく、現代社会のあらゆる問題に応用できる。教科書は少々難解かもしれないが、熱心に講義を聞き、自分の頭で考えながら読み進めるなら、必ずや理解できるはずである。ぜひとも食らいついて欲しい。</p>		

科目	社会家族論	1 単位 30 時間	3 年 前期	担当 坂田 温志
目的・目標	<p>本授業の目的は看護職につくものとして、日本社会における家族を取り巻く様々な社会的問題について考えを深めることを目的とする。日本社会における少子高齢化や児童虐待、障害者・高齢者福祉などの社会問題について幅広く学び、それらの問題の解決のために受講生が、看護職としてどのような役割を担えるか考えることに資することを本授業の目標とする。基本的に社会福祉の視点から講義を進める。</p>			
1	授業オリエンテーション・家族の概念	講義		
2	日本における少子高齢化とその影響	講義		
3	児童虐待問題①：児童虐待とは	講義		
4	児童虐待問題②：児童虐待が子どもに与える影響	講義		
5	子どもの貧困問題①	講義		
6	子どもの貧困問題②	講義		
7	家庭を支える社会福祉施策	講義		
8	中間テスト	講義		
9	障害児・者への支援施策（障害児・者福祉）①	講義		
10	障害児・者への支援施策（障害児・者福祉）②	講義		
11	子どもへの支援施策（子ども家庭福祉）	講義		
12	高齢者への支援（老人福祉）	講義		
13	地域における家庭支援（地域福祉）	講義		
14	ヤングケアラー問題	講義		
15	まとめ	講義		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 24 点 ・授業内レポート 26 点 ・筆記テスト 50 点 以上で計 100 点			
学習資源	<ul style="list-style-type: none"> ・各回に授業で配布するレジユメをもとに授業を進める。 ・授業内容に応じて、視聴覚教材を使用し学習内容理解を促す。 ・授業内容の進行状況に応じて、授業内容の順番を変更する場合がある。 			
受講事前準備				

科目	多文化共生	1 単位 1 6 時間	3 年 前期	担当	松岡 真理恵
授業の目的・目標	<p>様々な在住外国人の背景や現状、文化を知り、実際に外国人に看護の現場で触れ合う際の基礎的な知識や心構えを学ぶ。</p> <p>表面的な文化の違いを学ぶだけでなく、多文化共生を実現することは、様々な多様性を持つ一人ひとりの個性を認めあい、活かしあって社会づくりをしていくということであり、外国人だけでなく誰にとっても生きやすい社会づくりであることに気づくようにする。</p>				
1	「日本人」が多様化している現状と多文化共生への取り組み			講義・演習	
2	多文化共生の根っこを考える			講義・演習	
3	「移民」の歴史を振り返る～日本からブラジルへ、ブラジルから日本へ～ 在住外国人の声を聞く①ブラジル			講義・演習	
4	在住外国人の声を聞く②中国			講義・演習	
5	在住外国人の声を聞く③フィリピン			講義・演習	
6	在住外国人の声を聞く④インドネシア			講義・演習	
7	「やさしい日本語」について			講義・演習	
8	これらの多文化共生社会を考える（外国人の二世世代の声を聞く） ／全体のふりかえり			講義・演習	
評価方法	毎回の「ふりかえりシート」、出席状況、最後のレポート 100点				
学習資源	まんが クラスメイトは外国人～多文化共生 20 の物語、明石書店				
受講事前準備	上記資料を読む				

科目	医療安全	1 単位 15 時間	3 年 前期	担当	山本智美
授業の目的・目標	<p>安全で質の高い看護を提供するために、医療事故、医療過誤に関する知識を持ち、医療事故の危険性の予測や回避する方法を理解する。</p> <p>1. 医療事故に関する基礎的知識が理解できる</p> <p>2. 医療事故を予防・回避するために医療チームにおける看護師としての自分の役割が理解できる</p> <p>・ ヒューマンエラーを理解し、自分もヒューマンエラーを起こす存在であることが理解できる</p>				
1	医療安全を学ぶことの意義、医療事故防止の考え方				講義
2	ヒューマンエラーと医療事故防止対策				講義
3	診療の補助業務と医療事故防止				講義
4	診療の補助業務と医療事故防止・KYT				講義
5	療養上の世話と医療事故防止・KYT				講義
6	患者誤認防止対策、医療事故の分析と発生要因				講義
7	医療安全とコミュニケーション、チーム医療				講義
8	組織的な医療安全管理体制、医療安全対策の国内外の潮流、医療事故と法律				講義
評価方法	筆記試験 100 点 授業参加度 10 点				
学習資源	系統看護学講座 医療安全 医学書院				
受講事前準備	1999 年 1 月 11 日の横浜市立大学医学部附属病院で発生した患者取り違え事故の概要について事前に調べておくこと。(この事例からわが国の医療安全に対する考え方、体制が激変していること、エラーの連鎖が学べる事例のため)				

科目	保健福祉行政論	1 単位 1 5 時間	3 年 前期	担当 海野 直樹 中山禎司 二宮 貴至 内山 千春 子育て支援課 健康増進課 健康医療課 保健環境研究所
授業の目的・目標	浜松市における保健・医療・福祉の総合対策の実際を理解することで、保健医療福祉チームにおいての健康や障害に応じた看護の役割や協働のあり方について学ぶ。			
1	海野	医療の歴史		講義
2	中山	今後の医療の方向		講義
3	子育て支援課	浜松市の保健医療福祉行政の実際 子育て支援施策の実際		講義
4	二宮	浜松市の保健医療福祉行政の実際 精神保健福祉の実際		講義
5	保健環境研究所	浜松市の保健医療福祉行政の実際 保健環境施策の実際		講義
6	健康増進課	浜松市の保健医療福祉行政の実際 健康づくり施策の実際（母子保健分野・高齢者保健）		講義
7	健康医療課	浜松市の保健医療福祉行政の実際 保健医療施策の実際（災害時医療・夜間救急）		講義
8	内山 千春	浜松市の保健医療福祉行政の概要と看護師の役割		講義
	評価方法	課題レポート 100点		
	学習資源	国民衛生の動向 テキスト 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 I 総合医療論 医学書院		
	受講事前準備	テキストによく目を通しておくこと		

科目名	成人看護学実習Ⅲ	
単位数	2単位	
時間	90時間	
時期	3年	
実習担当教員	藤田美也子 藤井浩美 専任教員 他	
実習場所	浜松医療センター	
実習時間	8:15～16:45	
実習の目的・目標	成人期にある個人と家族を対象に多角的・全人的に捉え、主体的かつ批判的思考に基づいて判断し、あらゆる健康レベルに応じた看護実践を学ぶ。また、手術室看護及びICU・CCUの看護実習を通して、クリティカルケアを学ぶ。	
手術室、 ICU・CCU 実習内容	1日目	オリエンテーション 集中治療室の概要、看護の特徴を学ぶ。 手術室の構造・設備及び環境管理について学ぶ。
	2日目	看護師と行動を共にすることで、救命医療の特徴について理解を深める。
	3日目	看護師と共に行動することで、手術室看護についての理解を深める。
病院実習内 容	1日目	オリエンテーション、患者紹介、情報収集
	2日目	行動計画に基づいた生活援助を通して、情報収集し整理する。
	3日目	病態・検査・治療によって、健康状態がどの程度障害されているのかアセスメントする。
	4日目	患者の全体像を把握する。看護診断とその問題の発生要因を特定する。
	5日目	看護診断の優先順位が根拠を持って決定する。
	6日目	実践可能な看護計画を立案し、それに基づいて行動計画を立案する。
	7日目	臨床判断に基づいて、優先順位を決定し看護実践する。
	8日目	実践した結果を評価し、看護計画を修正する。
	9日目	最終日に最終カンファレンスを実施する。
評価方法	実習評価表に沿って評価する。	
学習資源 (視聴覚教材を含む)	野口美和子：新体系看護学 成人看護学① 成人看護概論・成人保健， メジカルフレンド社 成人看護援助論Ⅰ～Ⅳのテキスト リンダJ・カルペニート：看護診断ハンドブック，医学書院	
受講事前準備	成人看護概論、成人看護援助論Ⅰ～Ⅳの講義内容を復習する 成人看護学実習Ⅰ・Ⅱの振り返りをしておく	

科目名	老年看護学実習Ⅱ	
単位数	2単位	
時間	90時間	
時期	3年	
実習担当教員	横畑久子・専任教員	
実習場所	医療センター（整形外科病棟 脳神経外科病棟 混合病棟）	
実習時間	8：15～16：45	
実習の目的・目標	加齢に伴う変化と疾病による影響を踏まえ、生活機能と健康状態を査定し、その人や家族の望ましい健康像をサポートできる看護実践の基礎を学ぶ。	
内容	1日目	病棟オリエンテーション、患者紹介、情報収集
	2日目	行動計画を立て、指導の下に日常生活への援助を実施する。 患者の状態や病期に合わせて、問題解決型もしくは目標志向型で分析のアセスメントを行い、全体的存在としての理解および老化と疾病・障害により生じている生活への影響を捉える。 援助を通して患者との相互理解を深め、その人の望みを捉える。
	3日目	
	4日目	
	5日目	患者の「生きることの全体像」を関連図で描く。患者の望みを踏まえて、看護的視点から現在の身体・精神状況を捉えた今後の生き方を主目標として見出す。患者の主目標をもとに患者と共に看護の方向性を確認する。 多職種のアドバイスも得て、プラス面、潜在機能などを活用して、生活機能に着目した援助計画を立てる。患者・家族の参画を得た生活機能の維持・向上に向けた看護実践を指導の下に行う。 高齢者の反応を踏まえて、看護実践を評価する。 カンファレンスで看護実践の意味を見出しグループメンバーと共有する。最終日に臨床指導者と最終カンファレンスを実施する。
	6日目	
	7日目	
	8日目	
	9日目	
	10日目	
	11日目	
	12日目	
評価方法	実習評価表に沿って評価する	
学習資源 (視聴覚教材を含む)	北川公子 系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学 医学書院、 正木治恵 老年看護学概論 南江堂、 山田律子 生活機能からみた老年看護過程 医学書院、 正木治恵 パーフェクト臨床実習ガイド老年看護 照林社	
受講事前準備	老年看護概論、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護学実習Ⅰの授業内容を振り返っておく	

科目	小児看護学実習	2単位90時間	3年 前期・後期	担当 落合美智枝 植村いず美 成岡千恵子 川崎富仁子
実習の目的・目標	<p>小児各期の対象である子どもとその家族について理解し、対象の状態に応じた看護ができるために必要な基礎を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長発達と日常生活の援助について理解する。 2. 健康に問題がある子どもと家族を理解する。 3. 対象に必要な看護の展開方法を学ぶ。 4. 子どもの特徴をふまえた看護の実際を学ぶ。 5. カンファレンスを通して看護に対する考え方を学ぶ。 6. レポートをまとめることにより、子どもの看護に対する考え方を学ぶ。 7. 看護実践における態度を学ぶ。 			
実習時間	8:15～16:45			
1日目	健康な乳幼児の発達、心理的・社会的適応困難や反社会的逸脱行動などをみせる子どもの実際を知る。	あゆみ保育園 (3日間)		
2日目				
3日目				
4日目		天竜病院 5病棟 (3日間)		
5日目				
6日目				
7日目	実習準備・オリエンテーション	学内		
8日目	患児一人を受け持つことで子どもと家族を理解し、対象に必要な看護の方向性を導き出すことができる。	医療センター 3号館5階 (6日間)		
9日目				
10日目				
11日目				
12日目				
13日目				
14日目	学びの統合	学内		
評価方法	実習評価表にそって評価を行う			
学習資源	小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用したテキスト、参考資料等			
受講事前準備	提示する事前学習、既習学習の復習、各自必要と考える学習を行う。			

科目名	母性看護学実習		
単位数	2 単位		
時間	90 時間		
時期	3 年 前期・後期		
実習担当教員	嶺岡永味子 石井幸子		
実習場所	浜松医療センター 周産期センター・産婦人科外来		
実習時間	8：15～16：45		
実習の目的・目標	マタニティサイクルにある対象との関わりを通して、女性の生き方や命に対する考えを深め、その対象にとっての健康を考慮しながら、その対象が持つ機能を発揮できる健康支援の在り方や看護の役割について学ぶ。		
実習内容 場所	1 日目	妊娠期の看護および女性性への看護	バース外来
	2 日目	外来の妊婦健康診査の見学および診察の援助から妊娠期の対象理解と看護を学ぶ。	産婦人科外来 (各 1 日)
	3 日目	分娩期の看護	バースセンター MFICU
	4 日目	経膈分娩または帝王切開分娩に臨む対象を受け持ち、分娩期の看護援助を学ぶ。	
	5 日目	産褥期の看護	
	6 日目	産褥期にある褥婦および新生児を受け持ち、看護過程を展開しながら看護を実践する。	
	7 日目		
	8 日目		
	9 日目		
	10 日目	NICU の看護	NICU (2 日間)
	11 日目	看護師のシャドーイングからNICUにおける看護を学ぶ。	
	12 日目	最終カンファレンスおよび学びの統合 *上記の実習内容はローテーションで実施していく。	バースセンター MFICU
評価方法	出席状況および知識、技術、態度について評価表に沿って評価する。		
学習資源	系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学概論・各論 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版		
受講事前準備	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの内容を復習しておく。 提示した母性看護学実習事前学習内容をノートにまとめておく。 母性看護技術に関するものについて学内演習を行っておく。		

科目名	精神看護学実習			
単位数	2単位			
時間	90時間			
時期	3年			
実習担当教員	澤木亜紀・今村真智子・長谷川菜津紀			
実習の目的・目標	精神障がいを持つ人を一人の生活者としてとらえ、人権尊重と援助関係に基づきリカバリーに注目した看護実践の基礎を学ぶ。			
デイケア実習	1日目	オリエンテーション	8:00-16:30	好生会 三方原病院 デイケア
内容・時間・場所	2日目	デイケアプログラムを通して利用者と関わり、精神障がいを持ちながら地域で暮らす人のリカバリーについて考える。また、精神障がいをもつ人の地域生活を支援する多職種連携について学ぶ。毎日カンファレンスを実施する。		
病棟実習	1日目	オリエンテーション・患者紹介・情報収集 保護室見学	8:00-16:30	好生会 三方原病院
内容・時間・場所	2日目	患者の生活リズムを知る		
	3日目	日常生活援助を通して援助関係を深める。		
	4日目	精神医療における患者の権利擁護のための看護師の役割について考える。		
	5日目	構造-判別図を活用しながらアセスメント		
	6日目	して全体像を描き、看護の方向性を定めていく。精神障がいを持つ人のリカバリーに		
	7日目	注目した看護を実践する。		
	8日目	7日目に中間カンファレンスを実施する。		
	9日目	最終日に最終カンファレンスを実施する。		
	10日目			
評価方法	実習評価表に沿って評価する。			
学習資源 (視聴覚教材を含む)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学①② 医学書院 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 リカバリーの学校の教科書 ペプロウ 人間関係の看護論 医学書院 トラベルビー 人間対人間の看護 医学書院			
受講事前準備	実習の目的・目標を十分理解し、自ら必要な準備を行い、仲間と刺激し合いながら主体的に学習を深めることを強く期待する。臨床指導者・スタッフとも積極的に対話してほしい。			

科目	看護管理	1 単位 15 時間	3 年 前期	担当 杉山由香 高橋円香 稲川和代 加藤理恵
授業の目的・目標	チーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整とリーダーシップおよびマネジメントができるための基礎的知識を理解すると共に、看護の国際協力の仕組みや展開について理解する。また、看護に関わるさまざまな法制度や看護政策の実行の過程を理解する。			
1	杉山	看護管理実践報告		講義
2		組織目的達成のマネジメント		講義
3	高橋	看護サービス提供のしくみづくり 人材のマネジメント		講義
4		施設・設備環境・物品・情報のマネジメント 組織におけるリスクマネジメント サービスの評価（医療機能評価） リーダーシップ		講義
5	稲川	安全管理、チーム医療、看護業務		講義
6	加藤	看護をめぐる制度と看護政策		講義
7	稲川	健康格差		講義
8	加藤	看護の国際協力活動		講義
評価方法	筆記試験 100 点			
学習資源	藤崎郁、看護学概論 系統看護学講座 医学書院 上泉和子、看護の統合と実践 看護管理 系統看護学講座 医学書院			
受講事前準備	テキストに目を通しておくこと			

科目	救急・災害看護	1単位30時間	3年 前期	担当 笠原 真弓 吉野 篤人
授業の目的・目標	救急看護の特徴や役割を理解し、救急処置が必要なさまざまな状況に対応できる基礎的能力を養う。			
1	笠原	救急看護の概念	講義	
2		初期・第二次・第三次救急医療における対応	講義	
3		院内救急時における対応	講義	
4		在宅医療における対応	講義	
5		災害時における対応	講義	
6		災害時における対応	講義	
7	吉野	主要病態別の救急処置と看護：外傷	講義	
8		主要病態別の救急処置と看護：中毒	講義	
9		主要病態別の救急処置と看護：熱傷・意識障害	講義	
10		救急時の看護技術：心肺蘇生、AED	講義・演習	
11	笠原	救急時の看護技術：包帯法	講義・演習	
12		救急時の看護技術：止血法	講義・演習	
13		救急時の看護技術：固定法（骨折）、搬送	講義・演習	
14	吉野	救急時の看護技術：トリアージ演習	演習	
15	笠原	救急時の看護技術：トリアージ演習	演習	
評価方法	筆記試験100点			
学習資源	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 2013			
受講事前準備	テキストに目を通しておく			

科目	総合看護技術	1 単位 3 0 時間	3 年 前・後期	担当 成岡千恵子 藤井浩美 土屋 京子
授業の目的・目標	<p>様々な状況にある対象の事例に対して、その状況を判断し、これまで学んだ基本的な看護技術を活用して看護を実践できる力を身に付ける。</p> <p>1. 基本的な看護技術の実践力を強化する。 2. 状況を判断できる力を育む。 3. 自己のコミュニケーションの特性を知り、効果的なコミュニケーションについて考えることができる。 4. アセスメントを基に対象に合った看護実践能力を養う。 5. 演習を通して自己の看護を振り返ることができる。</p>			
1	成岡	オリエンテーション		
2	土屋	看護師としてのコミュニケーション力を高める (1)	GWあり	
3		看護師としてのコミュニケーション力を高める (2)	領域実習Gで演習	
4	成岡	身に付けておきたい看護技術 (1) －輸液管理－	タスクトレーニング	
5				
6	成岡	身に付けておきたい看護技術 (2) －体位変換と経管栄養法－	タスクトレーニング	
7				
8	藤井	看護の力を高める (1) －急変時の対応－	シチュエーションベースドトレーニング	
9				
10	成岡	看護の力を高める (2) －安全と尊厳－	シチュエーションベースドトレーニング	
11				
12	成岡	連携する力を高める －多職種連携－	GW	
13				
14	成岡	臨床に向けての力試し －多重課題－	シチュエーションベースドトレーニング	
15				
評価方法	筆記試験 60 点 ルーブリック評価 40 点			
学習資源	岡庭豊 看護技術がみえる vol. 2 臨床看護技術 メディックメディカ 2013 今までに使用したテキスト・資料など			
受講事前準備	<p>※受講条件：各授業で出される事前課題をA4用紙2枚にまとめてくること 事前課題を行ってこない者は受講資格なし</p> <p>※本授業はシミュレーション教育です</p>			

科目名	在宅看護論実習		
単位数	2単位		
時間	90時間		
時期	3年前期・後期		
担当教員	谷口弥生・渡邊禎子・専任教員		
実習の目的・目標	地域保健医療福祉活動における看護の機能と役割を理解し、地域で生活する人々の生活を支える看護実践の基礎を学ぶ。		
実習内容 場所	1日目	地域包括支援センター・通所介護の活動の実際を知り、療養者及び家族を支える地域包括ケアシステムと多職種連携の意義、看護師の役割を学ぶ。	地域包括支援センター (1日)
	2日目		
	3日目		通所系サービス事業所 (2日)
	4日目	地域で生活する対象の健康特性に応じた看護のあり方、地域保健サービス体系と関連職種、その活用方法について理解し、保健・医療・福祉との連携の必要性を学ぶ。	南区・西区 健康づくり課
	5日目		
	6日目	病院内外の多職種が患者・家族の退院後の暮らしを予測し、どのように意思決定支援しているかを学ぶ。	浜松医療センター 患者支援室
	7日目	在宅看護を受けている療養者・家族・介護者の状況、生活環境を理解し、生活と医療を統合した看護について学ぶ。 在宅ケアシステムと社会資源の活用及び多職種との連携や継続看護について理解し、訪問看護師の役割を理解する。また、訪問看護師の態度・行動のもつ意味について学ぶ。	訪問看護 ステーション
	8日目		
	9日目		
	10日目		
	11日目		
	12日目		
	13日目	学びの統合（ラベルワーク）	
評価方法	実習評価表に沿って評価する		
学習資源	河野あゆみ編 新体系看護学全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社 鈴木和子・渡辺裕子：家族看護学 理論と実践 第5版 浜松市：介護保険利用てびき		
受講事前準備	実習の目的・目標を十分に理解したうえで、必要な学習を主体的に行うことを望む。実習場所が複数であり、個人で行動することが多い。社会人基礎力を発揮し、看護学生としてふさわしい態度・行動で臨んでほしい。		

科目	総合実習	2単位 90時間	3年 後期	担当	落合 美智枝 他
実習の目的・目標	<p>状況変化に対応した看護実践を学ぶことで、医療従事者の一員としての役割を自覚し、自らの看護師像を発展させることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の患者を受け持ち、多重課題に対して自分で判断し、遂行できる能力を学ぶ。 2. チームナーシングにおけるメンバーの機能と役割を学ぶ。 3. チームナーシングにおけるチームリーダーの機能と役割を学ぶ。 4. 看護サービスのマネジメントを学ぶ。 5. チームカンファレンスの機能と役割について学ぶ。 6. プロセス図解をまとめることにより看護に対する考え方を学ぶ。 7. 看護実践における態度を学ぶ。 				
実習時間	8:30~16:15	実習場所	浜松医療センター		
1日目	看護管理オリエンテーション フォロワーシップ・メンバーシップ			一般病棟	
2日目	<p>複数受け持ち実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者の情報収集 ・日常生活援助を中心に行動計画に基づき実践を行う 			一般病棟	
3日目					
4日目					
5日目					
6日目	<p>病棟管理者、病棟看護チームリーダー、外来・血液浄化・放射線部門看護師、専門・認定看護師、看護補助者（看護助手）へのシャドウイングから多職種間での連携や協働の実際を学ぶ</p>			一般病棟	
7日目				外来室	
8日目				人工透析室	
9日目				放射線検査室 専門・認定看護	
10日目	最終カンファレンス 学びの振り返り			一般病棟	
評価方法	実習評価表にそって評価を行う				
学習資源	<p>系統看護学講座専門1 看護学概論 医学書院 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院</p>				
受講事前準備	マネジメントの基本・リーダーシップ・メンバーシップ・フォロワーシップについて理解しておく。				

全学年共通

履修科目別担当講師一覧

1年生

科目	単位数	時間数	クラス		氏名	
			1組	2組		
心理学	1	30	30	30	高 向山	常葉大学講師
論理学	1	30	30	30	阿部 美里	元中学校教諭 保健師
生活科学	1	16	16	16	政本 ゆかり	県立湖北高等学校非常勤講師
看護人間工学	1	30	30	30	谷 重喜	浜松医科大学教授 薬学博士
情報科学	1	30	30	30	谷 重喜	浜松医科大学教授 薬学博士
哲学	1	16	16	16	森下 直貴	共生学研究所代表理事 浜松医科大学名誉教授
社会学	1	30	30	30	松澤 俊行	浜松学院大学 短期大学部 講師
人間関係論	1	30	22	22	松原 凡代	臨床心理士
			8	8	鈴木 洋子	臨床心理士
英語	1	30	30	30	杉野 俊子	元大学英语講師
解剖生理学Ⅰ	1	30	10	10	山下 寛奈	浜松医科大学准教授 医学博士（看護婦・保健師）
			12	12	村松 貴志	浜松赤十字病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 特定看護師
			8	8	山岸 寛	浜松医科大学教授 理学博士
解剖生理学Ⅱ	1	30	30	30	山岸 寛	浜松医科大学教授 理学博士
解剖生理学Ⅲ	1	30	10	10	山岸 寛	浜松医科大学教授 理学博士
			20	20	山下 寛奈	浜松医科大学准教授 医学博士（看護婦・保健師）
生化学	1	30	30	30	大場 浩	聖隷クリストファー大学名誉教授 薬学博士
病理総論	1	30	30		小澤 享史	浜松医療センター常勤嘱託医
				30	森 弘樹	浜松医療センター医師
疾病治療論Ⅰ	1	30	6	6	佐藤 潤	浜松医療センター医師
			4	4	朝井 克之	浜松医療センター医師
			14		高仲 知永	高仲循環器クリニック 理事長 院長
					田中 敬三	浜松医療センター医師
			6	6	長山 浩士	浜松医療センター医師
疾病治療論Ⅱ	1	30	6	6	金岡 繁	浜松医療センター副院長 医師
			2	2	栗山 茂	浜松医療センター医師
			2	2	佐原 秀	浜松医療センター医師
			4	4	影山 富士人	浜松医療センター医師
			4	4	大菊 正人	浜松医療センター医師
			12		中山 禎司	浜松医療センター院長補佐 浜松医科大学臨床教授
疾病治療論Ⅲ	1	30		12	澤下 光二	浜松医療センター医師
			4	4	福德 晃子	独立行政法人国立病院機構天竜病院 医師
			6	6	甲山 篤	浜松医療センター医師
			2	2	荻原 弘晃	浜松赤十字病院副院長 医師
			2	2	牧野 絵巳	浜松赤十字病院 医師
			6	6	三澤 淳子	浜松医療センター医師
			6	6	高取 宏昌	浜松医療センター医師
			4	4	龍島 桂子	浜松医療センター医師
疾病治療論Ⅳ	1	16	8	8	武田 明日美	浜松医療センター医師
			6	6	高橋 慎治	浜松医療センター医師
			2	2	細川 優子	浜松医療センター医師
疾病治療論Ⅴ	1	16	8	8	内藤 健助	浜松医療センター医師
			4	4	石井 るみ子	医師
感染症学	1	30	4	4	荒井 真木	浜松医療センター医師
			14	14	鈴木 美奈	東都大学教授
			10	10	矢野 邦夫	浜松医療センター 感染症管理特別顧問
薬理学	1	30	6	6	葛原 健太	浜松医療センター医師 感染症管理認定看護師
			30	30	外村 和也	浜松医科大学特任助教 医学博士
臨床栄養学	1	30	30	30	上田 規江	管理栄養士
臨床推論	1	16	6	6	山本 浩樹	浜松医療センター 看護師
			10	10	中村 里恵	浜松医療センター 看護師
法律と医療	1	16	16	16	伊藤 祐尚	浜松総合法律事務所 弁護士
社会福祉Ⅰ	1	16	16	16	藤田 直利	社会福祉士
看護学概論	1	30	2	2	海野 直樹	浜松医療センター院長 医師
			28	28	小野 奈津子	看護教員
フィジカルアセスメント	1	30	30	30	土屋 京子	看護教員
共通看護技術論	1	30	20	20	鳥居 千恵	看護教員
			10	10	土屋 京子	看護教員
日常生活援助技術論Ⅰ	1	30	14	14	成岡 千恵子	看護教員
			16	16	石井 幸子	看護教員
日常生活援助技術論Ⅱ	1	30	30	30	澤木 亜紀	看護教員
日常生活援助技術論Ⅲ	1	30	8	8	村松 あんだい	看護教員
			4	4	野嶋 愛	看護教員
			18	18	鳥居 千恵	看護教員
臨床看護方法論	1	30	30	30	小野 奈津子	看護教員
地域・在宅看護概論	1	30	30	30	渡邊 禎子	看護教員
			4	4	下位 彰吾	地域包括支援センター二和 社会福祉士 介護福祉士 介護支援専門員
			4	4	山口 美津子	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 訪問看護サービスコーディネーター 看護師
地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	20	12	12	澤木 亜紀	看護教員

成人看護学概論	1	16	10	10	澤木 亜紀	看護教員
			6	6	藤田 美也子	看護教員
老年看護学概論	1	22	8	8	花島 一哲	西山病院副院長 医師
			8	8	倉田 貞美	元浜松医科大学准教授 看護師
			6	6	横畑 久子	看護教員
母性看護学概論	1	20	2	2	芹沢 麻里子	浜松医療センター医師
			18	18	成岡 千恵子	看護教員
精神看護学概論	1	16	12	12	浅井 大輔	臨床心理士
			4	4	吉川 靖子	訪問看護ステーション あやめ増楽 看護師
生涯発達学	1	28	4	4	嶺岡 永味子	看護教員
			6	6	落合 美智枝	看護教員
			12	12	澤木 亜紀	看護教員
			6	6	横畑 久子	看護教員
家族看護論	1	30	8	8	小野 五月	聖隷三方原病院 家族支援専門看護師
			4	4	佐野 実幸	介護老人保健施設 白梅ケアホーム看護部長 看護師
			6	6	谷口 弥生	看護教員
			4	4	成岡 千恵子	看護教員
			4	4	落合 美智枝	看護教員
			2	2	土屋 正利	好生会三方原病院 看護師

2年生

科目	単位数	時間数	クラス		氏名	
			1組	2組		
教育学	1	30	30	30	羽田野 真帆	常葉大学講師
ART	1	30	4	4	松澤 俊行	浜松学院大学短期大学部 講師
			12	12	菅澤 薫	浜松学院大学短期大学部 講師
			10	10	永岡 和香子	浜松学院大学短期大学部 教授
チームビルディング	1	16	4	4	芹沢 麻里子	浜松医療センター医師
			4	4	土屋 京子	看護教員
			8	8	成岡 千恵子	看護教員
臨床治療論	1	30	2	2	中村 孝始	浜松医療センター 臨床検査技師
			2	2	熊村 ますみ	浜松医療センター 看護師
			2	2	高橋 弘	浜松医療センター 診療放射線技師
			2	2	山口 聡子	浜松医療センター 臨床検査技師
			4	4	鈴木 亜希	浜松医療センター 看護師
			2	2	小田木 智子	浜松医療センター 看護師
			6	6	神谷 智子	浜松医療センター がん化学療法看護認定看護師
			4	4	永田 洋一	浜松医療センター 医師
			2	2	中村 文俊	浜松医療センター 診療放射線技師
			2	2	杉村 洋祐	浜松医療センター 診療放射線技師
			4	4	櫻井 菜未	浜松医科大学 がん放射線療法看護認定看護師
リハビリテーション学	1	16	2	2	矢倉 千昭	聖隷クリストファー大学教授 理学療法士 言語聴覚士
			2	2	有倉 信一	聖隷クリストファー大学 教授 理学療法士
			4	4	新屋 順子	浜松医療センター 理学療法士
			2	2	中神 孝幸	浜松医療センター 理学療法士
			4	4	田中 有希子	浜松医療センター 作業療法士
			2	2	荏原のりこ	浜松医療センター 言語聴覚士
社会福祉Ⅱ	1	16	14	14	河野 ほなみ	地域包括支援センター板屋
			2	2	未定	浜松市 子育て支援課 保健師
			2	2	未定	浜松市 障害保健福祉課 保健師
			2	2	未定	浜松市 高齢者福祉課 保健師
公衆衛生	1	16	16	16	平岡 廣二	薬剤師 臨床検査技師
福祉レクリエーション	1	16	16	16	和久田 一夫	福祉レクリエーション 認定
看護理論	1	16	16	16	小野 奈津子	看護教員
看護過程	1	30	30	30	澤木 亜紀	看護教員
回復促進援助技術論Ⅰ	1	30	10	10	横畑 久子	看護教員
			20	20	成岡 千恵子	看護教員
回復促進援助技術論Ⅱ	1	30	12	12	嶺岡 永味子	看護教員
			4	4	落合 美智枝	看護教員
			4	4	植村 いず美	看護教員
			6	6	袴田 久美子	浜松医療センター 臨床工学士
地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30	12	12	澤木 亜紀	看護教員
			2	2	犬塚 久美子	看護師
			12	12	谷口 弥生	看護教員
			4	4	糸賀 小ゆり	聖隷三方原病院 看護師
地域・在宅看護援助論Ⅲ	1	30	26	26	谷口 弥生	看護教員
			2	2	長谷川 厚子	看護師
			2	2	袴田 智彦	好生会三方原病院 看護師
成人看護学援助論Ⅰ (健康障害別看護援助論Ⅰ)	1	30	8	8	鈴木 麻希子	浜松医科大学病院 慢性呼吸器疾患認定看護師
			2	2	山本 浩樹	浜松医療センター 看護師
			4	4	杉本 雄一	浜松労災病院 看護師
			4	4	加藤 夕子	浜松労災病院 看護師
			4	4	高橋 紫	浜松医科大学 看護師
			6	6	川口 里枝	聖隷三方原病院 看護師
成人看護学援助論Ⅱ (健康障害別看護援助論Ⅱ)	1	30	8	8	福井 諭	聖隷浜松病院 看護師
			6	6	遠藤 祐子	浜松医療センター 看護師
			2	2	岡野 紀子	浜松医療センター 看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師
			6	6	松下 美緒	聖隷浜松病院 看護師
			4	4	小栗 智子	聖隷浜松病院 看護師
			2	2	江間 沙記	浜松医療センター 看護師 摂食・嚥下障害看護認定看護師

成人看護援助論Ⅲ (健康障害別看護援助論Ⅲ)	1	30	4	4	金森 光治	聖隷三方原病院 看護師
			4	4	鈴木 恵里	浜松医療センター 看護師
			2	2	高羽 里佳	浜松医療センター 看護師
			4	4	瀧澤潮美	浜松医療センター 看護師
			4	4	佐野 絢子	浜松医療センター 看護師
			4	4	松永 啓代	浜松医療センター 看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師
			4	4	高柳 昌子	浜松医療センター 看護師
老年看護援助論Ⅰ	1	30	4	4	河本 路加	看護教員
			10	10	藤下 典子	浜松医療センター 看護師 加平中リハビリテーション看護認定看護師
			16	16	横畑 久子	看護教員
老年看護援助論Ⅱ	1	24	4	4	河本 路加	看護教員
			4	4	小梢 雅野	浜松医療センター 看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師
			8	8	奥田 希世子	浜松リハビリテーション病院
			8	8	横畑 久子	看護教員
小児看護援助論Ⅰ	1	28	4	4	宮本 健	浜松医療センター 医師
			4	4	田口 智英	浜松医療センター 医師
			4	4	矢島 周平	浜松医療センター 医師
			2	2	野口 智靖	浜松医療センター 医師
			2	2	坂井 聡	浜松医療センター 医師
			4	4	窪野 ゆづか	浜松医療センター 看護師
			4	4	岩下 和希	国立病院機構天竜病院 看護師
			4	4	藪内 明子	聖隷三方原病院 看護師
小児看護援助論Ⅱ	1	24	8	8	宮木 良美	浜松医療センター 看護師
			16	16	落合 美智枝	看護教員
母性看護援助論Ⅰ	1	30	8	8	嶺岡 永味子	看護教員
			6	6	山口 香苗	助産師
			8	8	松井 浩之	浜松医療センター 医師
			8	8	芹沢 麻里子	浜松医療センター 医師
			4	4	森三和子	浜松医療センター 助産師
母性看護援助論Ⅱ	1	30	4	4	嶺岡 永味子	看護教員
			4	4	松井 浩之	浜松医療センター 医師
			8	8	石井 幸子	看護教員
			6	6	森三和子	浜松医療センター 助産師
			4	4	馬場 徹	浜松医療センター 医師
2	2	平野 佐由利	浜松医療センター 看護師 新生児集中ケア認定看護師			
母性看護援助論Ⅲ	1	16	16	16	嶺岡 永味子	看護教員
精神看護援助論Ⅰ	1	30	4	4	松島 千香子	看護教員
			10	10	未定	医師
			4	4	山村 淳一	天竜病院 医師
			4	4	松島 千香子	看護教員
			4	4	鈴木 多美	精神保健福祉センター 精神保健福祉士
			4	4	吉川 靖子	訪問看護ステーション あやめ増楽 看護師
			4	4	吉川 靖子	訪問看護ステーション あやめ増楽 看護師
精神看護援助論Ⅱ	1	30	4	4	長谷川 菜津紀	看護教員
			4	4	花田 敦子	浜松医科大学付属病院 精神看護専門看護師
			4	4	佐藤 明則	医療法人好生会 三方原病院 看護師
			6	6	渡邊 啓右	看護師
			6	6	土屋 正利	医療法人好生会 三方原病院 看護師
			2	2	鈴木 一樹	医療法人好生会 三方原病院 作業療法士
			6	6	金田 祥史	多機能型事業所 だんだん管理責任者 PCSW 介護支援専門員
			2	2	鈴木 一樹	医療法人好生会 三方原病院 作業療法士
精神看護援助論Ⅲ	1	30	2	2	花田 敦子	浜松医科大学付属病院 精神看護専門看護師
			10	10	松島 千香子	看護教員
			4	4	澤木 亜紀	看護教員
			2	2	松本 明美	白梅豊岡病院 白梅豊岡介護医療院 看護師
経過別看護援助論Ⅰ	1	30	4	4	渡邊 禎子	看護教員
			10	10	土屋 京子	看護教員
			6	6	吉川 陽子	浜松医療センター 看護師 緩和ケア認定看護師
			2	2	吉田 喜久江	聖隷三方原病院 看護師
			2	2	松井 陽子	白梅県居ケアホーム
			4	4	森 里枝子	浜松医療センター 看護師 集中ケア認定看護師
			2	2	山本 浩樹	浜松医療センター 看護師
経過別看護援助論Ⅱ	1	30	6	6	笠原 真弓	浜松医療センター救急看護認定看護師
			4	4	野崎 歩	聖隷三方原病院 小児専門看護師
			8	8	藤田 美也子	看護教員
			4	4	内田 亜美	浜松医療センター 看護師 手術看護認定看護師
			2	2	柴田 佐智代	聖隷三方原病院 看護師
			8	8	齋藤 花菜子	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
			2	2	落合 美智枝	看護教員
経過別看護援助論Ⅲ	1	30	4	4	谷口 弥生	看護教員
			12	12	藤田 美也子	看護教員
			2	2	足立 洋平	すずかけセントラル病院 看護師
			2	2	吉田 喜久江	聖隷三方原病院 看護師

3年生

科目	単位数	時間数	クラス		氏名	
			1組	2組		
倫理学	1	30	30	30	森下 直貴	共生学研究所代表理事 浜松医科大学名誉教授
社会家族論	1	30	30	30	坂田 温志	浜松学院大学短期大学部 准教授 社会福祉士
多文化共生論	1	15	16	16	松岡 真理恵	公益財団法人 浜松国際交流協会
医療安全	1	15	16	16	山本 智美	浜松医療センター 看護師 医療安全推進室
保健福祉行政論	1	15	2	2	海野 直樹	浜松医療センター院長 医師
			2	2	中山 禎司	浜松医療センター 院長補社 医師 浜松医科大学臨床教授
			2	2	内山 千春	浜松医療センター 医療連携室 看護師
			2	2	二宮 貴至	精神保健福祉センター所長 医師
			2	2	浜松市役所健康医療課 担当	
			2	2	浜松市役所健康増進課 保健師	
			2	2	浜松市役所健康増進課 保健師	
			2	2	浜松市役所子育て支援課 保健師	
			2	2	保健環境研究所獣医師	
救急・災害看護	1	30	12	12	吉野 篤人	浜松医科大学教授 医学博士
			22	22	笠原 真弓	浜松医療センター救急看護認定看護師
看護管理	1	16	4	4	杉山 由香	浜松医療センター副院長兼看護部長 看護師 認定看護管理者
			4	4	高橋 円香	浜松医療センター副看護部長 看護師 認定看護管理者
			4	4	稲川 和代	浜松医療センター看護師 認定看護管理者
			4	4	加藤 理恵	浜松医療センター看護師 認定看護管理者
総合看護技術	1	30	22	22	成岡 千恵子	看護教員
			4	4	藤井 浩美	看護教員
			4	4	土屋 京子	看護教員

令和5年度 特別講義

学年	時期	講義予定	時間数	講師予定
1年生	前期	マナー講座	2時間	マイナビ
	後期	進路を考える会	2時間	卒業生
2年生	後期	北遠地域の医療について 山間地域における看護師の役割	2時間 2時間	佐久間病院 三枝智宏院長 看護師長
3年生	後期	トピックス（卒業に向けて）	2時間	未定

令和5年度 年間行事予定(案)

月	日	曜	行事他	月	日	曜	行事他
4	5	水	始業式	10	28	土	推薦入試
	6	木	入学式	11	17	金	学校祭
	7	金	新入生オリエンテーション 3学年交流会		18	土	学校祭(一般公開)
	10	月	新入生オリエンテーション		20	月	学校祭代休
	11	火	防災訓練	12	2	土	一般入学1期試験(1日目)
	11	火	定期健診		9	土	一般入学1期試験(2日目)
28	金	3年生集団凝集性訓練	26		火	1・3年生冬休み入り	
5	1	月	看護の日		29	金	2年生冬休み入り
	2	火	体育祭	1	4	木	1・3年生冬休み終了
	8	月	聴打診		5	金	2年生冬休み終了
6	30	金	人間関係論研修 (富塚協働センター)		31	水	一般入学2期試験
7	17	月	学校説明会(1回目)	2	11	日	看護師国家試験(未定)
	31	月	夏休み入り		13	月	〃 代休
8	25	金	夏休み終了	3	7	木	看護観を語る会
9	14	木	防災訓練		8	金	卒業式
	16	土	学校説明会(2回目)		15	金	修了式

年間登校日数	1年生	2年生	3年生
令和5年度	208日	210日	203日
令和4年度	202日	204日	195日
令和3年度	204日	206日	195日

令和5年度実習施設一覧表

領域	施設名	住所	電話	
基礎看護学 成人看護学 老年看護学 小児看護学 母性看護学 総合実習	公益財団法人 浜松市医療公社 浜松医療センター	〒432-8580 浜松市中区富塚町 328	453-7111	
小児看護学	あゆみ保育園	〒432-8021 浜松市中区佐鳴台 5 丁目 9-5	454-0804	
	独立行政法人 国立病院機構 天竜病院	〒434-8511 浜松市浜北区於呂 4201-2	583-3111	
老年看護学	医療法人社団 一穂会	西山病院	〒432-8001 浜松市西区西山町 500	485-5558
		介護医療院 西山ナーシング	〒432-8001 浜松市西区西山町 411-1	485-5151
		西山ウェルケア	〒432-8001 浜松市西区西山町 411-2	485-5500
	社会福祉法人 ほなみ会	特別養護老人ホーム 南風	〒432-8064 浜松市南区倉松町 593	449-8101
		特別養護老人ホーム第2 南風	〒432-8064 浜松市南区倉松町 598	449-8170
		特別養護老人ホーム 花菜風	〒432-8064 浜松市南区倉松町 741	449-8881
	医療法人社団 白梅会	白梅ケアホーム	〒431-1112 浜松市西区大人見町 3011-1	485-7711
		白梅県居ケアホーム	〒432-8036 浜松市中区東伊場 2-14-35	458-2100
		グループホーム ハーモニー	〒431-1112 浜松市西区大人見町 3028-1	485-7711
	社会福祉法 白梅福祉会	ケアハウス 花	〒431-1112 浜松市西区大人見町 3007-1	482-2000
小規模特養 彩		〒431-1112 浜松市西区大人見町 3010-1	482-1500	
精神看護学	医療法人好生会 三方原病院 デイケアはまゆう	〒432-8063 浜松市南区小沢渡町 2195-2	448-0622	
在宅看護論	セントケア静岡株式会社 訪問看護ステーション富塚	〒432-8002 浜松市中区富塚町 2961-15	476-5111	
	医療法人弘遠会 すずかけグループ 訪問看護ステーション天竜 地域包括支援センター天竜	〒431-3314 浜松市天竜区二俣町二俣 2396-56	925-0031	
		天竜すずかけ病院内	925-0034	
	日本赤十字社静岡県支部 日赤訪問看護ステーション	〒434-0026 浜松市浜北区小林 1088-1	585-3676	
	温故療院 上島こもれびの丘 訪問看護ステーション上島	〒433-8122 浜松市中区上島七丁目 13-18	474-1302	
	訪問看護ステーションしろわ	〒430-0846 浜松市南区白羽町 612-1	442-7233	
	社会福祉法人 聖隷事業団 訪問看護ステーション 住吉	〒433-8125 浜松市中区和合町 555	475-0033	
	社会福祉法人 聖隷事業団 訪問看護ステーション 浅田	〒430-0815 浜松市南区都盛町 193-1	441-8828	
医療法人社団 静岡健生会 訪問看護ステーション あすなろ	〒430-0807 浜松市中区佐藤 1 丁目 22-22	465-5662		

医療法人社団 盛翔会 浜松北病院 おおせデイサービスセンター		〒431-3113 浜松市東区大瀬町 1558	434-8311	
社会福祉法人 七恵会 特別養護老人ホーム 第二長上苑 デイサービスセンター		〒435-0057 浜松市東区中田町 590	411-0022	
浜松市南区健康づくり課		〒430-0898 浜松市南区江之島町 600-1	425-1590	
浜松市西区健康づくり課		〒431-0193 浜松市西区雄踏 1-31-1	597-1120	
医療法人社団 一穂会 西山病院グループ 地域包括支援センター佐鳴台		〒432-8021 浜松市中区佐鳴台 3 丁目 35-21	448-0201	
社会福祉法人	地域包括支援センター板屋	〒430-0928 浜松市中区板屋町 697	456-5600	
慈悲庵	地域包括支援センター鴨江	〒432-8023 浜松市中区鴨江 3 丁目 70-27	456-9962	
社会福祉法人 ほなみ会 地域包括支援センター三和		〒431-0038 浜松市南区三和町 242-1	462-1011	
社会福祉法人 公友会 地域包括支援センター三方原		〒431-2103 浜松市北区新都田 5-12-21	428-6333	
おうちですごす株式会社 訪問看護ステーション初生		〒433-0807 浜松市北区初生町 330-2 エクセディア 3 階	596-9703	
社会福祉法人七恵会 ながかみ保育園		〒435-0057 浜松市東区中田町 778	411-4611	
会 静岡 健康 生	ヘルパーステーションぽぷら	〒430-0807	465-5662	
	デイケア秋桜	浜松市中区佐藤 1 丁目 22-22	465-5674	
医療法人社団 心	坂の上訪問看護ステーション あずきもち	〒433-8113 浜松市中区小豆餅 4-4-20	415-1640	
	暮らしの相談所	〒433-8123 浜松市中区幸 4-6-8	474-5551	
	在宅ケア幸	〒433-8113 浜松市中区小豆餅 4-4-20	401-2111	
	坂の上ろうけん曳馬野通所リハ	〒433-8123 浜松市中区幸 4-36-3	416-2015	
社会福祉法人 浜松社会福祉事業団 浜松市発達医療総合福祉センター はままつ友愛のさと		〒434-0023 浜松市浜北区高藪 775-1	053-586-8800	
社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷おおぞら療育センター		〒433-8558 浜松市北区三方原 3453	053-437-1467	
助産院 大地		〒433-8105 浜松市北区引佐町伊平字林 1299	053-436-9843	
認定 者の 法人	クリエティブ サポートレッツ	障害福祉サービス事業所 アルス・ノヴァ	〒430-0939 浜松市中区連尺町 314-30	053-451-1355
		障害福祉サービス事業所 アルス・ノヴァ入野	〒432-8061 浜松市西区入野町 9156-4	053-440-3176

各領域別臨地実習進度表(令和5年度)

月	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月								
日数 (時間)	13(90)			13(90)			13(90)			12(90)			12(90)			13(90)			13(90)			13(90)			12(90)			12(90)								
	9	15	22	29	5	12	16	26	3	10	18	24		28	4	11		19	25	2	6	16	23	27	6	13	21	27	4	12	18	25		6	13	19
	12	19	25	2	9	13	23	30	4	13	21	26		1	8	13	15	22	28	4	13	20	25	2	10	15	24	1	8	15	22	27		9	16	22
三年一組	母性	小児		精神									老年Ⅱ			在宅			成人Ⅲ			総合実習														
	成人Ⅲ	母性		小児									精神			老年Ⅱ			在宅																	
	在宅	成人Ⅲ		母性									小児			精神			老年Ⅱ																	
	老年Ⅱ	在宅		成人Ⅲ									母性			小児			精神																	
	精神	老年Ⅱ		在宅									成人Ⅲ			母性			小児																	
	小児	精神		老年Ⅱ									在宅			成人Ⅲ			母性																	
三年二組	母性	小児		精神									老年Ⅱ			在宅			成人Ⅲ			総合実習														
	成人Ⅲ	母性		小児									精神			老年Ⅱ			在宅																	
	在宅	成人Ⅲ		母性									小児			精神			老年Ⅱ																	
	老年Ⅱ	在宅		成人Ⅲ									母性			小児			精神																	
	精神	老年Ⅱ		在宅									成人Ⅲ			母性			小児																	
	小児	精神		老年Ⅱ									在宅			成人Ⅲ			母性																	
二年一組							成人実習Ⅰ または 老年実習Ⅰ			成年実習Ⅰ または 老年実習Ⅰ						基礎実習Ⅱ																				
二年二組																																				
一年一組										地域・在宅実習Ⅰ			1組 8/28～9/1 2組 9/4～8						基礎実習Ⅰ																	
一年二組																																				